飯田市議会要覧

『 くらし豊かな　いいだの未来（あす）を　市民とともに 』
～ 市民のしあわせに貢献する議会 ～

令和７年６月

飯田市議会事務局

飯田市市民憲章

わたくしたちの飯田市は、美しい自然に恵まれ、長い歴史と尊い伝統文化につつまれた人情豊かなまちとして知られ、伊那谷の中心都市として躍進しています。

わたくしたちは、このまちの市民としての誇りをもち、明るく健康で豊かな市民生活を築くために、全市民のねがいをこめてこの憲章をかかげ、たがいにはげましあい、手をとりあって進みます。

わたくしたちは

1　自然を大切にし、美しい環境の飯田市をつくります。

2　心身をきたえ、健康で明るい飯田市をつくります。

3　伝統を生かし、文化の香り高い飯田市をつくります。

4　善意を広め、思いやりの心で幸せな飯田市をつくります。

5　楽しく働き、豊かな産業の飯田市をつくります。

（昭和52年７月５日　施行）

市　章　　～市章の象形～

平仮名「い」を組み合わせ「田」を形どり「いいだ」を象形する。

目次

Ⅰ　沿革

1　沿革 …… 1
2　人口と世帯の推移 …… 4
3　飯田市自治基本条例 …… 5

Ⅱ　市議会の構成

1　構成 …… 12
2　議員名簿 …… 14
3　正副議長及び各委員会委員名簿 …… 15
4　監査委員及び南信州広域連合議会議員名簿 …… 15
5　議会選出の各種委員等 …… 16
6　各会派及び各会派の代表者氏名 …… 18

Ⅲ　市議会の活動

1　市議会の活動状況
(1) 市議会招集回数 10 か年比較表 …… 19
(2) 議会開会状況 …… 19
(3) 議会審議状況 …… 20
2　報酬・その他 …… 21
3　定期刊行物 …… 22
4　市議会会議録 …… 22
5　議会事務局の事務分掌 …… 23

Ⅳ　飯田市の概要

1　令和７年度飯田市各会計及び一般会計当初予算の概要 …… 24
2　飯田市行政組織機構図 …… 28
3　職員の定数 …… 30

【 資料編 】

Ⅴ　市議会のあゆみ

1　市議会議員選挙執行状況 …… 31
2　歴代市議会議員
(1) 歴代議長 …… 32
(2) 歴代副議長 …… 33
(3) 歴代総務常任委員会正副委員長 …… 34
(4) 歴代社会文教常任委員会正副委員長 …… 35
(5) 歴代産業建設常任委員会正副委員長 …… 36
(6) 歴代予算決算常任委員会正副委員長 …… 37
(7) 歴代建設環境常任委員会正副委員長 …… 37
(8) 歴代議会運営委員会正副委員長 …… 38
(9) 歴代監査委員（議会選出） …… 39
(10) 歴代事務局長 …… 40
(11) 歴代市議会議員 …… 41
3　1年間の記録
(1) 付議事件及び議決結果一覧表 …… 48
(2) 議会において執行した選挙・選任等 …… 57
(3) 委員会活動開催状況 …… 57
(4) 請願陳情 …… 58
(5) 定例会の質問事項 …… 59
(6) 本会議等傍聴状況 …… 86
4　市議会のあゆみ（昭和46年から） …… 87

Ⅵ　参考資料

1　都市宣言 …… 107
2　市政提携に関する覚書 …… 111
3　友好都市締結 …… 111
4　飯田市の主要年表 …… 112

Ⅰ　沿　革

１－１　飯田市の沿革

飯田市は、長野県の最南端に位置する伊那谷の中心都市である。諏訪湖に源を発し、伊那谷を南下して太平洋に注ぐ天竜川の全長のほぼ中央に位置し、東に南アルプス国立公園、西に中央アルプス県立公園をひかえ、豊かな自然、優れた景観及び四季に富んだ暮らしやすい温暖な気候に恵まれている。天竜川沿いに形成された日本有数の段丘に位置する市街地から南アルプスの山懐に抱かれる遠山郷までにわたる658.66平方キロメートルの市域に94,193人（令和７年４月１日現在）の人口を擁し、地域に根ざした特色ある住民活動や産業活動等が幅広く展開されている。

現在の飯田市街は飯田城の城下町であり、街並みの様相から「小京都」と呼ばれてきたが、昭和22年４月に市街地の３分の２を焼失する大火に見舞われた。以後面目を改め、防火モデル都市、さらに近年は環境モデル都市として注目されている。

近世の太宰春台、近代の菱田春草、田中芳男、河竹繁俊、日夏耿之介等学芸の士の生誕地であり、りんご並木のまち、人形劇のまちとして親しまれ、名勝天龍峡があり、豪快な天竜川下りが楽しめるほか、遠山郷の霜月まつり、各地に伝わる獅子舞など、伝統文化が豊富な地である。

昭和12年４月１日に飯田町と上飯田町が合併して市制を施行、以来、15町村と合併し、今日の飯田市の市域を成している。

「伊那谷の夜明け」とまで言われ、多くの市民が期待していた中央自動車道西宮線は、昭和50年８月23日に中津川―駒ヶ根間が開通し、昭和57年11月10日に全線開通となり、飯田地方と中京圏、首都圏との経済、文化の交流が飛躍的に拡大した。

また、東海地域と飯田を結ぶ三遠南信自動車道においては、平成６年３月29日に矢筈トンネルが、平成20年４月13日には飯田山本ＩＣ―天龍峡ＩＣ間が、平成30年３月11日には飯喬道路龍江―飯田上久堅・喬木富田ＩＣ間が、令和元年11月17日には天龍峡ＩＣ―龍江ＩＣ間が開通、令和６年には青崩峠トンネル（仮称）の本坑が貫通し、全線開通を目指しての建設が進行している。

天龍峡ＩＣ―龍江ＩＣ間には、文化財保護法により国の重要文化財に指定される「名勝天龍峡」があり、この名勝の歴史ある良好な景観との調和を図るため、峡谷のV字地形に収まり、背後のスカイラインを阻害しない「鋼上路式アーチ橋」の天龍峡大橋を整備した。名勝地を横断する自動車専用道の架橋事業は前代未聞の

プロジェクトであった。

令和３年３月28日には、リニア中央新幹線開業時の広域観光支援を目的に、中央自動車道からのアクセスとして座光寺スマートインターチェンジが開通した。

リニア中央新幹線については、平成25年９月にルート及び長野県駅が飯田市上郷飯沼に設置される計画が公表され、令和４年８月には中央アルプストンネル松川工区本線トンネルの掘削工事が開始となった。ＪＲ東海から当初予定されていた2027年開業の延期が発表されたが、長野県の南の玄関口、また、三遠南信地域の北の玄関口にふさわしいリニア駅とその周辺整備に向けた準備が進められている。

激的に近くなる首都圏と中京圏との連結地域として、ますます本市の果たす役割が期待される。

１－２　市議会の沿革

飯田市議会は、昭和31年に１市７か村を廃し、その区域をもって市制を施行したことに伴い、旧市村の議員が引き続き市議会議員（総員149人）として在任、同年10月８日に臨時会が開かれ、初代議長に代田源六郎氏、初代副議長に伊藤清氏が選出された。

市議会議員の定数は、昭和32年３月12日の定例会において「飯田市議会議員の選挙区及び各選挙区における議員の数に関する条例」（小選挙区制）を可決。以後、議員定数の見直しと合併による増員などの変遷を経てきた。

平成19年５月、新しい時代にふさわしい地方議会の在り方を模索する中で、市民にとってわかりやすく開かれた議会を目指し「議会改革検討委員会」を設置した。委員会では、「議員の在り方の変革を目指して」ほか５項目を議論する中、平成21年４月19日執行の議員選挙から定数を29人から23人に削減し、常任委員会の所属についても複数所属とし、一人の議員が二つの常任委員会に所属することとした。平成25年４月21日執行の議員選挙後は委員会活動をさらに充実させるため、議員は一つの常任委員会に所属することとした。

飯田市議会の取り組みとして最も注目されるのは、「飯田市自治基本条例」の制定である（平成19年４月施行）。その端緒は、平成15年５月の政策立案型議会への転換を目指した議会議案検討委員会の設置にある。翌16年５月には市民を委員として「わがまちの“憲法”を考える市民会議」が発足。同会議は条例の制定に向けた研究を行い、その成果を最終答申書にまとめ、議長に提出した。これを受け市議会では翌17年５月に自治基本条例特別委員会を設置し、二度にわたる地区懇談会及び議会によるパブリックコメントの実施を経た後、平成18年９月に条例案を議会議案として提案し、全会一致で可決した。

この条例の制定を契機に、平成20年度から「議会による行政評価」がスタートするとともに、開かれた議会を実現するため「議会報告会」を毎年開催している。平成23年１月には、条例中の「議会の役割」について議会による検証が始まり、平成24年３月には、「議会改革・運営ビジョン」として取りまとめ、常設の機関として「議会改革推進会議」を設置するに至った。議会改革推進会議では、課題を整理し、平成25年３月に「議会改革・運営ビジョン実現に向けた取組み（まとめ）」として集約している。

その後、平成25年４月には議会報告会を含む広報広聴活動を充実させるため、「広報広聴委員会」を設置した。

平成30年12月、議会による予算決算審査のあり方についての研究を目的とした予算決算審査検討プロジェクトが発足した。以降、約半年間にわたるプロジェクト会議等を経て、令和元年５月の臨時会において、常任委員会として「予算決算委員会」を設置するとともに、「議会による行政評価」を予算決算委員会の所管とした。飯田市総合計画の「いいだ

未来デザイン2028」に掲げられた前年度の戦略計画を中心に基本目標ごとの評価及び検証を行い、令和元年９月に市長へ提言書を提出した。

令和２年度においては、基本目標及び戦略計画を評価対象とした政策的評価と、決算審査を政策へつなげる事務事業評価の２層式による議会行政評価の取り組みを行い、「いいだ未来デザイン2028」の中期計画の策定に向けて提言書を市長に提出した。

令和３年２月の第１回定例会から「議会機能の強化」を目的に、議会ＩＣＴ化を推進するため、タブレット端末を活用した議案審議を開始した。

令和４年２月の第１回定例会では、市議会委員会等の会議におけるオンライン会議の実施への対応として、災害や感染症まん延防止の点から、委員会などの会議においてオンライン会議を実施するため、飯田市議会委員会条例や会議規則などの改正を行った。このことで、非常事態においても議会の機能が維持できる体制を整えることができた。

令和４年３月には、「地方議会成熟度評価モデル」の導入に向けて、大正大学の江藤俊昭教授を招き「キックオフ講演会」を開催。議会改革・運営ビジョンの策定から10年が経ち、社会環境が変化するなかで、これまでの制度・運用を再確認するとともに、議会の理想的な姿を明確にして議会改革を進める「地方議会成熟度評価モデル」に全議員で取り組み、飯田市議会に期待される役割（ミッション）や飯田市議会が実現すべき理想的な姿（ビジョン）などを明確にした「飯田市議会プロフィール」を作成した。

現在、議会が目指す理想的な姿を実現するため「新・議会改革運営ビジョン」の公表を目指し、ロードマップの作成に取り組んでいる。

また、10月には、地方自治法で常任委員会による主体的な活動として位置づけられている所管事務調査について、常任委員会が専門性と特性を生かし、その機能を十分発揮できるように「常任委員会における所管事務調査ガイドライン」を策定した。

令和６年度の議会による行政評価では、中期計画の最終年にあたることから、「いいだ未来デザイン2028後期基本計画策定」に向け、執行機関側から「中期計画の振り返り」とともに、「後期基本計画の素案（基本目標の枠組み）」について説明を受け、予算決算委員会各分科会及び必要に応じて連合会議による専門的な評価を行い、予算決算委員会全体会で最終とりまとめをして、市長へ提言書を提出した。

また、予算決算委員会準備会を政策会議へと発展的な組織変更を行った。

人形劇フェスタのイメージキャラクター「ぽぉ」です。太り気味の妖精でリンゴ並木に住んでいるそうです。

2 人口と世帯の推移

（単位：世帯・人・㎢）

年　月	世帯数	人口	男	女	面積
昭和31. 9	14,627	69,235			199.78
昭和36. 3	16,018	69,538			206.07
昭和39. 3	19,179	79,541			293.03
昭和54. 4	20,870	77,860	36,794	41,066	〃
昭和59. 4	21,872	78,665	37,331	41,334	〃
昭和60. 4	26,458	92,132	43,776	48,356	299.23
昭和63. 4	26,709	92,050	43,810	48,240	〃
平成 1. 4	26,824	91,846	43,778	48,068	〃
平成 2. 4	27,033	91,806	43,721	48,085	298.90
平成 3. 4	27,277	91,723	43,739	47,984	〃
平成 4. 4	27,467	91,612	43,695	47,917	〃
平成 5. 4	27,732	91,684	43,819	47,865	〃
平成 6. 4	32,507	106,104	50,754	55,350	325.35
平成 7. 4	32,829	106,233	50,841	55,392	〃
平成 8. 4	33,183	106,472	50,991	55,481	〃
平成 9. 4	33,577	106,495	50,971	55,524	〃
平成10. 4	33,975	106,695	51,142	55,553	〃
平成11. 4	34,233	106,464	51,093	55,371	〃
平成12. 4	34,519	106,479	51,135	55,344	〃
平成13. 4	34,870	106,456	51,093	55,363	〃
平成14. 4	35,056	106,161	50,947	55,214	〃
平成15. 4	35,382	106,078	50,893	55,185	〃
平成16. 4	35,382	105,846	50,728	55,118	〃
平成17. 4	35,807	105,411	50,511	54,900	〃
平成18. 4	37,190	107,593	51,640	55,953	658.76
平成19. 4	37,395	106,993	51,253	55,740	〃
平成20. 4	37,787	106,770	51,138	55,632	〃
平成21. 4	37,682	105,867	50,693	55,174	〃
平成22. 4	37,801	105,372	50,407	54,965	658.73
平成23. 4	37,886	104,771	50,146	54,625	〃
平成24. 4	38,087	104,291	49,931	54,360	〃
平成25. 4	39,040	105,750	50,445	55,305	〃
平成26. 4	39,108	104,954	50,076	54,878	〃
平成27. 4	39,358	104,284	49,884	54,400	658.66
平成28. 4	39,656	103,712	49,623	54,089	〃
平成29. 4	39,711	103,023	49,343	53,680	〃
平成30. 4	39,735	102,012	48,859	53,153	〃
平成31. 4	39,896	101,111	48,630	52,481	〃
令和 2. 4	39,962	100,008	48,150	51,858	〃
令和 3. 4	40,064	98,921	47,709	51,212	〃
令和 4. 4	40,076	97,750	47,145	50,605	〃
令和 5. 4	40,151	96,557	46,679	49,878	〃
令和 6. 4	40,257	95,400	46,179	49,221	〃
令和 7. 4	40,345	94,193	45,613	48,580	〃

※平成25.4以後は住民基本台帳法の改正により外国人を含む数字

特記事項

・昭和31年 9月 ：飯田市、座光寺村、松尾村、竜丘村、三穂村、伊賀良村、山本村及び下久堅村の１市７か村を合併
・昭和36年 3月 ：川路村を編入合併
・昭和39年 3月 ：上久堅村、千代村及び龍江村を編入合併
・昭和59年12月 ：鼎町を編入合併
・平成 5年 7月 ：上郷町を編入合併
・平成17年10月 ：上村及び南信濃村を編入合併
・平成22年 2月 ：天龍村との境界を修正
・平成26年10月 ：国土地理院が、計測方法を変更したことによる面積の修正

飯田市自治基本条例

平成18年9月21日条例第40号
一部改正：平成23年11月30日条例第25号
一部改正：平成25年3月25日条例第2号
一部改正：令和２年12月25日条例第39号

目次

前文
第１章　総則（第１条―第３条）
第２章　自治の基本原則（第４条―第７条）
第３章　市民等の役割（第８条―第 10 条）
第４章　地域自治（第 11 条―第 15 条）
第５章　市政運営（第 16 条―第 21 条）
第６章　市議会の役割（第 22 条―第 27 条）
第７章　市の執行機関の役割（第 28 条―第 34 条）
第８章　住民投票（第 35 条）
第９章　条例の見直し（第 36 条）

附則

わたくしたちの住む飯田市は、美しい自然に恵まれ、地域の風土に根付いた伝統や文化に支えられた人情豊かなまちとして知られ、伊那谷の中心都市として躍進しています。

わたくしたちは、これまで互いに助け合い協力し、特色のある地域活動やまちづくりを実践してきました。

わたくしたちは、分権型社会や少子高齢社会の到来により、社会構造が大きく変化する中で、まちづくりに進んで参加する「ムトス」の精神を、次の時代へ確実に引き継がなくてはなりません。

わたくしたちは、飯田市市民憲章にうたわれた市民としての心構えと理念を尊重し、協働して、市民が主体の住みよいまちづくりを推進するため、ここに、新たな自治の仕組みを定める飯田市自治基本条例を制定します。

第１章　総則

（目的）

第１条　この条例は、本市の自治の基本的な原則及びまちづくりに関する市民、市議会及び市の執行機関の役割を明らかにするとともに、市政運営についての基本的な指針を定めることにより、市民が主体のまちづくりを協働して推進することを目的とします。

（条例の位置付け）

第２条　この条例は、自治及び市政に関する基本的な原則を定めた最高規範であり、市民及び市は、この条例を誠実に遵守するものとします。

２　市は、条例、規則等を解釈し、又は制定、改廃する場合には、この条例の趣旨を尊重し、この条例に定める事項との整合性を図ります。

３　市は、基本構想等の計画の策定、政策の立案及び実施に当たっては、この条例の趣旨を尊重

し、この条例に定める事項との整合性を図ります。

（用語の定義）

第３条　この条例において使用する用語の意義は、次のとおりとします。

(1)　市民　市内に住所を有する人（以下「住民」といいます。）、市内で働き、若しくは学ぶ人又は市内において活動する人若しくは団体をいいます。

(2)　市民組織　市民により自主的に形成され、まちづくりのために、互いに協力し多様な活動を行う組織をいいます。

(3)　事業者　市内で、事業を営む個人及び法人その他の団体をいいます。

(4)　市　市議会及び市の執行機関で構成する地方公共団体をいいます。

(5)　市の執行機関　市長、教育委員会、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会、農業委員会及び固定資産評価審査委員会をいいます。

(6)　まちづくり　「ムトス」の言葉に象徴される、まちを活気のある明るく住みよくするための事業や活動を総称します。

(7)　自治　市民が市政に参加し、その意思と責任に基づき市政が行われることのほか、地域の公共的活動を自ら担い、主体的にまちづくりを推進することをいいます。

(8)　協働　まちづくりのために、市民と市とが情報を共有し、それぞれの役割を担いながら対等の立場で協力し、共に考え行動することをいいます。

(9)　基本構想　本市における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本となる考え方をいいます。

第２章　自治の基本原則

（自治の基本原則）

第４条　市民と市とは、この章に掲げる自治の原則に基づき、協働して自治を推進するものとします。

（市民主体の原則）

第５条　まちづくりは、市民一人ひとりが主体となり、市民相互及び市と協調することにより推進します。

２　市民は、地域社会の一員として尊重され、その個性や能力を十分発揮することができます。

（情報共有の原則）

第６条　まちづくりは、市政についての情報が市民に公開され、市民が市政について意見を提出し、その情報や意見を市民と市とが共有することにより推進します。

（参加協働の原則）

第７条　まちづくりは、市民に市政への多様な参加の場と機会とが保障され、市民と市とが適切に役割分担し、協働することにより推進します。

第３章　市民等の役割

（市民の権利）

第８条　市民は、まちづくりの主体として、まちづくりに参加する権利を有します。

２　市民は、市政に関する計画や政策の立案段階から参加する権利を有し、意見を述べることが

できます。
3　市民は、市政についての情報を知る権利を有し、市に対し市が保有する情報の公開を求めることができます。

（市民の役割）
第９条　市民は、まちづくりの主体として、市と協働し、地域社会の発展に寄与するよう努めます。
2　市民は、互いの活動を尊重し、自らの発言と行動に責任を持つものとします。

（事業者の役割）
第 10 条　事業者は、地域社会の一員として、地域社会との調和を図るとともに、従業員の行う地域活動にも配意し、まちづくりに寄与するものとします。

第４章　地域自治

（市民組織の尊重）
第 11 条　市は、市民組織の自主性及び自立性を尊重し、市民組織が活動するために必要な支援を行います。
2　市民は、市民組織がまちづくり推進の主要な担い手であることを認識し、市民組織を尊重し、守り育てるものとします。

（地域自治の推進）
第 12 条　市は、地域の特性と自主性が生かされた、個性豊かで魅力ある地域のまちづくりを推進するため、自治の基本原則に基づき、分権によるまちづくりの仕組みを目指します。

（地域自治区）
第 13 条　市は、市民に身近な事務事業を市民の意見を反映させて処理するとともに、地域の自治を促進するため、法律に基づく地域自治区を設けます。
2　地域自治区に置かれる地域協議会は、地域の住民により構成され、地域の意見を調整し、協働によるまちづくりを推進します。

（まちづくりのための委員会等）
第 14 条　市は、市民組織が地域のまちづくりに取り組むため組織する委員会等の自主的及び自立的な運営を尊重します。

（自治活動組織）
第 15 条　市民は、地域社会の一員として、自治活動組織（地域市民により形成され、まちづくりに取り組む市民組織をいいます。）の役割について理解を深め、協力するとともに、自治活動組織への加入に努めます。
2　市民は、可能な範囲内で、自治活動組織の活動に参加し、地域社会において個性や意欲を発揮することができるものとします。
3　自治活動組織は、地域市民の加入や参加が促進されるために必要な環境づくりに努めます。

第５章　市政運営

（協働して行う市政運営）
第 16 条　市は、市政に関する計画や政策の立案段階から市民の参加を促進し、市民と協働して市政運営を行います。
２　市は、市民の多様な参加の機会を整備し、協働のまちづくりを推進し、自治の拡充を図ります。

（市民意見の公募）
第 17 条　市は、別に定めるところにより、重要な計画及び政策の策定又は変更について事前に案を公表し、市民の意見を求めます。
２　市は、市民から提出された意見を尊重し、意見についての考え方を公表します。

（附属機関の委員の任命）
第 18 条　市の執行機関は、特定事項について審議又は調査等を行う附属機関に、市民の多様な意見が反映されるように委員を任命します。

（情報の公開）
第 19 条　市は、公正で開かれた市政の実現を図るため、市政についての情報の公開に関する総合的な施策に基づき、積極的に情報を公開します。
２　市は、市民の必要とする情報について、適切かつ速やかな提供に努めます。

（個人情報の保護）
第 20 条　市は、市民の個人情報に関する権利を保障するとともに、個人情報を適正に管理します。

（基本構想等）
第 21 条　市は、まちづくりの理念に基づき、市議会の議決を経て基本構想を定め、総合的かつ計画的な市政運営に努めます。
２　市は、基本構想、基本計画その他市の施策の基本となる計画を策定するに当たっては、市民参加の機会を保障します。

第６章　市議会の役割

（市議会の責務）
第 22 条　市議会は、市民の代表機関として、市という団体の意思決定機関であり、法律若しくはこれに基づく政令又は条例の定めるところにより議決の権限を行使し、市民の意思が的確に反映されるよう活動します。
２　市議会は、市の執行機関の活動を監視、評価することにより、適正な行政運営の確保に努めます。
３　市議会は、政策の立案、提言の内容の充実を図るための調査研究活動に努めます。
４　市議会は、合議体として論点、課題等について議論を深めるため、議員相互間の自由な討議を重んじて活動します。

（開かれた議会運営）

第 23 条　市議会は、市議会が保有する情報を公開するとともに、会議及び委員会等を公開し、並びに議会活動について市民に説明することにより、市民との情報の共有に努めます。
２　市議会は、市民の意見を聞くため議会活動への市民参加を推進し、市民に開かれた議会運営に努めます。
３　市議会は、市民への議会活動の報告、市民との意見交換の場の開催等を通じ、前２項に規定する事項の実現に努めます。

（市議会議長の責務）
第 24 条　市議会議長は、市議会を代表し、公正中立に職務を遂行するとともに、円滑かつ効率的な議会運営を図るよう努めます。
２　市議会議長は、市議会に関する事務を統一的に処理するため、議会事務局の職員を適切に指揮監督し、職員の能力の向上を図るよう努めます。

（市議会議員の責務）
第 25 条　市議会議員は、市民の意向把握や情報収集に努め、市民全体の利益を優先して政策提言を行います。
２　市議会議員は、政治倫理の確立に努め、公正かつ誠実に責務を遂行し、市民の負託にこたえます。
３　市議会議員は、市議会の役割及び責務を自覚し、その誠実な遂行のため自己研鑽に努めます。

（政策の調査、審議のための機関）
第 26 条　市議会は、政策の調査、立案のために必要な専門的事項に係る調査、審議を、学識経験を有する者等に求めることができます。
２　市議会は、前項の学識経験を有する者等の指定に当たっては、市民の多様な意見が反映されるようにします。

（市議会事務局職員の責務）
第 27 条　市議会事務局職員は、市議会の持つ権能が十分発揮されるよう、全力をあげて市議会の活動を補佐します。
２　市議会事務局職員は、職務の遂行に必要な知識と能力の向上に努めます。

第７章　市の執行機関の役割

（市長の責務）
第 28 条　市長は、市の代表者として公正かつ誠実に市政を運営します。
２　市長は、自治の基本原則に基づき、市の計画及び政策の策定、実施、評価等を行います。
（市の執行機関の責務）
第 29 条　市の執行機関は、条例、予算その他の議会の議決に基づく事務及び法令、規則その他の規程に基づく事務を適正に管理、執行します。

（市の執行機関の組織運営）
第 30 条　市の執行機関は、行政組織について効率的かつ機能的なものとするとともに、相互の連携を図り、最小の経費で最大の行政効果を上げるよう運営します。
２　市の執行機関は、職員を適切に指揮監督し、職員の能力の向上を図るよう努めます。

（説明責任）
第 31 条　市の執行機関は、行政運営の透明性を高めるため、市政について、市民に分かりやすく説明する責任を果たします。
２　市長その他の執行機関は、市議会に対して、市政に関する意思決定の過程及び行政運営の状況を随時報告するものとします。

（行政評価）
第 32 条　市の執行機関は、市の施策や事務事業の執行状況を、基本構想等に基づき検証し、継続的な見直しを行い、効果的に執行します。
２　市の執行機関は、施策や事務事業の達成状況を公表し、市民から理解を得られる行政運営を進めます。

（財政状況の公表）
第 33 条　市長は、市の財源の確保とその効率的かつ効果的な運用により、財政の健全性に努めます。
２　市長は、財政状況を市民にわかりやすく公表するように努めます。

（市の執行機関の職員の責務）
第 34 条　市の執行機関の職員は、全体の奉仕者として、公平、公正かつ誠実に、全力をあげて職務を遂行します。
２　市の執行機関の職員は、職務の遂行に必要な知識と能力の向上に努めます。

第８章　住民投票

（住民投票）
第 35 条　市は、市政の特に重要な事項について、直接住民の意思を確認する必要があるときは、市議会の議決を経て住民投票を実施することができます。
２　市は、住民投票の結果を尊重します。
３　住民投票の実施に関し必要な事項は、その都度条例で定めます。

第９章　条例の見直し

（条例の見直し）
第 36 条　市は、社会の変化に対応して、本条例が第１条の目的を達成するために必要があるときは、条例の見直しを行います。

附　則
この条例は、平成 19 年４月１日から施行します。

附　則（平成 23 年 11 月 30 日条例第 25 号）
この条例は、公布の日から施行する。

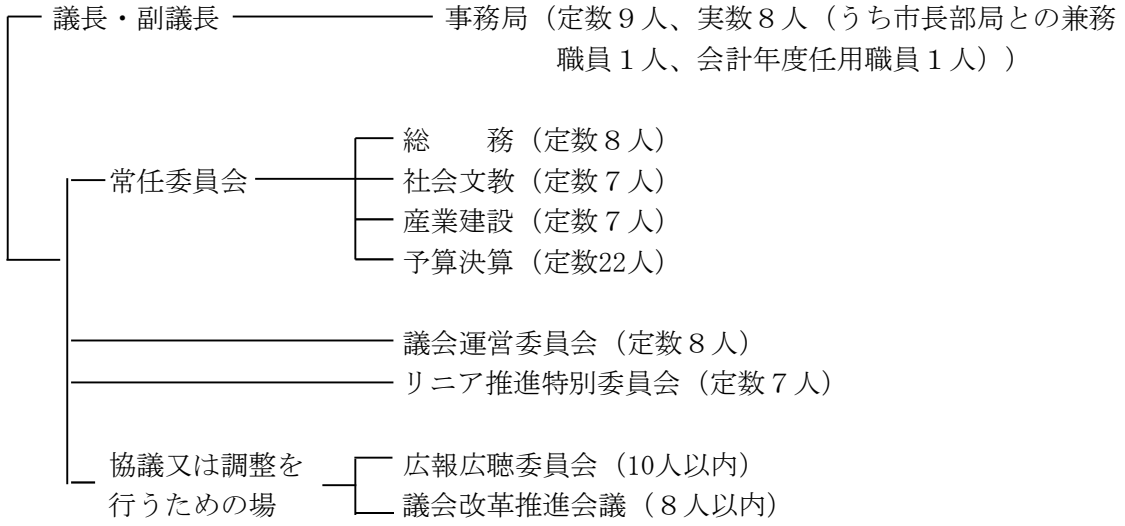
附　則（平成 25 年３月 25 日条例第２号）
この条例は、公布の日から施行する。

附　則（令和２年 12 月 25 日条例第 39 号）

この条例は、公布の日から施行する。

Ⅱ　市議会の構成　（令和７年５月31日現在）

１　構成



(1) 常任委員会

ア　所管事項

(ｱ) 総務委員会：総務部、企画部、市民協働環境部、危機管理部、会計管理者、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会及び固定資産評価審査委員会の所管に属する事項並びに他の委員会の所管に属さない事項

(ｲ) 社会文教委員会：福祉部、こども未来健康部及び教育委員会の所管に属する事項並びに病院事業に関する事項

(ｳ) 産業建設委員会：リニア推進部、産業経済部、建設部、上下水道局、水道局及び農業委員会の所管に属する事項

(ｴ) 予算決算委員会：予算及び決算並びに基本構想に関する事項

イ　任期　２年

(2) 議会運営委員会

ア　所管事項

(ｱ) 議会の運営に関する事項

(ｲ) 議会の会議規則、委員会条例等に関する事項

(ｳ) 議長の諮問に関する事項

イ　任期　２年

(3) リニア推進特別委員会

ア　所管事項

リニア推進ロードマップの取組を確認し、リニア駅前広場整備の進捗状況、整備後の活用方法の検討状況及びリニア本線工事等による市民生活への影響について継続的な調査に関する事項

イ　任期　２年

(4) 広報広聴委員会（協議又は調整を行うための場）

ア　所管事項

(ｱ) 議会広報紙の編集及び発行に関する事項

(ｲ) 議会ホームページの管理運営に関する事項
(ｳ) テレビジョン放送及びインターネットを活用した会議公開に関する事項
(ｴ) 会議傍聴の推進に関する事項
(ｵ) 市民への講座等の開催に関する事項
(ｶ) 市民への議会活動の報告、市民との意見交換の場の企画運営その他市民からの意見の取扱いに関する事項
(ｷ) その他議会の広報に関する事項

イ　任期　２年

(5) 議会改革推進会議（協議又は調整を行うための場）

ア　所管事項
(ｱ)飯田市議会の改革に関する調査研究
(ｲ)議会改革・運営ビジョン（平成24年３月22日決定）の実践状況の検証
(ｳ)議長又は議会運営委員会から諮問された事項に関する調査審議
(ｴ)その他推進会議の設置の目的のために必要な事項

イ　任期　２年

(6) 議員

ア　任期　令和７年４月28日から令和11年４月27日まで
イ　条例定数　23人
ウ　現員数　23人
(ｱ) 党派別
公明党　３人　　日本共産党　２人　　日本維新の会　１人　　参政党　１人
無所属　16人
(ｲ) 会派別
会派きぼう　10人　　新政いいだ　７人　　公明党　３人　　日本共産党　２人
無会派　１人

2 議員名簿

番号	氏　　名	会　派	期数	郵便番号	住　　所	電　　話
1	大平　雲龍	会派きぼう	1	395-0024	飯田市東栄町(事務所)	080-5108-0040
2	水月　レイ	会派きぼう	1	395-0004	飯田市上郷黒田	090-9665-6126
3	森本　紘司	新政いいだ	1	395-0043	飯田市通り町	0265-22-0833
4	正木　利幸	新政いいだ	1	395-0001	飯田市座光寺	0265-24-5766
5	岡本　恒和	新政いいだ	1	395-0061	飯田市正永町	0265-53-8767
6	岡村　弘子	公明党	1	399-2565	飯田市桐林	0265-26-8231
7	野崎　直仁	―	1	395-0157	飯田市大瀬木	0265-49-0257
8	遠山　　雄	会派きぼう	1	395-0012	飯田市大王路	070-4080-4217
9	片町　元彦	会派きぼう	1	399-1311	飯田市南信濃和田	0260-31-0552
10	松岡　秀治	会派きぼう	1	395-0151	飯田市北方	0265-25-7341
11	長谷部春生	会派きぼう	2	395-0825	飯田市松尾城	0265-28-8100
12	佐々木博子	新政いいだ	2	395-0806	飯田市鼎上山	0265-52-2260
13	小平　　彰	新政いいだ	2	395-0803	飯田市鼎下山	0265-22-1256
14	宮脇　邦彦	公明党	2	395-0152	飯田市育良町	0265-53-4465
15	市瀬　芳明	日本共産党	2	399-2565	飯田市桐林	0265-26-6324
16	関島　百合	会派きぼう	2	395-0813	飯田市毛賀	0265-23-7479
17	福澤　克憲	会派きぼう	3	395-0025	飯田市東中央通	0265-53-1285
18	竹村　圭史	会派きぼう	4	395-0244	飯田市山本	0265-25-2247
19	清水　　勇	会派きぼう	6	399-2221	飯田市龍江	0265-27-2569
20	下平　恒男	新政いいだ	2	399-2561	飯田市駄科	0265-26-8045
21	清水優一郎	新政いいだ	3	399-2223	飯田市千栄	0265-27-4858
22	小林　真一	公明党	3	399-2601	飯田市虎岩	0265-29-8167
23	古川　　仁	日本共産党	4	395-0803	飯田市鼎下山	0265-53-3792

年齢別議員数　　（令和７年５月31日現在）

年齢	25～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
人員	1	2	6	8	5	1	23

当選回数別議員数　　（令和７年５月31日現在）

当選回数	１回	２回	３回	４回	５回	６回	７回	計
人員	10	7	3	2	0	1	0	23

3　正副議長及び各委員会委員名簿

(1) 議長及び副議長　　（令和７年５月12日改選）

議　　長	竹村　圭史	副　議　長	清水　優一郎

(2) 委員会　　（令和７年５月13日改選）

◎印……委員長　　○印……副委員長

委　員　会　名	委　　員
総務委員会 （８人）	◎福澤　克憲　○市瀬　芳明　岡本　恒和　岡村　弘子 片町　元彦　佐々木博子　関島　百合　清水優一郎
社会文教委員会 （７人）	◎下平　恒男　○宮脇　邦彦　水月　レイ　森本　紘司 松岡　秀治　長谷部春生　古川　仁
産業建設委員会 （７人）	◎小林　真一　○小平　彰　大平　雲龍　正木　利幸 野崎　直仁　遠山　雄　清水　勇
予算決算委員会 (22人)	◎清水優一郎　○小林　真一　ほか議長を除く全議員
議会運営委員会 （８人）	◎佐々木博子　○長谷部春生　小平　彰　宮脇　邦彦 福澤　克憲　清水　勇　下平　恒男　小林　真一
リニア推進特別委員会 （７人）	◎小平　彰　○小林　真一　大平　雲龍　正木　利幸 野崎　直仁　遠山　雄　清水　勇
広報広聴委員会 （９人）	◎関島　百合　○長谷部春生　水月　レイ　森本　紘司 岡本　恒和　岡村　弘子　野崎　直仁　松岡　秀治 市瀬　芳明
議会改革推進会議 （８人）	◎古川　仁　○佐々木博子　大平　雲龍　正木　利幸 岡村　弘子　片町　元彦　長谷部春生　関島　百合

4　監査委員及び南信州広域連合議会議員名簿

(1) 監査委員　（選任に同意）　　（令和７年５月13日選任）

推 薦 基 準	氏　　名
議員から１人を推薦 市長が議会の同意を得る。	清水　　勇

(2) 南信州広域連合議会議員　　(令和７年５月13日選任)

推 薦 基 準	任期	氏　　名
議員から12人 正副議長（２） ３常任委員長（３） 会派按分（７）	４年（議員の任期） （２年で改選）	竹村　圭史　　清水優一郎 福澤　克憲　　下平　恒男 小林　真一　　佐々木博子 小平　　彰　　宮脇　邦彦 市瀬　芳明　　関島　百合 清水　　勇　　古川　　仁

３常任･･･総務、社会文教、産業建設

5　議会選出の各種委員等

(1) 附属機関等の委員名簿　　(令和７年５月13日選任)

名　　称	推 薦 基 準	任期	氏　　名
民生委員推薦会 （２人）	社文正副委員長	在職期間	下平　恒男　　宮脇　邦彦
都市計画審議会 （５人以内）	総務委員長 社会文教委員長 産業建設委員長 産業建設副委員長 リニア推進特別委員長	在職期間	福澤　克憲　　下平　恒男 小林　真一　　小平　　彰
国民保護協議会 （３人）	３常任委員長	在職期間	福澤　克憲　　下平　恒男 小林　真一
防災会議 （３人）	３常任委員長	在職期間	福澤　克憲　　下平　恒男 小林　真一
土地利用計画審議会	都市計画審議会委員	在職期間	福澤　克憲　　下平　恒男 小林　真一　　小平　　彰

３常任･･･総務、社会文教、産業建設

(2) その他の団体の役員　　(令和７年５月13日選任)

名　　称	推 薦 基 準	任期	氏　　名
天竜川上流治水促進期成同盟会	議　長	在職期間	【理　事】竹村　圭史
一般国道151号（飯田～豊橋）改良促進期成同盟会	議　長	在職期間	【理　事】竹村　圭史
一般国道153号改良期成同盟会	議　長	在職期間	【理　事】竹村　圭史
国道153号飯田南バイパス整備促進期成同盟会	議　長	在職期間	【理　事】竹村　圭史
長野県南部国道連絡会	議　長	在職期間	【会　員】竹村　圭史
ＪＲ飯田線活性化期成同盟会	議　長 （南信州広域連合議長）	在職期間	【副会長】竹村　圭史

リニア中央新幹線建設 促進飯伊地区期成同盟会 （７人）	正副議長 監査委員 ３常任・リニア 推進特別委員長	在職期間	【副会長】竹村　圭史 【監　事】清水　　勇 【理　事】清水優一郎 福澤　克憲　下平　恒男 小林　真一　小平　　彰
国道152号整備促進 期成同盟会（２人）	議　長 産建委員長	在職期間	【理　事】竹村　圭史 小林　真一
国道256号改良促進 期成同盟会　（３人）	正副議長 産建委員長	在職期間	【理　事】竹村　圭史　清水優一郎 小林　真一
国道418号整備促進 期成同盟会（４人）	正副議長 産建正副委員長	在職期間	【監　事】竹村　圭史 【理　事】清水優一郎 小林　真一　小平　　彰
三遠南信自動車道飯喬道 路３工区建設促進期成同 盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 下久堅･千代･龍江	在職期間 在任期間	【顧　問】竹村　圭史　清水優一郎 小林　真一　小平　　彰
三遠南信道路建設促進 南信地域期成同盟会 （３人）	正副議長 監査委員	在職期間	【副会長】竹村　圭史 【理　事】清水優一郎 【監　事】清水　　勇
主要地方道飯島飯田線 改良促進期成同盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 座光寺･上郷･橋北 ･橋南･羽場･丸山･ 東野･鼎･伊賀良	在職期間 在任期間	【監　事】竹村　圭史 【理　事】清水優一郎 小林　真一　小平　　彰 【地　区】正木　利幸　水月　レイ 福澤　克憲　遠山　　雄 森本　紘司　岡本　恒和 古川　　仁　佐々木博子 宮脇　邦彦　野崎　直仁 松岡　秀治
主要地方道飯田南木曾線 改良促進期成同盟会	正副議長 産建正副委員長 地区出身議員 橋北･橋南･羽場･ 丸山･東野	在職期間 在任期間	【理　事】竹村　圭史 【監　事】清水優一郎 【理　事】小林　真一　小平　　彰 【地　区】福澤　克憲　遠山　　雄 森本　紘司　岡本　恒和
飯田市遠山郷国道整備促 進期成同盟会	地区出身議員 上村・南信濃	在任期間	【顧　問】片町　元彦
市内国道256号･竜峡五地 剣道改良促進期成同盟会 （令和6年6月2日設立）	地区出身議員 千代・上久堅・ 下久堅・龍江・ 竜丘・松尾	在任期間	【顧　問】清水雄一郎　小林　真一 清水　　勇　市瀬　芳明 下平　恒男　岡村　弘子 関島　百合　長谷部春生 大平　雲龍
県道親田中村線･県道田中 乱線改良促進期成同盟会	地区出身議員 川路・山本・三穂 ・伊賀良	在任期間	【顧　問】福澤　克憲　竹村　圭史 宮脇　邦彦　野崎　直仁 松岡　秀治
南信州東部軸道路整備 促進期成同盟会	議　長	在職期間	【理　事】竹村　圭史
松尾浄化管理センター 連絡協議会	正副議長 産建委員長 地区出身議員 松尾	在職期間	【委　員】竹村　圭史　清水優一郎 小林　真一 【地　区】大平　雲龍　長谷部春生 関島　百合

３常任･･･総務、社会文教、産業建設

(3) 議員による任意の団体

名　　称	基準	任期	氏　　名
森林･林業･林産業活性化促進議員連盟 （林業活性化推進飯田市議員連盟）	各会派１ ※5名以上の会派は2	２年	【会　長】古川　　仁 【副会長】松岡　秀治 【幹　事】森本　紘司　岡本　恒和 岡村　弘子　遠山　　雄 【監　事】清水　　勇 【会　員】議員有志
飯伊地区森林・林業・林産業活性化促進議員連盟	※R7・8年は飯田市議会から副会長及び監事を選出	２年	【副会長】 【監　事】 【会　員】議員有志
スポーツ振興議員連盟	各会派１ ※5名以上の会派は2	２年	【会　長】小平　　彰 【副会長】長谷部春生 【幹事長】市瀬　芳明 【事務局長】正木　利幸 【幹　事】片町　元彦　岡村　弘子 【会計監査】清水　　勇 【会　員】賛同議員
三遠南信、浜松湖西・豊橋道路建設促進議員協議会	賛同議員	在任期間	【会　員】賛同議員

6　各会派及び各会派の代表者氏名

会派名	代表者名	議員数	会派名	代表者名	議員数
会派きぼう	清水　　勇	10	新政いいだ	下平　恒男	7
公　　明　　党	小林　真一	3	日本共産党	古川　　仁	2
無　　会　　派	野崎　直仁	1			

Ⅲ　市議会の活動

1　市議会の活動状況

(1) 市議会招集回数10か年比較表

区分＼年次		平成27	平成28	平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6
招集回数	定例会	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	臨時会	1	0	1	0	1	2	4	2	1	2
会期日数		102	98	100	99	97	108	106	102	111	118
本会議日数		18	17	19	17	19	18	23	19	19	18
議案件数		208	172	173	194	198	176	173	153	164	200

(2) 議会開会状況（令和６年１月から令和６年12月まで）

	会　　議	会　　期	会期日数	本会議日数
1	第１回臨時会	令和６年 2月 8日 ～ 2月 8日	1	1
2	第１回定例会	令和６年 2月27日 ～ 3月22日	25	4
3	第２回定例会	令和６年 5月21日 ～ 6月21日	32	4
4	第３回定例会	令和６年 8月30日 ～ 9月30日	32	4
5	第２回臨時会	令和６年11月 8日 ～ 11月 8日	1	1
6	第４回定例会	令和６年11月29日 ～ 12月25日	27	5
計			118	19

(3) 議会審議状況（令和６年１月から令和６年12月まで）

区分＼会別		第１回臨時会	第１回定例会	第２回定例会	第３回定例会	第２回臨時会	第４回定例会	計
市　長提出議案	予算・決算	1	20	4	16	0	13	53
	条　例	0	17	8	6	1	9	41
	その他	0	8	13	12	0	29	62
	計(A)	1	45	25	34	1	51	156
議員又は委員会提出議案	条　例	0	1	1	0	0	0	2
	その他	0	0	2	4	0	2	8
	計(B)	0	1	3	4	0	2	10
報　告	専決処分	3	0	20	3	7	0	30
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	計(C)	3	0	20	3	7	0	30
審議件数(A+B+C)		4	46	48	41	8	53	196
議決状況	原案可決（同意・認定・承認を含む）	1	46	32	38	2	53	171
	報告（議決を要しないもの）	3	0	16	3	6	0	25
	修正可決							0
	否　決							0
	継続審査							0
	審議未了							0

2　報酬その他

(1) 報酬

（令和７年４月１日時点）

役　職	報酬月額	役　職	給料月額
議　長	499,000 円	市　長	925,000 円
副議長	436,000 円	副市長	760,000 円
議　員	407,000 円	教育長	669,000 円
改定日	平成 11 年 4 月 1 日	改定日	平成 27 年 12 月 24 日

報酬額の改定推移　（単位：千円）

種別＼改定年月日	S61 4.1	S62 4.1	S63 4.1	H 1 4.1	H 3 4.1	H 4 4.1	H 5 4.1	H 7 10.1	H 9 7.1	H11 4.1
議　長	331	339	352	369	413	437	469	485	494	499
副議長	278	285	296	310	352	372	410	424	432	436
議　員	259	266	277	290	325	343	383	396	403	407

(2) 期末手当

６月期支給額　報酬×1.45×172.5／100

12月期支給額　報酬×1.45×172.5／100

(3) 費用弁償

(6)の表の規定に基づき往復の交通費のみ支給する。

(4) 研修旅費

議　員　１　人　当　た　り　年　額	
常　任　委　員　会	実　費
議 会 運 営 委 員 会	実　費
特　別　委　員　会	実　費
広 報 広 聴 委 員 会	実　費
議 会 改 革 推 進 会 議	実　費

(5) 政務活動費

議員１人当り年額140,000円

(6) 飯田市議員等の旅費額　　（平成４年４月１日改正）

旅費の区分／職務の区分	車賃		日当	宿泊料		食卓料（１夜につき）
	交通機関のある場合	交通機関のない場合（１キロメートルにつき）		県内	県外	
議員、教育委員、選挙管理委員、公平委員、監査委員、農業委員、選挙長、固定資産評価審査委員及び固定資産評価員	実費	円 37	円 2,600	円 11,800	円 13,100	円 2,600

３　定期刊行物

(1) 飯田市議会だより

ア　創刊　昭和46年４月１日

イ　発行回数　年４回（４月、７月、10月及び１月（定例会終了の翌月））。

ウ　発行部数　各31,000部

エ　印刷　オフセット印刷（Ａ４版　１回平均12ページ）160号から表紙、裏表紙のみカラー刷り

(2) 飯田市議会要覧

ア　発行回数　年１回（例年６月発行）

イ　発行部数　50部

４　市議会会議録

(1) 各定例会及び臨時会の会議録

ア　発行回数　年４回（次回定例会の招集日までに発行）

イ　発行部数　各34部

ウ　印刷　オフセット印刷（Ａ４版）

(2) 全員協議会、常任委員会及び特別委員会の会議録

発行部数　　１部

(3) 会議録検索システム

ア　平成４年第２回定例会以降の本会議、全員協議会、各委員会のデータが検索可能

イ　平成15年11月から、インターネットによる会議録検索に対応

5　議会事務局の事務分掌

(1) 庶務係
ア　公印の管理に関すること。
イ　文書の収受、発送及び保存に関すること。
ウ　予算及びその経理に関すること。
エ　議員の身分、人事、福利厚生、共済等に関すること。
オ　議員の報酬、費用弁償等に関すること。
カ　議長会等に関すること。
キ　儀式及び交際に関すること。
ク　議会関係各室の管理に関すること。
ケ　職員の人事、服務、給与等に関すること。
コ　議決証明等に関すること。
サ　物品の出納保管に関すること。
シ　議会乗用車の管理に関すること。
ス　他の係の所管に属さない事項に関すること。

(2) 議事係
ア　本会議に関すること。
イ　常任委員会、特別委員会、協議会等に関すること。
ウ　議会において行う選挙等に関すること。
エ　公聴会、参考人等に関すること。
オ　議案その他付議事件に関すること。
カ　議員の出欠席に関すること。
キ　議事日程及び諸報告に関すること。
ク　請願及び陳情に関すること。
ケ　会議録その他の会議記録の調製及び保管に関すること。
コ　議会の傍聴に関すること。
サ　その他議事に関すること。

(3) 調査係
ア　議会、委員会等から命じられた事項の調査に関すること。
イ　市政の調査及び研究に関すること。
ウ　各種資料の収集、整理及び発行に関すること。
エ　議員の研修に関すること。
オ　条例、規則等の制定及び改廃に関すること。
カ　法令等の調査研究に関すること。
キ　議会広報に関すること。
ク　照会事項の回答に関すること。
ケ　議会図書室に関すること。
コ　視察に関すること。

令和７(2025)年度　飯田市各会計予算の総額

単位:千円、%

会計名		予算額		増減		主な内容
		７年度(A)	６年度(B)	(A)-(B) (C)	(C)/(B)	
一般会計		56,070,000	53,670,000	2,400,000	4.5	
国民健康保険特別会計	事業勘定	8,176,300	8,413,800	△ 237,500	△ 2.8	保険給付費 5,753,122 事業費納付金 2,147,061 総務費 149,548 保健事業費 84,092
	直診勘定	39,900	5,200	34,700	667.3	南信濃診療所 三穂診療所 上村歯科診療所
後期高齢者医療特別会計		1,806,000	1,754,400	51,600	2.9	後期高齢者医療広域連合納付金 1,763,572
介護保険特別会計		11,790,400	11,910,800	△ 120,400	△ 1.0	保険給付費 11,119,082 地域支援事業費 342,788
地方卸売市場事業特別会計		17,200	18,800	△ 1,600	△ 8.5	卸売市場費 16,082
駐車場事業特別会計		53,800	51,900	1,900	3.7	市営駐車場運営管理 53,203
墓地事業特別会計		36,300	17,300	19,000	109.8	霊園運営管理 33,930
介護老人保健施設事業特別会計		831,500	810,300	21,200	2.6	施設管理費 750,975 施設事業費 79,273
ケーブルテレビ放送事業特別会計		113,000	145,500	△ 32,500	△ 22.3	竜東維持管理費 52,620 遠山郷維持管理費 56,908
病院事業会計		17,548,100	16,859,800	688,300	4.1	収益的収入 14,958,500 収益的支出 15,642,900 資本的収入 1,046,100 資本的支出 1,905,200
水道事業会計		4,637,700	4,393,600	244,100	5.6	収益的収入 2,378,400 収益的支出 2,116,100 資本的収入 1,411,100 資本的支出 2,521,600
下水道事業会計		5,941,900	6,135,400	△ 193,500	△ 3.2	収益的収入 3,520,600 収益的支出 3,161,900 資本的収入 1,514,500 資本的支出 2,780,000
特別会計の計		50,992,100	50,516,800	475,300	0.9	
合計		107,062,100	104,186,800	2,875,300	2.8	

令和７(2025)年度　一般会計　歳入

単位:千円、%

区　　分	予　算　額		(A)の	増　減		増減(A)-(B)の主な内容
	7年度(A)	6年度(B)	構成比	(A)-(B) (C)	(C)/(B)	
1　市　　税	13,752,500	12,965,000	24.5	787,500	6.1	市民税 612,000 固定資産税 158,000 軽自動車税 7,900
2　地方譲与税	545,000	532,000	1.0	13,000	2.4	森林環境譲与税 9,000 自動車重量譲与税 8,000 地方揮発油譲与税 △4,000
3　利子割交付金	8,000	4,000	0.0	4,000	100.0	
4　配当割交付金	76,000	59,000	0.1	17,000	28.8	
5　株式等譲渡所得割交付金	80,000	52,000	0.1	28,000	53.8	
6　法人事業税交付金	256,000	260,000	0.5	△ 4,000	△ 1.5	
7　地方消費税交付金	2,860,000	2,780,000	5.1	80,000	2.9	※消費税率10%に引上げによる増収分1,560,000千円は全額を社会保障施策に充当 (充当内訳:社会福祉 1,126,702　社会保険 341,614　保健衛生 91,684)
8　自動車税環境性能割交付金	51,000	41,000	0.1	10,000	24.4	
9　地方特例交付金	128,000	520,000	0.2	△ 392,000	△ 75.4	住宅借入金等特別税額控除減収補填 特例交付金 8,000 定額減税減収補填特例交付金 △400,000
10　地方交付税	12,100,000	11,900,000	21.6	200,000	1.7	普通交付税 100,000 特別交付税 100,000
11　交通安全対策特別交付金	11,000	11,000	0.0	0	0.0	
12　分担金及び負担金	252,979	258,002	0.5	△ 5,023	△ 1.9	分担金 △1,720 負担金 △3,303
13　使用料及び手数料	540,631	546,514	1.0	△ 5,883	△ 1.1	使用料 1,670 手数料 △1,433 証紙収入 △6,120
14　国庫支出金	9,555,335	8,306,303	17.0	1,249,032	15.0	国庫補助金 799,561 国庫負担金 448,861 委託金 610
15　県支出金	3,684,758	3,278,848	6.6	405,910	12.4	県補助金 284,373 委託金 82,990 県負担金 38,547
16　財産収入	236,171	267,588	0.4	△ 31,417	△ 11.7	財産運用収入 5,069 財産売払収入 △36,486
17　寄附金	556,000	468,730	1.0	87,270	18.6	総務費寄附金 90,000 教育費寄附金 △30 商工費寄附金 △2,700
18　繰入金	2,288,072	3,016,278	4.1	△ 728,206	△ 24.1	財産区繰入金 8,525 特別会計繰入金 468 基金繰入金 △737,199
19　繰越金	500,000	500,000	0.9	0	0.0	
20　諸収入	2,851,954	2,200,637	5.1	651,317	29.6	雑入 696,277 貸付金元利収入 △13,106 受託事業収入 △31,794
21　市　　債	5,736,600	5,703,100	10.2	33,500	0.6	土木債 300,800 総務債 197,300 商工債 △141,500
合　　計	56,070,000	53,670,000	100.0	2,400,000	4.5	

令和７(2025)年度　一般会計　目的別歳出

単位:千円、％

区分	予算額		(A)の	増減		増減(A)-(B)の主な内容
	７年度(A)	６年度(B)	構成比	(A)-(B) (C)	(C)/(B)	
1 議会費	275,228	271,458	0.5	3,770	1.4	議員人件費 2,171 事務局職員人件費 1,324 会計年度任用職員人件費 915 政務活動費 70 議会一般経費 △710
2 総務費	7,859,224	7,081,425	14.0	777,799	11.0	調整給付金給付事業費 549,173 住民情報システム管理費 272,807 財産管理費 158,142 人件費 △183,626 リニア駅周辺整備事業費 △254,348
3 民生費	18,288,278	17,071,506	32.6	1,216,772	7.1	民間保育所等運営費 488,709 児童手当費 420,893 会計年度任用職員人件費 192,869 老人福祉一般経費 △168,781 民間保育所等施設整備事業費 △384,575
4 衛生費	5,640,121	5,580,506	10.0	59,615	1.1	エネルギーコスト削減促進事業費 68,300 水道費 51,947 脱炭素先行地域づくり事業費 47,861 保健施設管理費 △68,176 南信濃診療所設置事業費 △119,450
5 労働費	222,792	198,349	0.4	24,443	12.3	勤労者福祉センター管理費 22,791 人件費 9,145 雇用対策事業費 1,331 会計年度任用職員人件費 1,030 勤労者協調融資事業費 △10,000
6 農林水産業費	1,703,443	1,400,753	3.0	302,690	21.6	林道改良事業費(補助) 234,189 人件費 31,652 農業施設長寿命化事業費 18,906 林道改良事業費(単独) 16,885 人と環境にやさしい農業推進事業費 △16,206
7 商工費	3,478,687	3,147,249	6.2	331,438	10.5	産業用地整備事業費 481,453 緊急経済対策事業費 30,780 会計年度任用職員人件費 7,978 地域通貨研究事業費 △13,500 道の駅遠山郷施設整備事業費 △141,127
8 土木費	6,037,334	5,705,703	10.8	331,631	5.8	道路自然災害防止事業費 132,500 社会資本整備総合交付金事業費 (道路整備) 83,100 防災・安全交付金事業費 (道路整備) △94,512
9 消防費	1,384,203	1,398,033	2.5	△ 13,830	△ 1.0	災害対策一般経費 28,692 水防費 20,406 消防団詰所整備事業費 17,010 消防体制強化整備事業費(単独) △32,541 防災対策推進事業費 △38,845
10 教育費	6,359,637	6,118,856	11.3	240,781	3.9	小学校施設長寿命化改修事業費 246,080 会計年度任用職員人件費 223,586 社会体育学校開放施設整備費 179,000 調理場整備事業費 △104,817 美術博物館管理費 △108,660
11 災害復旧費	265,000	735,000	0.5	△ 470,000	△ 63.9	土木施設災害関連事業費 25,000 農業施設等単独災害復旧事業費 3,000 土木施設補助災害復旧事業費 △498,000
12 公債費	4,473,788	4,891,262	8.0	△ 417,474	△ 8.5	利子 49,366 元金 △466,840
13 諸支出金	42,265	29,900	0.1	12,365	41.4	新規積立金 8,503 基金利子積立金 3,862
14 予備費	40,000	40,000	0.1	0	0.0	
合計	56,070,000	53,670,000	100.0	2,400,000	4.5	

令和7(2025)年度　一般会計　性質別歳出

単位:千円、%

区分	予算額		(A)の	増減		増減(A)-(B)の主な内容
	7年度(A)	6年度(B)	構成比	(A)-(B) (C)	(C)/(B)	
1 人件費	8,867,475	8,093,171	15.8	774,304	9.6	会計年度任用職員人件費 608,098 保健施設人件費 39,666 職員給与 38,541 認定こども園人件費 36,428 市長選挙費 △15,250
2 扶助費	10,343,081	9,318,259	18.4	1,024,822	11.0	民間保育所等運営費 481,622 児童手当費 423,440 子ども医療費給付事業費 74,873 障害児通所支援費 43,912 児童扶養手当費 △33,927
3 公債費	4,473,788	4,891,262	8.0	△ 417,474	△ 8.5	利子 49,366 元金 △466,840
4 物件費	6,491,240	6,180,546	11.6	310,694	5.0	住民情報システム管理費 271,441 調整給付金給付事業費 49,173 戸籍住民基本台帳事務費 33,332 教員指導力向上事業費 △30,684 河川台帳整備委託費 △32,593
5 維持補修費	845,944	745,126	1.5	100,818	13.5	橋りょう補修事業費 58,834 飯田子どもの森公園維持管理費 25,904 道路メンテナンス事業費 20,000 道路補修事業費 5,694 児童発達支援センター管理費 △6,494
6 補助費等	9,194,941	7,972,571	16.4	1,222,370	15.3	調整給付金給付事業費 500,000 産業用地整備事業費 266,101 都市構造再編集中支援事業費(市街地整備) 74,531 エネルギーコスト削減促進事業費 62,100 児童館・児童センター・児童クラブ運営費 61,042
7 積立金	46,197	33,595	0.1	12,602	37.5	中山間地域振興基金積立金 7,426 財政調整基金積立金 2,317 脱炭素推進基金積立金 1,100 公共施設等整備基金積立金 797 減債基金積立金 389
8 投資・出資金	354,547	341,668	0.6	12,879	3.8	水道費 55,879 病院事業会計負担金 △43,000
9 貸付金	1,531,404	1,540,530	2.7	△ 9,126	△ 0.6	福祉医療費貸付金事業費 1,834 奨学金貸与事業費 △960 勤労者協調融資事業費 △10,000
10 繰出金	4,189,743	4,108,283	7.5	81,460	2.0	介護老人保健施設事業特別会計繰出金 57,422 介護保険特別会計繰出金 46,483 国民健康保険特別会計繰出金 18,177 後期高齢者医療関係一般経費 △24,000 ケーブルテレビ放送事業特別会計繰出金 △27,755
11 投資的経費	9,691,640	10,404,989	17.3	△ 713,349	△ 6.9	
普通建設費	9,526,640	9,744,989	17.0	△ 218,349	△ 2.2	
補助	4,827,256	5,145,313	8.6	△ 318,057	△ 6.2	小学校施設長寿命化改修事業費 246,080 林道改良事業費(補助) 234,189 恒川遺跡群保存活用事業費(補助) △98,066 リニア駅周辺整備事業費 △218,817 民間保育所等施設整備事業費 △382,575
単独	4,699,384	4,599,676	8.4	99,708	2.2	産業用地整備事業費 215,336 社会体育学校開放施設整備費 179,000 財産管理費 164,328 老人福祉一般経費 △150,130 リニア代替地整備事業費 △182,362
災害復旧費	165,000	660,000	0.3	△ 495,000	△ 75.0	
補助	152,000	650,000	0.3	△ 498,000	△ 76.6	土木施設補助災害復旧事業費 △498,000
単独	13,000	10,000	0.0	3,000	30.0	農業施設等単独災害復旧事業費 3,000
12 予備費	40,000	40,000	0.1	0	0.0	
計	56,070,000	53,670,000	100.0	2,400,000	4.5	

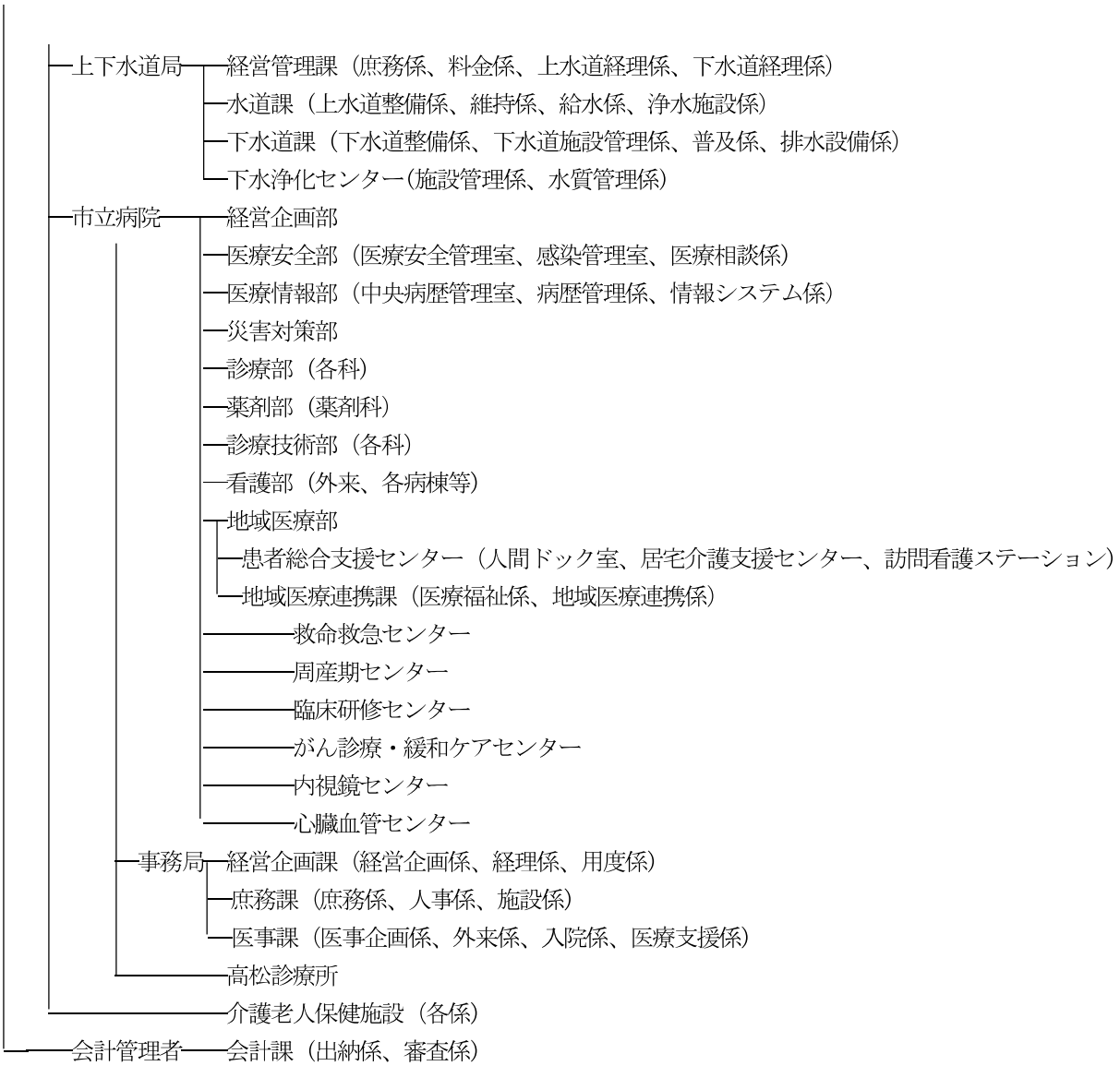
飯田市行政組織機構図（R7.4.1）

部等　　課等　（係・*出先機関:正規職員の配置のあるもの*）

○市長事務部局

市長

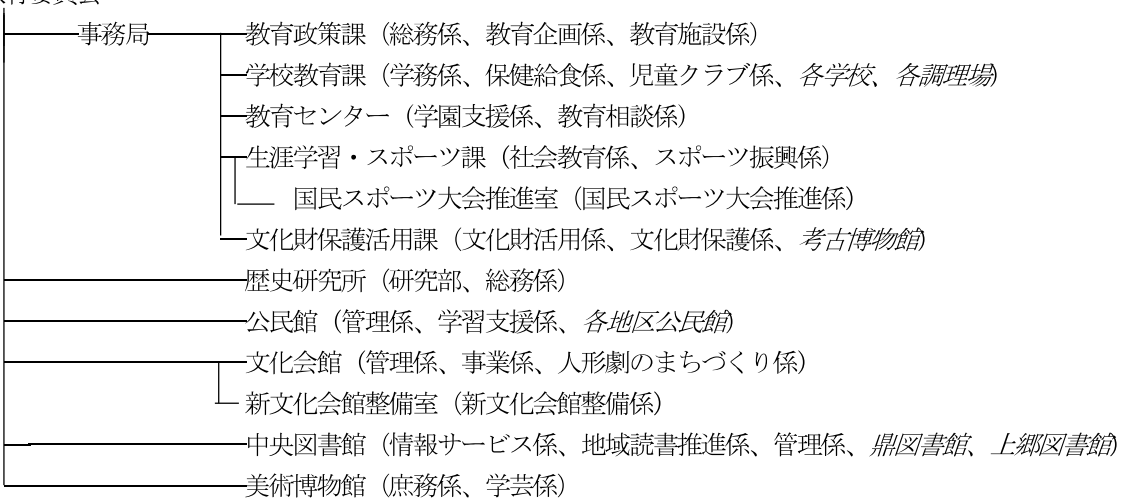
- 副市長
  - 総務部
    - 総務文書課（総務統計係、文書法規係）
    - 人事課（人事係、職員係）
    - 財政課（財政係、契約係、行革・施設マネジメント係）
    - 税務課（諸税係、市民税係、資産税土地係、資産税家屋係）
    - 納税課（管理係、収納係）
  - 企画部
    - 企画課（企画調整係、広域連携係）
      - 大学誘致連携推進室（大学誘致推進係、大学連携係）
    - デジタル推進課(デジタル推進係、システム管理係)
    - 広報ブランド推進課（広報広聴係、ブランド推進係）
    - 秘書課（秘書係）
  - リニア推進部
    - リニア推進課（事業調整係、公共交通係）
    - リニア整備課（駅周辺整備計画係、駅周辺基盤整備係）
    - リニア用地課（用地調整係）
  - 市民協働環境部
    - 地域自治振興課（自治振興係、*各自治振興センター*）
    - 結いターン移住定住推進課（移住定住推進係、遠山郷・中山間地域振興係、空き家対策係）
    - 共生・協働推進課（多様性社会推進係、ムトス推進係）
    - 市民課（市民窓口係、住民記録係、消費生活係、*消費生活センター*）
    - 環境課（環境保全係、環境衛生係、廃棄物対策係、処分場施設係）
    - ゼロカーボンシティ推進課（気候変動対策係、地域エネルギー政策係）
  - 福祉部
    - 福祉課（地域福祉係、障がい福祉係、生活福祉係、重層的支援係）
    - 長寿支援課（長寿支援係、基幹包括支援センター係、介護保険係、介護認定支援係）
  - こども未来健康部
    - こども課（子育て支援係、発達支援係、こども相談係、*こども発達センターひまわり*）
    - 保育家庭課（保育係、施設管理係、家庭相談係、*各認定こども園*）
    - 保健課（地域医療支援係、健康推進係、保健指導係、母子保健係、国保係、医療給付係、*診療所*）
  - 産業経済部
    - 産業振興課（総務企画係、産業人材係、金融政策係）
    - 農業課（農村振興係、生産振興係、農業振興センター係）
    - 林務課（森林保全係、林業振興係、里山保全係）
    - 商業観光課（商業流通係、中心市街地活性化係）
      - ツーリズム振興室（ツーリズム振興係、天龍峡観光振興係）
      - 遠山郷観光振興室（遠山郷観光振興係）
    - 工業課（工業振興係、企業立地係）
  - 建設部
    - 建設総務課（庶務経理係）
    - 地域計画課（土地利用計画係、調査計画係、建築係、建築指導係、住宅係、開発指導係）
    - 土木課（整備第１係、整備第２係、整備第３係、整備第４係）
    - 維持管理課（管理係、維持係、公園緑地係、長寿命化係）
    - 国県関連事業課（業務係、国事業係、県事業係、関連事業係）
  - 危機管理部
    - 危機管理課（危機管理係、防災係、交通安全係、消防団係、暴力追放係）



○市議会、行政委員会

市議会―事務局――（庶務係、議事係、調査係）

教育委員会



選挙管理委員会――事務局（選挙係、啓発係）　公平委員会――（事務職員）

監査委員――事務局（監査係）　固定資産評価審査委員会――（書記）

農業委員会――事務局（農地係、振興係）

3　職員の定数

（令和７年４月１日現在）

	区　　分		定　数（人）	実　数（人）
1	市長の事務部局の職員		755	715
2	議会の事務部局の職員		9	6
3	教育委員会の事務部局及び教育機関の職員		150	128
4	選挙管理委員会の事務部局の職員		5	2
5	公平委員会の事務部局の職員		2 （市長部局職員兼務2）	0
7	監査委員の事務部局の職員		4	3
8	農業委員会の事務部局の職員		16 （市長部局職員兼務8）	6
9	固定資産評価審査委員会の事務部局の職員		2 （市長部局職員兼務2）	0
10	病院事業の職員		750	734
11	水道事業の職員		32	24
	小　　計		**1,725**	**1,618**
	市長部局付派遣職員			
12		（財）南信州・飯田産業センター		4
13		（社福）飯田市社会福祉協議会		1
14		飯田市土地開発公社		－
15		長野県後期高齢者医療広域連合		1
16		長野県地方税滞納整理機構		1
17		飯田市職員労働組合専従		4
		小　　計		**11**
	派遣職員（自治法派遣）			
18		南信州広域連合　事務局		7
19		〃　　飯田広域消防		－
20		〃　　飯田環境センター		1
		小　　計		**8**
	合　　計			**1,637**

【 資　料　編 】

Ⅴ　市議会のあゆみ

1　市議会議員選挙執行状況

昭和32年４月28日	合併による設置選挙
昭和35年10月25日	飯田地区補欠選挙
昭和36年４月23日	任期満了一般選挙
昭和39年５月15日	龍江・千代・上久堅３か村合併による増員選挙
昭和39年８月28日	伊賀良地区補欠選挙
昭和39年10月25日	飯田地区補欠選挙
昭和40年４月25日	任期満了一般選挙
昭和43年10月20日	補欠選挙
昭和44年４月20日	任期満了一般選挙
昭和47年10月22日	補欠選挙
昭和48年４月22日	任期満了一般選挙
昭和51年10月17日	補欠選挙
昭和52年４月17日	任期満了一般選挙
昭和55年10月19日	補欠選挙
昭和56年４月19日	任期満了一般選挙
昭和60年４月21日	任期満了一般選挙
昭和63年10月16日	補欠選挙
平成元年４月23日	任期満了一般選挙
平成４年10月18日	補欠選挙
平成５年４月25日	任期満了一般選挙
平成５年８月１日	上郷町合併による増員選挙
平成８年10月20日	補欠選挙
平成９年４月20日	任期満了一般選挙
平成12年10月15日	補欠選挙
平成13年４月22日	任期満了一般選挙
平成16年10月24日	補欠選挙
平成17年４月24日	任期満了一般選挙
平成17年10月30日	補欠選挙
平成21年４月19日	任期満了一般選挙
平成25年４月21日	任期満了一般選挙
平成29年４月16日	任期満了一般選挙
令和３年４月25日	任期満了一般選挙
令和６年10月20日	補欠選挙
令和７年４月20日	任期満了一般選挙（無投票）

2　歴代市議会議員

（1）歴代議長

代	氏　　名	就任年月日	退任年月日
初　　代	代田源六郎	昭和31．10．8	昭和32．4．27
		昭和32．5．10	昭和36．4．27
		昭和36．5．15	昭和40．4．27
		昭和40．5．6	昭和41．5．13
		昭和41．5．13	昭和42．5．11
2　　代	辻　　虎松	昭和42．5．11	昭和44．4．27
3　　代	近松　宗一	昭和44．5．7	昭和46．5．7
		昭和46．5．7	昭和48．4．27
4　　代	伊原　悦雄	昭和48．5．8	昭和50．5．7
		昭和50．5．7	昭和52．4．27
5　　代	林　　昌平	昭和52．5．6	昭和54．4．13
		昭和54．4．13	昭和56．4．27
		昭和56．5．7	昭和58．4．22
6　　代	松嶋　健次	昭和58．4．22	昭和60．4．27
		昭和60．5．10	昭和62．5．12
7　　代	平澤　與一	昭和62．5．12	平成元．4．27
8　　代	塩澤　　昭	平成元．5．10	平成３．１．31
9　　代	竹村　仁實	平成３．１．31	平成３．５．９
10　　代	實原　　裕	平成３．５．９	平成５．４．27
11　　代	今村　八束	平成５．５．13	平成７．５．12
		平成７．５．12	平成９．４．27
12　　代	小林　利一	平成９．５．13	平成11．５．13
		平成11．５．13	平成13．４．27
13　　代	西尾　喜好	平成13．５．15	平成15．５．14
14　　代	岩崎　和男	平成15．５．14	平成17．４．27
15　　代	熊谷　富夫	平成17．５．13	平成19．５．11
16　　代	上澤　義一	平成19．５．11	平成21．４．27
17　　代	中島武津雄	平成21．５．12	平成23．５．13
18　　代	上澤　義一	平成23．５．13	平成25．４．27
19　　代	林　　幸次	平成25．５．13	平成27．５．12
20　　代	木下　克志	平成27．５．12	平成29．４．27
21　　代	清水　　勇	平成29．５．９	令和元．５．14
22　　代	湯澤　啓次	令和元．５．14	令和３．４．27
23　　代	井坪　　隆	令和３．５．18	令和５．５．９
24　　代	熊谷　泰人	令和５．５．９	令和７．４．27
25　　代	竹村　圭史	令和７．５．12	

（２）歴代副議長

代	氏　　名	就任年月日	退任年月日
初　代	伊藤　　清	昭和31．10．８	昭和32．４．27
２　代	片山　　均	昭和32．５．10	昭和36．４．27
		昭和36．５．15	昭和39．８．１
３　代	熊谷　一郎	昭和39．９．15	昭和40．４．27
		昭和40．５．６	昭和41．５．13
４　代	小林　新吾	昭和41．５．13	昭和42．５．11
５　代	市村　保人	昭和42．５．11	昭和44．４．27
６　代	今村　輝男	昭和44．５．７	昭和46．５．７
		昭和46．５．７	昭和48．４．27
７　代	新井　安男	昭和48．５．８	昭和50．５．７
８　代	林　　昌平	昭和50．５．７	昭和52．４．27
９　代	松江　良夫	昭和52．５．６	昭和54．４．13
10　代	片桐　　勲	昭和54．４．13	昭和56．４．27
11　代	松江　良夫	昭和56．５．７	昭和58．４．22
12　代	平澤　與一	昭和58．４．22	昭和60．４．27
		昭和60．５．10	昭和62．５．12
13　代	細田　直彦	昭和62．５．12	昭和63．11．10
14　代	関島　一郎	昭和63．12．２	平成元．４．27
15　代	竹村　仁實	平成元．５．10	平成３．１．31
16　代	松江　良夫	平成３．１．31	平成３．５．９
17　代	内山　照美	平成３．５．９	平成５．４．27
18　代	澤柳辨治郎	平成５．５．13	平成７．５．12
19　代	松島　年一	平成７．５．12	平成８．10．31
20　代	片桐　司郎	平成８．10．31	平成９．４．27
		平成９．５．13	平成11．５．13
21　代	中田　佳甫	平成11．５．13	平成13．４．27
22　代	牧内　信臣	平成13．５．15	平成15．５．14
23　代	渡　　淳	平成15．５．14	平成17．４．27
24　代	林　　幸次	平成17．５．13	平成19．５．11
25　代	矢澤　芳文	平成19．５．11	平成21．４．27
26　代	清水　可晴	平成21．５．12	平成23．５．13
27　代	村松まり子	平成23．５．13	平成25．４．27
28　代	木下　克志	平成25．５．13	平成27．５．12
29　代	木下　容子	平成27．５．12	平成29．４．27
30　代	永井　一英	平成29．５．９	令和元．５．14
31　代	原　　和世	令和元．５．14	令和３．４．27
32　代	山崎　昌伸	令和３．５．18	令和５．５．９
33　代	竹村　圭史	令和５．５．９	令和７．４．27
34　代	清水優一郎	令和７．５．12	

（３）歴代総務常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
１代	総務部委員会	木下　章雄	近松　宗一 前島　秀夫	昭和31．10．８	昭和32．４．27
２代	〃	島岡　利雄	伊藤　誠一	昭和32．５．10	昭和34．５．17
３代	〃	佐々木利夫	佐々木清信	昭和34．５．18	昭和36．４．27
４代	〃	熊谷　一郎	伊藤　誠一	昭和36．５．15	昭和38．５．22
５代	〃	〃	〃	昭和38．５．23	昭和40．４．27
６代	〃	近松　宗一	大平　節蔵	昭和40．５．６	昭和41．５．13
７代	〃	関島彦四郎	北原　正司	昭和41．５．14	昭和42．５．11
８代	〃	近松　宗一	前島　秀夫	昭和42．５．12	昭和44．４．27
９代	〃	辻　　虎松	松島　健次	昭和44．５．７	昭和46．５．６
10代	〃	鳴海　　衛	宮嶋　　繁	昭和46．５．７	昭和48．４．27
11代	総務文教委員会	市村　保人	橋部　　肇	昭和48．５．８	昭和50．５．７
12代	〃	茂木立好則	前島　成光	昭和50．５．８	昭和52．４．27
13代	〃	斉藤　為良	細田　直彦	昭和52．５．６	昭和54．５．５
14代	〃	内田　　篤	川手　　守	昭和54．５．６	昭和56．４．27
15代	〃	〃	原　　廣男	昭和56．５．８	昭和58．５．７
16代	〃	片桐七右衛門	前島　成光	昭和58．５．８	昭和60．４．27
17代	〃	細田　直彦	塩澤　文朗	昭和60．５．10	昭和62．５．11
18代	〃	竹村　仁實	熊谷　康登	昭和62．５．12	平成元．４．27
19代	〃	今村　八束	今村　　淳	平成元．５．10	平成３．５．９
20代	〃	久保田　元	吉川　昌子	平成３．５．10	平成５．４．27
21代	〃	松島　年一	今村　　淳	平成５．５．13	平成７．５．12
22代	〃	小林　利一	牧内　信臣	平成７．５．13	平成９．４．27
23代	〃	吉村徳一郎	渡　　淳	平成９．５．13	平成11．５．12
24代	〃	岩崎　和男	〃	平成11．５．13	平成13．４．27
25代	〃	熊谷　富夫	小池　　清	平成13．５．15	平成15．５．14
26代	〃	下平　政幸	中島武津雄	平成15．５．15	平成17．４．27
27代	〃	上澤　義一	村松まり子	平成17．５．13	平成19．５．11
28代	〃	原　　勉	森本美保子	平成19．５．12	平成21．４．27
29代	〃	林　　幸次	原　　和世	平成21．５．13	平成23．５．13
30代	〃	木下　容子	森本美保子	平成23．５．13	平成25．４．27
31代	総務委員会	清水　　勇	原　　和世	平成25．５．14	平成27．５．12
32代	〃	吉川　秋利	古川　　仁	平成27．５．12	平成29．４．27
33代	〃	湊　　猛	木下　容子	平成29．５．10	令和元．５．15
34代	〃	山崎　昌伸	吉川　秋利	令和元．５．15	令和３．４．27
35代	〃	熊谷　泰人	原　　和世	令和３．５．19	令和５．５．10
36代	〃	清水優一郎	小林　真一	令和５．５．10	令和７．４．27
37代	〃	福澤　克憲	市瀬　芳明	令和７．５．13	

※１　議会改革によりH25.4.28から４常任委員会複数所属から３常任委員会単独所属に移行

※２　※１の議員における常任委員会単独所属については、R1.5.14に設置された予算決算常任委員会（議長を除く全議員で構成）においては適用しない

（４）歴代社会文教常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
１代	社会部委員会	児島　栄次	久保田安美 宮内　　昇	昭和31．10．８	昭和32．４．27
２代	〃	実原　徳重	知久陽之祐	昭和32．５．10	昭和34．５．17
３代	〃	〃	田口　秀男	昭和34．５．18	昭和36．４．27
４代	〃	辻　　虎松	漆原　恒実	昭和36．５．15	昭和38．５．22
５代	〃	〃	〃	昭和38．５．23	昭和40．４．27
６代	〃	〃	〃	昭和40．５．６	昭和41．５．13
７代	〃	漆原　恒実	桝田　太一	昭和41．５．14	昭和42．５．11
８代	〃	佐々木清信	松江　良夫	昭和42．５．12	昭和44．４．27
９代	〃	斉藤　宗義	熊谷政一郎	昭和44．５．７	昭和46．５．６
10代	〃	林　　昌平	伊東　秀彦	昭和46．５．７	昭和48．４．27
11代	社会民生委員会	西尾　仁一	松下　　茂	昭和48．５．８	昭和50．５．７
12代	〃	松江　良夫	片桐七右衛門	昭和50．５．８	昭和52．４．27
13代	社会委員会	片桐　　勲	佐々木文雄	昭和52．５．６	昭和54．５．５
14代	〃	松江　良夫	中島　勝美	昭和54．５．６	昭和56．４．27
15代	〃	尾沢　貞夫	片桐　芳朗	昭和56．５．８	昭和58．５．７
16代	〃	松下　　茂	平田　友畝	昭和58．５．８	昭和60．４．27
17代	〃	森本　藤登	今村　八束	昭和60．５．10	昭和62．５．11
18代	〃	西尾　保雄	吉川　義治	昭和62．５．12	平成元．４．27
19代	〃	〃	小林　利一	平成元．５．10	平成３．５．９
20代	〃	片桐　司郎	関島　秀夫	平成３．５．10	平成５．４．27
21代	〃	櫻井　俊夫	西尾　喜好	平成５．５．13	平成７．５．12
22代	〃	下平　一郎	中田　佳甫	平成７．５．13	平成９．４．27
23代	〃	中田　佳甫	熊谷　富夫	平成９．５．13	平成11．５．12
24代	〃	牛山　重一	井坪　　隆	平成11．５．13	平成13．４．27
25代	〃	菅沼　立男	中島武津雄	平成13．５．15	平成15．５．14
26代	〃	柄澤　紀春	荒木　興利	平成15．５．15	平成17．４．27
27代	〃	原　　勉	森本美保子	平成17．５．13	平成19．５．11
28代	〃	中島武津雄	木下　容子	平成19．５．12	平成21．４．27
29代	〃	森本美保子	村松まり子	平成21．５．13	平成23．５．13
30代	〃	木下　克志	後藤　荘一	平成23．５．13	平成25．４．27
31代	社会文教委員会	井坪　　隆	湯澤　啓次	平成25．５．14	平成27．５．12
32代	〃	新井信一郎	清水　可晴	平成27．５．12	平成29．４．27
33代	〃	福沢　　清	山崎　昌伸	平成29．５．10	令和元．５．15
34代	〃	村松まり子	湊　　猛	令和元．５．15	令和３．４．27
35代	〃	木下　徳康	岡田　倫英	令和３．５．19	令和５．５．10
36代	〃	永井　一英	清水　　勇	令和５．５．10	令和７．４．27
37代	〃	下平　恒男	宮脇　邦彦	令和７．５．13	

※１　議会改革によりH25.4.28から４常任委員会複数所属から３常任委員会単独所属に移行

※２　※１の議員における常任委員会単独所属については、R1.5.14に設置された予算決算常任委員会（議長を除く全議員で構成）においては適用しない

（５）歴代産業建設常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
１代	産業部委員会	田中　　伝	宮下　綱六 宮川藤次郎	昭和31．10．８	昭和32．４．27
２代	〃	小林　新吾	堀　　保麿	昭和32．５．10	昭和34．５．17
３代	〃	〃	丸山　治郎	昭和34．５．18	昭和36．４．27
４代	〃	葛岡　利治	〃	昭和36．５．15	昭和38．５．22
５代	〃	丸山　治郎	松重　新一	昭和38．５．23	昭和40．４．27
６代	〃	〃	宮脇　　省	昭和40．５．６	昭和41．５．13
７代	産業経済部委員会	新井　安男	原　　茂	昭和41．５．14	昭和42．５．11
８代	〃	今村　輝男	新井　安男	昭和42．５．11	昭和44．４．27
９代	〃	林　　昌平	原田　正志	昭和44．５．７	昭和46．５．６
10代	〃	北原　正司	小松　芳男	昭和46．５．７	昭和48．４．27
11代	産業経済委員会	原　　茂	佐々木　勝	昭和48．５．８	昭和50．５．７
12代	〃	北原　正司	橋部　　肇	昭和50．５．８	昭和52．４．27
13代	〃	平沢　與一	原　　廣男	昭和52．５．６	昭和54．５．５
14代	〃	原　　康次	林　　利実	昭和54．５．６	昭和56．４．27
15代	〃	平澤　與一	竹村　仁實	昭和56．５．８	昭和58．５．７
16代	〃	片桐　　勲	〃	昭和58．５．８	昭和59．10．14
17代	〃	竹村　仁實	中田　　修	昭和59．10．26	昭和60．４．27
18代	〃	〃	塩澤　　昭	昭和60．５．10	昭和62．５．11
19代	〃	酒井　　米	小林　三郎	昭和62．５．12	平成元．４．27
20代	〃	内山　照美	下平　一郎	平成元．５．10	平成３．５．９
21代	〃	下平　一郎	小林　利一	平成３．５．10	平成５．４．27
22代	〃	〃	伊原　与一	平成５．５．13	平成７．５．12
23代	〃	佐藤　好英	吉川　義治	平成７．５．13	平成９．４．27
24代	〃	西尾　喜好	岩崎　和男	平成９．５．13	平成11．５．12
25代	〃	下平　政幸	熊谷　富夫	平成11．５．13	平成13．４．27
26代	〃	渡　　淳	上澤　義一	平成13．５．15	平成15．５．14
27代	〃	矢澤　芳文	佐々木重光	平成15．５．15	平成17．４．27
28代	〃	清水　可晴	原　　和世	平成17．５．13	平成19．５．11
29代	〃	原　　和世	山﨑　紀男	平成19．５．12	平成21．４．27
30代	〃	木下　克志	木下　容子	平成21．５．13	平成23．５．13
31代	〃	伊壷　敏子	吉川　秋利	平成23．５．13	平成25．４．27
32代	産業建設委員会	吉川　秋利	後藤　荘一	平成25．５．14	平成27．５．12
33代	〃	永井　一英	湊　　猛	平成27．５．12	平成29．４．27
34代	〃	湯澤　啓次	熊谷　泰人	平成29．５．10	令和元．５．15
35代	〃	熊谷　泰人	後藤　荘一	令和元．５．15	令和３．４．27
36代	〃	竹村　圭史	清水優一郎	令和３．５．19	令和５．５．10
37代	〃	福澤　克憲	古川　　仁	令和５．５．10	令和７．４．27
38代	〃	小林　真一	小平　　彰	令和７．５．13	

※１　議会改革によりH25.4.28から４常任委員会複数所属から３常任委員会単独所属に移行

※２　※１の議員における常任委員会単独所属については、R1.5.14に設置された予算決算常任委員会（議長を除く全議員で構成）においては適用しない

（６）歴代予算決算常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
１代	予算決算委員会	原　　和世	村松まり子	令和元．５．15	令和３．４．27
２代	〃	山崎　昌伸	竹村　圭史	令和３．５．19	令和５．５．10
３代	〃	竹村　圭史	永井　一英	令和５．５．10	令和７．４．27
４代	〃	清水優一郎	小林　真一	令和７．５．13	

※R1.5.14から予算決算委員会を常任委員会として設置。従前の総務・社会文教・産業建設各常任委員会での予算
・決算、行政評価に関する専門的審査については、それぞれの常任委員会協議会の中で予算決算委員会分科会と
位置づけ実施

（７）歴代建設環境常任委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
１代	建設部委員会	辻　　虎松	竹内　兵治 伊原　悦雄	昭和31．10．８	昭和32．４．27
２代	〃	近松　宗一	林　　省三	昭和32．５．10	昭和34．５．17
３代	〃	山田　亮一	伊原　悦雄	昭和34．５．18	昭和36．４．27
４代	〃	佐々木清信	木下　章雄	昭和36．５．15	昭和38．５．22
５代	〃	木下　章雄	新井　安男	昭和38．５．23	昭和40．４．27
６代	〃	佐々木清信	林　　昌平	昭和40．５．６	昭和41．５．13
７代	〃	今牧　照男	〃	昭和41．５．14	昭和42．５．11
８代	〃	伊原　悦雄	代田　保雄	昭和42．５．12	昭和44．４．27
９代	〃	今牧　照男	茂木立好則	昭和44．５．７	昭和46．５．６
10代	〃	新井　安男	大蔵　浜雄	昭和46．５．７	昭和48．４．27
11代	建設委員会	茂木立好則	〃	昭和48．５．８	昭和50．５．７
12代	〃	斉藤　宗義	今牧　泰三	昭和50．５．８	昭和52．４．27
13代	〃	橋部　　肇	今村　　馨	昭和52．５．６	昭和54．５．５
14代	〃	森本　藤登	木下　　登	昭和54．５．６	昭和56．４．27
15代	〃	今村　　馨	熊谷　康登	昭和56．５．８	昭和58．５．７
16代	〃	細田　直彦	木下　　登	昭和58．５．８	昭和60．４．27
17代	〃	関島　一郎	酒井　　米	昭和60．５．10	昭和62．５．11
18代	〃	〃	實原　　裕	昭和62．５．12	昭和63．12．１
19代	〃	實原　　裕	塩澤　　昭	昭和63．12．２	平成元．４．27
20代	〃	平田　友畝	澤柳辨治郎	平成元．５．10	平成３．５．９
21代	〃	松島　年一	〃	平成３．５．10	平成５．４．27
22代	〃	吉川　義治	佐藤　好英	平成５．５．13	平成７．５．12
23代	〃	塩澤　俊彦	伊藤　芳之	平成７．５．13	平成９．４．27
24代	〃	牧内　信臣	木下　昭一	平成９．５．13	平成11．５．12
25代	〃	實原　公男	久保田平八郎	平成11．５．13	平成12．10．21
26代	〃	菅沼　立男	〃	平成12．10．31	平成13．４．27
27代	建設環境委員会	井坪　　隆	原　　勉	平成13．５．15	平成15．５．14
28代	〃	木下　昭一	原　　和世	平成15．５．15	平成17．４．27
29代	〃	佐々木重光	湯澤　宗保	平成17．５．13	平成19．５．11
30代	〃	柄澤　紀春	後藤　修三	平成19．５．12	平成21．４．27
31代	〃	伊壷　敏子	吉川　秋利	平成21．５．13	平成23．５．13
32代	〃	原　　和世	永井　一英	平成23．５．13	平成25．４．27

※議会改革による常任委員会の再編により、H25.4.27をもって建設環境委員会は所管に応じ他の３常任委員会へ移管

（８）歴代議会運営委員会正副委員長

代	委員会名	委員長名	副委員長名	就任年月日	退任年月日
１代	議会運営委員会	木下　章雄	近松　宗一	昭和31．10．８	昭和32．４．27
２代	〃	島岡　利雄	伊藤　誠一	昭和32．５．10	昭和34．５．18
３代	〃	佐々木利夫	佐々木清信	昭和34．５．18	昭和36．４．27
４代	〃	熊谷　一郎	伊藤　誠一	昭和36．５．15	昭和38．５．23
５代	〃	佐々木清信	熊谷　一郎	昭和38．５．23	昭和40．４．27
６代	〃	近松　宗一	鳴海　　衛	昭和40．５．６	昭和41．５．13
７代	〃	斉藤　宗義	代田　保雄	昭和41．５．13	昭和42．５．11
８代	〃	丸山　治郎	原田　正志	昭和42．５．11	昭和44．４．27
９代	〃	新井　安男	原　　茂	昭和44．５．７	昭和46．５．７
10代	〃	松江　良夫	西尾　仁一	昭和46．５．７	昭和48．４．27
11代	〃	伊東　秀彦	太田　猶市	昭和48．５．８	昭和50．５．７
12代	〃	松嶋　健次	尾沢　貞夫	昭和50．５．７	昭和52．４．27
13代	〃	尾沢　貞夫	竹村　仁實	昭和52．５．６	昭和54．４．13
14代	〃	片桐七右衛門	塩沢　文朗	昭和54．４．13	昭和56．４．27
15代	〃	木下　　登	内山　照美	昭和56．５．８	昭和57．３．１
16代	〃	片桐七右衛門	〃	昭和57．３．１	昭和58．４．22
17代	〃	中島　勝美	酒井　　米	昭和58．４．22	昭和60．４．27
18代	〃	内山　照美	平田　友畝	昭和60．５．10	昭和62．５．12
19代	〃	平田　友畝	松島　年一	昭和62．５．12	平成元．４．27
20代	〃	松島　年一	久保田　元	平成元．５．10	平成３．５．９
21代	〃	吉川　義治	今村　　淳	平成３．５．９	平成５．４．27
22代	〃	中田　佳甫	牧内　信臣	平成５．５．13	平成７．５．12
23代	〃	伊原　与一	片桐　司郎	平成７．５．13	平成８．４．22
24代	〃	澤柳辨治郎	〃	平成８．６．４	平成８．10．31
25代	〃	〃	桜井　俊夫	平成８．10．31	平成９．４．27
26代	〃	久保田平八郎	牛山　重一	平成９．５．13	平成11．５．12
27代	〃	木下　昭一	菅沼　立男	平成11．５．13	平成12．10．30
28代	〃	〃	柄澤　紀春	平成12．10．31	平成13．４．27
29代	〃	矢澤　芳文	清水　可晴	平成13．５．15	平成15．５．14
30代	〃	上澤　義一	林　　幸次	平成15．５．15	平成17．４．27
31代	〃	原　　和世	下平　勝熙	平成17．５．13	平成19．５．11
32代	〃	下平　勝熙	木下　克志	平成19．５．12	平成21．４．27
33代	〃	井坪　　隆	清水　　勇	平成21．５．13	平成23．５．13
33代	〃	林　　幸次	新井信一郎	平成23．５．13	平成25．４．27
34代	〃	清水　可晴	村松まり子	平成25．５．14	平成27．５．12
35代	〃	清水　　勇	後藤　荘一	平成27．５．12	平成29．４．27
36代	〃	村松まり子	吉川　秋利	平成29．５．10	令和元．５．15
37代	〃	福沢　　清	永井　一英	令和元．５．15	令和３．４．27
38代	〃	永井　一英	清水　　勇	令和３．５．19	令和５．５．10
39代	〃	井坪　　隆	山崎　昌伸	令和５．５．10	令和７．４．27
40代	〃	佐々木博子	長谷部春生	令和７．５．13	

（９）歴代監査委員（議会選出）

代	氏　　名	就任年月日	退任年月日
初代	田中　　悟	昭和31．10．１	昭和32．４．27
２代	佐々木清信	昭和32．５．10	昭和34．５．17
３代	熊谷　一郎	昭和34．５．18	昭和36．４．27
４代	関島彦四郎	昭和36．５．15	昭和41．６．15
５代	市村　保人	昭和41．６．17	昭和42．６．５
６代	宮内　　昇	昭和42．６．６	昭和44．４．27
７代	市村　保人	昭和44．５．７	昭和46．６．３
８代	宮内　　昇	昭和46．６．４	昭和50．６．６
９代	近松　宗一	昭和50．６．10	昭和52．４．27
10代	伊原　悦雄	昭和52．６．６	昭和54．４．13
11代	松下　　茂	昭和54．４．16	昭和56．５．７
12代	西尾　保雄	昭和56．５．８	昭和60．４．27
13代	實原　　裕	昭和60．５．10	昭和62．５．12
14代	松嶋　健次	昭和62．５．13	平成元．４．27
15代	小林　三郎	平成元．５．10	平成２．６．30
16代	實原　　裕	平成２．７．16	平成３．５．９
17代	竹村　仁實	平成３．５．10	平成５．４．27
18代	〃	平成５．５．13	平成７．５．12
19代	實原　　裕	平成７．５．13	平成９．４．27
20代	竹村　仁實	平成９．５．13	平成11．５．12
21代	片桐　司郎	平成11．５．13	平成13．４．27
22代	小林　利一	平成13．５．15	平成15．３．３
23代	西尾　喜好	平成15．５．14	平成17．４．27
24代	岩崎　和男	平成17．５．13	平成19．５．10
25代	熊谷　富夫	平成19．５．11	平成21．４．27
26代	上澤　義一	平成21．５．13	平成23．５．12
27代	中島武津雄	平成23．５．13	平成25．４．27
28代	〃	平成25．５．14	平成29．４．27
29代	木下　克志	平成29．５．10	令和元．５．13
30代	清水　　勇	令和元．５．15	令和３．４．27
31代	原　　和世	令和３．５．19	令和７．４．27
32代	清水　　勇	令和７．５．13	

(10) 歴代事務局長

代	氏　　名	就任年月日	退任年月日
初代	林　　政人	昭和31．９．30	昭和39．３．31
２代	久保　武敏	昭和39．４．１	昭和44．３．31
３代	福井　　実	昭和44．４．１	昭和44．10．19
４代	村沢　光男	昭和44．10．20	昭和48．６．30
５代	酒井　　篤	昭和48．７．１	昭和50．３．31
６代	宮沢　邦男	昭和50．４．１	昭和54．３．31
７代	木下　良美	昭和54．４．１	昭和56．３．31
８代	松澤　平吉	昭和56．４．１	昭和59．３．31
９代	坂下　幸彦	昭和59．４．１	平成元．３．31
10代	小木曽義信	平成元．４．１	平成３．３．31
11代	浦野　　勉	平成３．４．１	平成６．３．31
12代	横田　　常	平成６．４．１	平成９．３．31
13代	山岸一二三	平成９．４．１	平成11．３．31
14代	吉川　元勝	平成11．４．１	平成13．３．31
15代	中本　卓良	平成13．４．１	平成15．３．31
16代	福田　富廣	平成15．４．１	平成16．３．31
17代	大沢　英二	平成16．４．１	平成17．３．31
18代	尾澤　敏秀	平成17．４．１	平成19．３．31
19代	中井　洋一	平成19．４．１	平成20．３．31
20代	平澤　和人	平成20．４．１	平成20．12．31
21代	篠田　雅弘	平成21．１．１	平成25．３．31
22代	福澤　栄二	平成25．４．１	平成27．３．31
23代	土屋　寿憲	平成27．４．１	平成29．３．31
24代	吉川　昌彦	平成29．４．１	令和３．３．31
25代	和泉　忠志	令和３．４．１	令和６．３．31
26代	筒井　雄二	令和６．４．１	

(11)歴代市議会議員

ア　昭和31年９月30日執行（１市７か村合併）

(ｱ) 三穂地区　12人

林　武男　林　武司　坂巻　政美　林　保　古川　舎人　佐藤　芳房
宮沢　敬信　前沢　蔵六　川井　邦　西村　文雄　川上　竹市　久保田安美

(ｲ) 飯田地区　29人

代田源六郎　斉藤　隆久　今村　正美　田口　秀夫　牧島　保一　大竹　四郎
井村豊太郎　井原　淳治　辻　虎松　山田　亮一　深津　一郎　酒井　府
古瀬　仁　菊池　恭平　児島　栄次　宮下　綱六　吉川　一　中田　栄
木下　一人　実原　徳重　佐々木清信　近松　宗一　木下　勝義　加藤　英男
田中　悟　早川　清雄　荒井重右衛門　長坂　晃　漆原　恒実

(ｳ) 座光地地区　16人

知久陽之祐　北原　弘　片桐　卓治　上沼　善夫　黒川　利一　今村　良美
湯沢　博司　篠田力三郎　棚田　正雄　佐々木貞雄　竹内　武男　原田　栄治
佐々木信雄　原田　幸雄　三村　利　竹内　兵治

(ｴ) 竜丘地区　16人

伊原　悦雄　下平　広志　原　登　吉川　正己　中平恒三郎　今村　恵
長沼　保治　林　正司　松村　新八　前島　秀夫　北沢小太郎　沖田　武一
下田　巌　原　光人　下平　勲資　塚平　睦雄

(ｵ) 松尾地区　22人

林　宗三郎　江塚　角三　斉藤　忠治　木下　徳雄　塩沢　秋生　平栗　英祐
山中　竜策　今村　輝男　小木曽嘉一　青山　孝一　常盤　喜八　福島　淡
牛草　利春　藤田　勇夫　塩沢伝之助　中山　政雄　奥田　利吉　松村　信一
熊谷　好次　金井　啓　伊与部金一　木下　章雄

(ｶ) 下久堅地区　16人

平沢　清人　池田　嘉篤　吉沢　昇　羽生　一善　宮川藤次郎　森岡　清志
宮内　昇　三石　義臣　宮脇　利雄　桐生　忠治　橋爪徳次郎　三石誠一郎
羽場　義雄　木下　平治　坂井　伸一　平沢　亮治

(ｷ) 伊賀良地区　22人

坂下　美富　矢沢　秀一　相原　貢　橋部　文男　今牧　泰三　伊藤　仁
佐々木省吾　元島　均治　今牧　照男　平田　武司　水野　恒夫　神部　稲男
矢沢　清志　松沢　武雄　伊藤　清　肥後　明一　平田　薫　田部　勇
鈴木　太郎　新井　一正　宮下　喜一　原　稲太郎

(ｸ) 山本地区　16人

尾沢　元一　熊谷　英雄　竹村　汎愛　平岩四郎吉　竹村　央　遠山　皓
熊谷　広男　山内　精一　田中　伝　金田　伝　唐沢　茂一　玉置　敏夫
久保田久吉　金沢　重雄　熊崎　六蔵　小池　政之

合計　149人

イ　昭和32年４月28日執行（合併による設置選挙　任期は昭和32年4月28日から昭和36年４月27日まで　８選挙区　定数36）

片山　　均　　伊藤　誠一　　久保田一男　　松沢　　広　　田中　　伝　　島岡　利雄
林　　保　　林　　省三　　北沢小太郎　　伊原　悦雄　　木下　章雄　　伊与部金一
葛岡　利治　　丸山　治郎　　小林　新吾　　宮脇　　省　　佐々木利夫　　知久陽之祐
代田源六郎　　実原　徳重　　佐々木清信　　近松　宗一　　今村　正美　　児島　栄次
井原　淳治　　堀　　保麿　　福島　勝男　　古瀬　　仁　　漆原　恒美　　串原　義直
山田　亮一　　深津　一郎　　辻　　虎松　　熊谷　一郎　　田口　秀男　　岡島　新治

ウ　昭和35年10月25日執行（飯田地区補欠選挙　任期は昭和35年10月26日から昭和36年４月27日まで　定数３）

新井　安男　　鳴海　　衛　　前島　成光

エ　昭和36年４年23日執行（任期満了一般選挙　任期は昭和36年４月28日から昭和40年４月27日まで９選挙区　定数28）

片山　　均　　浜島　惣一　　伊原　春男　　鳴海　　衛　　宮内　　昇　　葛岡　利治
岡村　賢作　　知久陽之祐　　丸山　治郎　　関島彦四郎　　佐々木清信　　代田源六郎
代田　　哲　　今牧　照男　　新井　安男　　近松　宗一　　木下　章雄　　串原　義直
福島　勝男　　前島　成光　　小林　新吾　　沢柳　敏夫　　漆原　恒美　　辻　　虎松
竹村　　央　　伊藤　誠一　　松重　新一　　熊谷　一郎

オ　昭和39年５月15日執行（龍江村、千代村及び上久堅村の３か村合併による増員選挙　任期は昭和39年５月15日から昭和40年４月27日まで　定数は龍江２、千代２、上久堅１の合計５）

林　　昌平　　松尾　純二　　大平　節蔵　　林　　武男　　斉藤　宗義

カ　昭和39年８月28日執行（伊賀良地区補欠選挙　任期は昭和39年８月29日から昭和40年４月27日まで　定数１）

代田　保雄

キ　昭和39年10月25日執行（飯田地区補欠選挙　任期は昭和39年10月26日から昭和40年４月27日まで　定数１）

宮嶋　　繁

ク　昭和40年４月25日執行（任期満了一般選挙　任期は昭和40年４月28日から昭和44年４月27日まで　全市１選挙区　定数36）

林　　昌平　　前島　秀夫　　北原　正司　　鳴海　　衛　　辻　　虎松　　市村　保人
小林　新吾　　代田　保雄　　近松　宗一　　代田源六郎　　矢崎　三郎　　沢柳　俊夫
桝田　太一　　今村　治郎　　丸山　治郎　　松江　良夫　　伊原　悦雄　　原　　茂
大蔵　浜雄　　宮嶋　　茂　　漆原　恒美　　富田　政雄　　葛岡　利治　　大平　節蔵
今村　輝男　　新井　安男　　佐々木清信　　宮内　　昇　　熊谷　一郎　　宮脇　　省

前島　成光　　熊谷　武志　　斉藤　宗義　　原田　正志　　今牧　照男　　関島彦四郎

ケ　昭和43年10月20日執行（補欠選挙　任期は昭和43年10月21日から昭和44年４月27日まで　定数２）

茂木立好則　　内田　　篤

コ　昭和44年４月20日執行（任期満了一般選挙　任期は昭和44年４月28日から昭和48年４月27日まで　定数36）

池上　一雄　　茂木立好則　　位高　　勉　　永山　忠男　　前島　成光　　佐藤力三郎
今牧　照男　　斉藤　宗義　　小松　芳男　　江塚　善二　　宮内　　昇　　大蔵　浜雄
松下　　茂　　原　　茂　　原　　康次　　原田　正志　　熊谷政一郎　　西尾　仁一
中山　栄次　　辻　　虎松　　桝田　太一　　内田　　篤　　伊東　秀彦　　北原　正司
松嶋　健次　　今村　輝男　　林　　昌平　　新井　安男　　片桐　　勲　　近松　宗一
宮嶋　　繁　　熊谷　武志　　市村　保人　　鳴海　　衛　　伊原　悦雄　　松江　良夫

サ　昭和47年10月22日執行（補欠選挙　任期は昭和47年10月23日から昭和48年４月27日まで　定数２）

森本　藤登　　今牧　泰三

シ　昭和48年４月22日執行（任期満了一般選挙　任期は昭和48年４月28日から昭和52年４月27日まで　定数36）

大蔵　浜雄　　塩沢　文朗　　片桐　芳朗　　川手　　守　　前島　成光　　佐藤力三郎
片桐七右衛門　伊藤　祐春　　太田　猶市　　佐々木　勝　　平澤　與一　　尾沢　貞夫
松下　　茂　　森本　藤登　　佐々木清信　　鳴海　　衛　　原　　茂　　松江　良夫
伊東　秀彦　　松嶋　健次　　今牧　泰三　　内田　　篤　　西尾　仁一　　橋部　　肇
斉藤　為良　　新井　安男　　市村　保人　　斉藤　宗義　　今村　輝男　　北原　正司
伊原　悦雄　　近松　宗一　　江塚　善二　　宮内　　昇　　茂木立好則　　林　　昌平

ス　昭和51年10月17日執行（補欠選挙　任期は昭和51年10月18日から昭和52年４月27日まで　定数３）

熊谷　康登　　西尾　保雄　　片桐　　勲

セ　昭和52年４月17日執行（任期満了一般選挙　任期は昭和52年４月28日から昭和56年４月27日まで　定数30に減少）

片桐七右衛門　塩沢　文朗　　片桐　芳朗　　川手　　守　　熊谷　康登　　斉藤　宗義
竹村　仁實　　木下　　登　　原　　広男　　原　　康次　　松下　　茂　　西尾　保雄
内田　　篤　　森本　藤登　　今村　　馨　　平澤　與一　　片桐　　勲　　中島　勝美
林　　利実　　尾沢　貞夫　　橋部　　肇　　細田　直彦　　佐々木文雄　　佐々木　勝
斉藤　為良　　西尾　仁一　　茂木立好則　　松江　良夫　　林　　昌平　　伊原　悦雄

ソ　昭和55年10月19日執行（補欠選挙　任期は昭和55年10月20日から昭和56年４月27日まで　定数１）

内山　照美

タ　昭和56年４月19日執行（任期満了一般選挙　任期は昭和56年４月28日から昭和60年４月27日まで　定数30）

塩沢　昭	實原　裕	平田　友畝	酒井　米	前島　成光	熊谷　康登
片桐　芳朗	塩沢　文朗	中田　修	竹村　仁實	今村　馨	内山　照美
木下　登	西尾　保雄	原　康次	森本　藤登	中島　勝美	片桐七右衛門
松島　健次	原　広男	細田　直彦	平澤　與一	松下　茂	内田　篤
松江　良夫	林　昌平	片桐　勲	尾沢　貞夫	茂木立好則	伊原　悦雄

チ　昭和59年10月21日執行（補欠選挙　任期は昭和59年10月22日から昭和60年４月27日まで　定数１）

今村　八束

ツ　昭和59年12月１日執行（鼎町合併により鼎町議員が引き続いて市議会議員として在任　任期は昭和59年12月１日から昭和60年４月27日まで　定数52）

田原　慶一	武田　良人	中村　岸美	中島文三郎	木下　為輔	関島　一郎
五十君酒造大	高木　敏美	松沢アサエ	河村　弘久	水野佐知穂	村沢　延
吉川　義治	今村　淳	村沢　博	鷲見　知一	北沢　芳男	新井紀一郎
片桐　司郎	下田　武志	小林　雅夫	関島　秀夫		

テ　昭和60年４月21日執行（任期満了一般選挙　任期は昭和60年４月28日から平成元年４月27日まで　定数31）

田中　秀典	下平　一郎	小林　三郎	松島　年一	澤柳辨治郎	吉川　昌子
熊谷　康登	牧内　信臣	櫻井　俊夫	久保田　元	吉川　義治	武田　良人
今村　八束	原　広男	今村　淳	塩沢　文朗	片桐　司郎	西尾　保雄
塩沢　昭	實原　裕	平田　友畝	酒井　米	関島　一郎	内山　照美
森本　藤登	松下　茂	竹村　仁實	細田　直彦	尾沢　貞夫	平澤　與一
松嶋　健次					

ト　昭和63年10月16日執行（補欠選挙　任期は昭和63年10月17日から平成元年４月27日まで　定数２）

小林　利一　　長谷部徳治

ナ　平成元年４月23日執行（任期満了一般選挙　任期は平成元年４月28日から平成５年４月27日まで　定数31）

西尾　喜好	吉村徳一郎	伊原　与一	佐藤　好英	中田　佳甫	吉川　昌子
牛山　重一	牧内　信臣	塩澤　俊彦	長谷部徳治	伊藤　芳之	小林　利一

関島　秀夫　　下平　一郎　　渡　　淳　　今村　　淳　　櫻井　俊夫　　片桐　司郎
小林　三郎　　松島　年一　　澤柳辨治郎　　久保田　元　　吉川　義治　　今村　八束
西尾　保雄　　塩澤　　昭　　實原　　裕　　平田　友畝　　内山　照美　　竹村　仁實
松江　良夫

ニ　平成４年10月18日執行（補欠選挙　任期は平成４年10月19日から平成５年４月27日まで　定数１）
井出　健介

ヌ　平成５年４月25日執行（任期満了一般選挙　任期は平成５年４月28日から平成９年４月27日まで　定数31）
柄澤　紀春　　菅沼　立男　　吉川　四郎　　實原　公男　　熊谷　富夫　　久保田平八郎
下平　政幸　　木下　昭一　　牛山　重一　　牧内　信臣　　吉川　昌子　　塩澤　俊彦
長谷部徳治　　西尾　喜好　　吉村徳一郎　　伊原　与一　　佐藤　好英　　中田　佳甫
伊藤　芳之　　渡　　淳　　今村　　淳　　櫻井　俊夫　　片桐　司郎　　小林　利一
下平　一郎　　松島　年一　　澤柳辨治郎　　吉川　義治　　今村　八束　　實原　　裕
竹村　仁實

ネ　平成５年８月１日執行（上郷町編入合併に伴う増員選挙　任期は平成５年８月２日から平成９年４月27日まで　定数５）
中田　裕康　　井坪　　隆　　岩崎　和男　　岡島　　豊　　大坪　　勇

ノ　平成８年10月20日執行（補欠選挙　任期は平成８年10月21日から平成９年４月27日まで　定数１）
矢澤　芳文

ハ　平成９年４月20日執行（任期満了一般選挙　任期は平成９年４月28日から平成13年４月27日まで　定数31）
佐藤久美子　　小池　　清　　清水　可晴　　佐々木重光　　原　　勉　　中島武津雄
上澤　義一　　荒木　興利　　大坪　　勇　　牛山　重一　　牧内　信臣　　矢澤　芳文
井坪　　隆　　岩崎　和男　　林　　幸次　　渡　　淳　　熊谷　富夫　　久保田平八郎
下平　政幸　　木下　昭一　　西尾　喜好　　柄澤　紀春　　菅沼　立男　　實原　公男
吉村徳一郎　　佐藤　好英　　中田　佳甫　　小林　利一　　今村　八束　　片桐　司郎
竹村　仁實

ヒ　平成12年10月15日執行（補欠選挙　任期は平成12年10月16日から平成13年４月27日まで　定数１）
原　　和世

フ　平成13年４月22日執行（任期満了一般選挙　任期は平成13年４月28日から平成17年４月27日まで　定数31）

木下　容子　　下平　勝熙　　伊壷　敏子　　大谷　恵子　　湯澤　宗保　　森本美保子
村松まり子　　牛山滿智子　　清水　可晴　　小池　　清　　牛山　重一　　牧内　信臣
原　　和世　　原　　勉　　林　　幸次　　渡　　淳　　久保田平八郎　　柄澤　紀春
菅沼　立男　　中島武津雄　　上澤　義一　　佐々木重光　　荒木　興利　　井坪　　隆
岩崎　和男　　矢澤　芳文　　熊谷　富夫　　下平　政幸　　木下　昭一　　西尾　喜好
小林　利一

ヘ　平成16年10月24日執行（補欠選挙　任期は平成16年10月25日から平成17年４月27日まで　定数２）

後藤　荘一　　木下　克志

ホ　平成17年４月24日執行（任期満了一般選挙　任期は平成17年４月28日から平成21年４月27日まで　定数27）

清水　　勇　　代田　剛嗣　　新井信一郎　　内山　要子　　吉川　秋利　　伊藤　清春
永井　一英　　木下　容子　　下平　勝熙　　後藤　荘一　　木下　克志　　湯澤　宗保
森本美保子　　柄澤　紀春　　村松まり子　　林　　幸次　　清水　可晴　　伊壷　敏子
原　　和世　　原　　勉　　中島武津雄　　上澤　義一　　佐々木重光　　矢澤　芳文
岩崎　和男　　熊谷　富夫　　牧内　信臣

マ　平成17年10月30日執行（上村及び南信濃村の編入合併に伴う増員選挙　任期は平成17年10月31日から平成21年４月27日まで　定数２）

山﨑　紀男　　後藤　修三

ミ　平成21年４月19日執行（任期満了一般選挙　任期は平成21年４月28日から平成25年４月27日まで　定数23に減少）

湯澤　啓次　　湊　　猛　　清水　　勇　　吉川　秋利　　永井　一英　　福沢　　清
内田　雄一　　牛山滿智子　　新井信一郎　　木下　克志　　木下　容子　　下平　勝熙
村松まり子　　森本美保子　　後藤　荘一　　伊壷　敏子　　中島武津雄　　上澤　義一
清水　可晴　　林　　幸次　　井坪　　隆　　原　　和世　　原　　勉

ム　平成25年４月21日執行（任期満了一般選挙　任期は平成25年４月28日から平成29年４月27日まで　定数23）

竹村　圭史　　木下　徳康　　熊谷　泰人　　湯澤　啓次　　山崎　昌伸　　森本　政人
古川　　仁　　小倉　高広　　湊　　猛　　新井信一郎　　清水　　勇　　吉川　秋利
永井　一英　　木下　容子　　福沢　　清　　後藤　荘一　　木下　克志　　中島武津雄
村松まり子　　林　　幸次　　清水　可晴　　井坪　　隆　　原　　和世

メ　平成29年４月16日執行（任期満了一般選挙　任期は平成29年４月28日から※平成33年４月27日まで　定数23）
（※平成33年は2021年、令和３年）

清水優一郎　岡田　倫英　塚平　一成　竹村　圭史　小林　真一　福澤　克憲
古川　　仁　木下　徳康　山崎　昌伸　熊谷　泰人　湯澤　啓次　永井　一英
福沢　　清　木下　容子　後藤　荘一　湊　　猛　新井信一郎　清水　　勇
吉川　秋利　木下　克志　村松まり子　井坪　　隆　原　　和世

モ　令和３年４月25日執行（任期満了一般選挙　任期は令和３年４月28日から令和７年４月27日まで　定数23）

小平　　彰　下平　恒男　橋爪　重人　西森　六三　宮脇　邦彦　関島　百合
市瀬　芳明　筒井　誠逸　清水優一郎　岡田　倫英　福澤　克憲　竹村　圭史
小林　真一　佐々木博子　古川　　仁　木下　徳康　山崎　昌伸　熊谷　泰人
新井信一郎　清水　　勇　永井　一英　井坪　　隆　原　　和世

ヤ　令和５年３月 31 日、新井信一郎議員が令和５年４月９日執行の長野県議会議員一般選挙（飯田市下伊那郡選挙区）への立候補により辞職

ユ　令和６年10月20日執行（補欠選挙　任期は令和６年10月21日から令和７年４月27日まで　定数１）

長谷部春生

ヨ　令和７年４月20日執行（任期満了一般選挙（無投票）　任期は令和７年４月28日から令和11年４月27日まで　定数23）

大平　雲龍　水月　レイ　森本　紘司　正木　利幸　岡本　恒和　岡村　弘子
野崎　直仁　遠山　　雄　片町　元彦　松岡　秀治　長谷部春生　佐々木博子
小平　　彰　宮脇　邦彦　市瀬　芳明　関島　百合　福澤　克憲　竹村　圭史
清水　　勇　下平　恒男　清水優一郎　小林　真一　古川　　仁

3　１年間の記録

(1) 付議事件及び議決結果一覧表

① 市長提出議案

事件番号	事　　件　　名	上程日	議決日	議決結果
議案第１号	令和５年度飯田市一般会計補正予算（第９号）案	6.2.8	6.2.8	可決
議案第２号	公平委員会の委員の選任について	6.2.27	6.2.27	同意
議案第３号	固定資産評価審査委員会の委員の選任について	6.2.27	6.2.27	同意
議案第４号	飯田市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について	6.2.27	6.3.22	可決
議案第５号	飯田市職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例の制定について	6.2.27	6.3.22	可決
議案第６号	飯田市手数料条例の一部を改正する条例の制定について	6.2.27	6.3.22	可決
議案第７号	飯田市中山間地域における地域振興住宅の運営に関する条例の一部を改正する条例の制定について	6.2.27	6.3.22	可決
議案第８号	飯田市個人番号の利用等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	6.2.27	6.3.22	可決
議案第９号	飯田市南信濃福祉研修センター条例を廃止する条例の制定について	6.2.27	6.3.22	可決
議案第10号	飯田市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	6.2.27	6.3.22	可決
議案第11号	飯田市保育所型認定こども園設置条例の一部を改正する条例の制定について	6.2.27	6.3.22	可決
議案第12号	飯田市デイサービスセンター条例の一部を改正する条例の制定について	6.2.27	6.3.22	可決
議案第13号	飯田市介護保険条例の一部を改正する条例の制定について	6.2.27	6.3.22	可決
議案第14号	飯田市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営の基準に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	6.2.27	6.3.22	可決
議案第15号	飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例の制定について	6.2.27	6.3.22	可決
議案第16号	飯田市農業研修生住宅条例を廃止する条例の制定について	6.2.27	6.3.22	可決
議案第17号	飯田市電気自動車用急速充電器設置条例の制定について	6.2.27	6.3.22	可決
議案第18号	飯田市水道事業の設置等に関する条例及び飯田市下水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	6.2.27	6.3.22	可決
議案第19号	飯田市水道条例の一部を改正する条例の制定について	6.2.27	6.3.22	可決
議案第20号	飯田市病院事業条例の一部を改正する条例の制定について	6.2.27	6.3.22	可決
議案第21号	令和６年度航空写真撮影及び写真地図作成に関する事務の受託について	6.2.27	6.3.22	可決
議案第22号	工事請負契約の一部変更について（過年発生土木施設補助災害復旧事業橋りょう架設工事）	6.2.27	6.3.22	可決
議案第23号	工事請負契約の一部変更について（橋りょう耐震整備事業橋梁(りょう)耐震整備工事）	6.2.27	6.3.22	可決

事件番号	事　　件　　名	上程日	議決日	議決結果
議案第24号	市道路線の認定について	6.2.27	6.3.22	可決
議案第25号	市道路線の廃止について	6.2.27	6.3.22	可決
議案第26号	市道路線の変更について	6.2.27	6.3.22	可決
議案第27号	令和５年度飯田市一般会計補正予算（第10号）案	6.2.27	6.3.22	可決
議案第28号	令和５年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第２号）案	6.2.27	6.3.22	可決
議案第29号	令和５年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第３号）案	6.2.27	6.3.22	可決
議案第30号	令和５年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第３号）案	6.2.27	6.3.22	可決
議案第31号	令和５年度飯田市病院事業会計補正予算（第２号）案	6.2.27	6.3.22	可決
議案第32号	令和５年度飯田市水道事業会計補正予算（第４号）案	6.2.27	6.3.22	可決
議案第33号	令和５年度飯田市下水道事業会計補正予算（第２号）案	6.2.27	6.3.22	可決
議案第34号	令和６年度飯田市一般会計予算（案）	6.2.27	6.3.22	可決
議案第35号	令和６年度飯田市国民健康保険特別会計予算（案）	6.2.27	6.3.22	可決
議案第36号	令和６年度飯田市後期高齢者医療特別会計予算（案）	6.2.27	6.3.22	可決
議案第37号	令和６年度飯田市介護保険特別会計予算（案）	6.2.27	6.3.22	可決
議案第38号	令和６年度飯田市地方卸売市場事業特別会計予算（案）	6.2.27	6.3.22	可決
議案第39号	令和６年度飯田市駐車場事業特別会計予算（案）	6.2.27	6.3.22	可決
議案第40号	令和６年度飯田市墓地事業特別会計予算（案）	6.2.27	6.3.22	可決
議案第41号	令和６年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計予算（案）	6.2.27	6.3.22	可決
議案第42号	令和６年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計予算（案）	6.2.27	6.3.22	可決
議案第43号	令和６年度飯田市病院事業会計予算（案）	6.2.27	6.3.22	可決
議案第44号	令和６年度飯田市水道事業会計予算（案）	6.2.27	6.3.22	可決
議案第45号	令和６年度飯田市下水道事業会計予算（案）	6.2.27	6.3.22	可決
議案第46号	令和６年度飯田市各財産区会計予算（案）	6.2.27	6.3.22	可決
議案第47号	公平委員会の委員の選任について	6.5.21	6.5.21	同意
議案第48号	飯田市中央財産区管理委員の選任について	6.5.21	6.5.21	同意
議案第49号	飯田市野底財産区管理委員の選任について	6.5.21	6.5.21	同意

事件番号	事　　件　　名	上程日	議決日	議決結果
議案第50号	飯田市東野財産区管理委員の選任について	6.5.21	6.5.21	同意
議案第51号	飯田市千代財産区管理委員の選任について	6.5.21	6.5.21	同意
議案第52号	飯田市松尾地区財産区管理委員の選任について	6.5.21	6.5.21	同意
議案第53号	飯田市鼎財産区管理委員の選任について	6.5.21	6.5.21	同意
議案第54号	飯田市税条例の一部を改正する条例の制定について	6.5.21	6.6.21	可決
議案第55号	飯田市児童発達支援センター条例の一部を改正する条例の制定について	6.5.21	6.6.21	可決
議案第56号	飯田市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	6.5.21	6.6.21	可決
議案第57号	飯田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について	6.5.21	6.6.21	可決
議案第58号	飯田市野底山森林公園条例の一部を改正する条例の制定について	6.5.21	6.6.21	可決
議案第59号	飯田市農業集落排水処理施設条例及び飯田市下水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	6.5.21	6.6.21	可決
議案第60号	飯田市下水道条例の一部を改正する条例の制定について	6.5.21	6.6.21	可決
議案第61号	飯田市美術博物館条例の一部を改正する条例の制定について	6.5.21	6.6.21	可決
議案第62号	土地の取得について	6.5.21	6.6.21	可決
議案第63号	財産の取得について	6.5.21	6.6.21	可決
議案第64号	令和６年度飯田市一般会計補正予算（第１号）案	6.5.21	6.6.21	可決
議案第65号	令和６年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第１号）案	6.5.21	6.6.21	可決
議案第66号	令和６年度飯田市水道事業会計補正予算（第１号）案	6.5.21	6.6.21	可決
議案第67号	工事請負契約の締結について（道の駅遠山郷改修建築工事）	6.5.29	6.6.21	可決
議案第68号	工事請負契約の締結について（道の駅遠山郷改修機械設備工事）	6.5.29	6.6.21	可決
議案第69号	損害賠償の額を定めることについて	6.5.29	6.6.21	可決
議案第70号	令和６年度飯田市一般会計補正予算（第２号）案	6.5.29	6.6.21	可決
議案第71号	工事請負契約の締結について（学校施設環境改善交付金事業上郷小学校長寿命化改良建築工事）	6.6.21	6.6.21	可決
議案第72号	人権擁護委員の候補者の推薦につき意見を求めることについて	6.8.30	6.8.30	同意
議案第73号	飯田市南部財産区管理委員の選任について	6.8.30	6.8.30	同意
議案第74号	飯田市中央財産区管理委員の選任について	6.8.30	6.8.30	同意
議案第75号	飯田市羽場財産区管理委員の選任について	6.8.30	6.8.30	同意

事件番号	事　　件　　名	上程日	議決日	議決結果
議案第76号	飯田市野底財産区管理委員の選任について	6.8.30	6.8.30	同意
議案第77号	飯田市東野財産区管理委員の選任について	6.8.30	6.8.30	同意
議案第78号	飯田市個人番号の利用等に関する条例の一部を改正する条例の制定について	6.8.30	6.9.30	可決
議案第79号	飯田市指定介護予防支援等の事業に係る人員、運営及び介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例及び飯田市地域包括支援センターの人員及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	6.8.30	6.9.30	可決
議案第80号	飯田市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について	6.8.30	6.9.30	可決
議案第81号	飯田市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について	6.8.30	6.9.30	可決
議案第82号	飯田市総合運動場条例の一部を改正する条例の制定について	6.8.30	6.9.30	可決
議案第83号	長野県後期高齢者医療広域連合規約の変更について	6.8.30	6.9.30	可決
議案第84号	財産の処分について	6.8.30	6.9.30	可決
議案第85号	工事請負契約の締結について（道路メンテナンス事業橋梁長寿命化修繕工事）	6.8.30	6.9.30	可決
議案第86号	令和５年度飯田市水道事業剰余金の処分について	6.8.30	6.9.30	可決
議案第87号	令和５年度飯田市下水道事業剰余金の処分について	6.8.30	6.9.30	可決
議案第88号	令和６年度飯田市一般会計補正予算（第３号）案	6.8.30	6.9.30	可決
議案第89号	令和６年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第１号）案	6.8.30	6.9.30	可決
議案第90号	令和６年度飯田市駐車場事業特別会計補正予算（第１号）案	6.8.30	6.9.30	可決
議案第91号	令和５年度飯田市一般会計歳入歳出決算認定について	6.8.30	6.9.30	認定
議案第92号	令和５年度飯田市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	6.8.30	6.9.30	認定
議案第93号	令和５年度飯田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	6.8.30	6.9.30	認定
議案第94号	令和５年度飯田市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	6.8.30	6.9.30	認定
議案第95号	令和５年度飯田市地方卸売市場事業特別会計歳入歳出決算認定について	6.8.30	6.9.30	認定
議案第96号	令和５年度飯田市駐車場事業特別会計歳入歳出決算認定について	6.8.30	6.9.30	認定
議案第97号	令和５年度飯田市墓地事業特別会計歳入歳出決算認定について	6.8.30	6.9.30	認定
議案第98号	令和５年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計歳入歳出決算認定について	6.8.30	6.9.30	認定
議案第99号	令和５年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計歳入歳出決算認定について	6.8.30	6.9.30	認定
議案第100号	令和５年度飯田市病院事業決算認定について	6.8.30	6.9.30	認定

事件番号	事　　件　　名	上程日	議決日	議決結果
議案第101号	令和５年度飯田市水道事業決算認定について	6.8.30	6.9.30	認定
議案第102号	令和５年度飯田市下水道事業決算認定について	6.8.30	6.9.30	認定
議案第103号	令和５年度飯田市各財産区会計歳入歳出決算認定について	6.8.30	6.9.30	認定
議案第104号	飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例の制定について	6.9.5	6.9.30	可決
議案第105号	工事請負契約の締結について（過年発生土木施設補助災害復旧事業橋梁（りょう）災害復旧工事）	6.9.5	6.9.30	可決
議案第106号	飯田市景観条例及び飯田市緑の育成条例の一部を改正する条例の制定について	6.11.8	6.11.8	可決
議案第107号	副市長の選任について	6.11.29	6.11.29	同意
議案第108号	教育委員会の委員の任命について	6.11.29	6.11.29	同意
議案第109号	飯田市有線テレビジョン放送施設条例及び飯田市遠山郷有線テレビジョン放送施設条例の一部を改正する条例の制定について	6.11.29	6.12.25	可決
議案第110号	飯田市特別養護老人ホーム条例の一部を改正する条例の制定について	6.11.29	6.12.25	可決
議案第111号	飯田市道の駅遠山郷条例の制定について	6.11.29	6.12.25	可決
議案第112号	飯田市工場立地法準則条例の制定について	6.11.29	6.12.25	可決
議案第113号	飯田市移動等円滑化のために必要な特定公園施設の設置に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	6.11.29	6.12.25	可決
議案第114号	飯田市消防団条例の一部を改正する条例の制定について	6.11.29	6.12.25	可決
議案第115号	飯田市技術上の監督業務を行わせる水道の布設工事等の基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	6.11.29	6.12.25	可決
議案第116号	飯田市人形浄瑠璃施設条例の一部を改正する条例の制定について	6.11.29	6.12.25	可決
議案第117号	基本構想の変更について	6.11.29	6.12.25	可決
議案第118号	基本構想に基づいて定める基本計画の政策施策の体系を定めることについて	6.11.29	6.12.25	可決
議案第119号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市南信濃木沢都市山村交流促進施設）	6.11.29	6.12.25	可決
議案第120号	松川町との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	6.11.29	6.11.29	可決
議案第121号	高森町との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	6.11.29	6.11.29	可決
議案第122号	阿南町との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	6.11.29	6.11.29	可決
議案第123号	阿智村との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	6.11.29	6.11.29	可決
議案第124号	平谷村との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	6.11.29	6.11.29	可決
議案第125号	根羽村との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	6.11.29	6.11.29	可決

事件番号	事　　件　　名	上程日	議決日	議決結果
議案第126号	下條村との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	6.11.29	6.11.29	可決
議案第127号	売木村との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	6.11.29	6.11.29	可決
議案第128号	天龍村との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	6.11.29	6.11.29	可決
議案第129号	泰阜村との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	6.11.29	6.11.29	可決
議案第130号	喬木村との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	6.11.29	6.11.29	可決
議案第131号	豊丘村との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	6.11.29	6.11.29	可決
議案第132号	大鹿村との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	6.11.29	6.11.29	可決
議案第133号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市21世紀環境共生型モデル住宅）	6.11.29	6.12.25	可決
議案第134号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市障害者生活ケアセンター）	6.11.29	6.12.25	可決
議案第135号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市デイサービスセンター）	6.11.29	6.12.25	可決
議案第136号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市特別養護老人ホーム）	6.11.29	6.12.25	可決
議案第137号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市保健休養施設）	6.11.29	6.12.25	可決
議案第138号	工事請負契約の一部変更について（橋りょう耐震整備事業橋梁（りょう）耐震整備工事）	6.11.29	6.12.25	可決
議案第139号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市立動物園）	6.11.29	6.12.25	可決
議案第140号	公の施設の指定管理者の指定について（平成記念飯田子どもの森公園）	6.11.29	6.12.25	可決
議案第141号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市旧飯田測候所）	6.11.29	6.12.25	可決
議案第142号	公の施設の指定管理者の指定について（飯田市人形浄瑠璃施設）	6.11.29	6.12.25	可決
議案第143号	令和６年度飯田市一般会計補正予算（第５号）案	6.11.29	6.12.25	可決
議案第144号	令和６年度飯田市墓地事業特別会計補正予算（第１号）案	6.11.29	6.12.25	可決
議案第145号	令和６年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第１号）案	6.11.29	6.12.25	可決
議案第146号	令和６年度飯田市病院事業会計補正予算（第１号）案	6.11.29	6.12.25	可決
議案第147号	令和６年度飯田市水道事業会計補正予算（第２号）案	6.11.29	6.12.25	可決
議案第148号	工事請負契約の一部変更について（学校施設環境改善交付金事業上郷小学校長寿命化改良建築工事）	6.12.6	6.12.25	可決
議案第149号	飯田市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	6.12.25	6.12.25	可決
議案第150号	令和６年度飯田市一般会計補正予算（第６号）案	6.12.25	6.12.25	可決
議案第151号	令和６年度飯田市国民健康保険特別会計補正予算（第２号）案	6.12.25	6.12.25	可決

事件番号	事　　件　　名	上程日	議決日	議決結果
議案第152号	令和６年度飯田市後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）案	6.12.25	6.12.25	可決
議案第153号	令和６年度飯田市介護保険特別会計補正予算（第２号）案	6.12.25	6.12.25	可決
議案第154号	令和６年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第２号）案	6.12.25	6.12.25	可決
議案第155号	令和６年度飯田市病院事業会計補正予算（第２号）案	6.12.25	6.12.25	可決
議案第156号	令和６年度飯田市水道事業会計補正予算（第３号）案	6.12.25	6.12.25	可決
議案第157号	令和６年度飯田市下水道事業会計補正予算（第１号）案	6.12.25	6.12.25	可決

② 議会提出議案

事件番号	事　　件　　名	上程日	議決日	議決結果
発委第１号	飯田市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について	6.3.22	6.3.22	可決
発委第２号	飯田市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について	6.6.21	6.6.21	可決
発委第３号	へき地教育振興法に鑑み、へき地手当等支給率を近隣県並みの水準に戻すことを求める意見書の提出について	6.6.21	6.6.21	可決
発委第４号	さらなる少人数学級推進と教員増のための教育予算確保及び義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充を求める意見書の提出について	6.6.21	6.6.21	可決
発委第５号	女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める意見書の提出について	6.9.30	6.9.30	可決
発委第６号	地方財政の充実・強化を求める意見書の提出について	6.9.30	6.9.30	可決
発委第７号	訪問介護等への支援と介護人材確保のための政策の充実を求める意見書の提出について	6.9.30	6.9.30	可決
発委第８号	加齢性難聴者が補聴器を適切に利用できる環境整備に取り組むことを求める要望書の提出について	6.9.30	6.9.30	可決
発委第９号	飯田市議会会議規則の一部を改正する規則の制定について	6.12.25	6.12.25	可決
発委第10号	再審法改正の早期実現を求める意見書の提出について	6.12.25	6.12.25	可決

③ 報告議案

事件番号	事　　件　　名	上程日	議決日	議決結果
報告第１号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	6.2.8		
報告第２号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	6.2.8		
報告第３号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	6.2.8		
報告第４号	専決処分の承認を求めることについて（飯田市税条例の一部を改正する条例の制定について）	6.5.21	6.5.21	承認
報告第５号	専決処分の承認を求めることについて（飯田市都市計画税条例の一部を改正する条例の制定について）	6.5.21	6.5.21	承認
報告第６号	専決処分の承認を求めることについて（令和５年度飯田市一般会計補正予算（第11号））	6.5.21	6.5.21	承認
報告第７号	専決処分の承認を求めることについて（令和５年度飯田市ケーブルテレビ放送事業特別会計補正予算（第１号））	6.5.21	6.5.21	承認
報告第８号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	6.5.21		
報告第９号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	6.5.21		
報告第10号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	6.5.21		
報告第11号	飯田市国民保護計画の変更について	6.5.21		
報告第12号	権利の放棄について（補助金の返還金に係る債権）	6.5.21		

事件番号	事　　件　　名	上程日	議決日	議決結果
報告第13号	権利の放棄について（病院料金に係る債権）	6.5.21		
報告第14号	権利の放棄について（水道料金に係る債権）	6.5.21		
報告第15号	権利の放棄について（奨学金の貸付金に係る債権）	6.5.21		
報告第16号	令和５年度飯田市一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について	6.5.21		
報告第17号	令和５年度飯田市病院事業会計予算繰越計算書の報告について	6.5.21		
報告第18号	令和５年度飯田市水道事業会計予算繰越計算書の報告について	6.5.21		
報告第19号	令和５年度飯田市下水道事業会計予算繰越計算書の報告について	6.5.21		
報告第20号	飯田市土地開発公社の経営状況を説明する書類の提出について	6.5.21		
報告第21号	株式会社飯田健康温泉の経営状況を説明する書類の提出について	6.5.21		
報告第22号	一般財団法人飯田勤労者共済会の経営状況を説明する書類の提出について	6.5.21		
報告第23号	飯田清掃株式会社の経営状況を説明する書類の提出について	6.5.29		
報告第24号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	6.8.30		
報告第25号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	6.8.30		
報告第26号	健全化判断比率及び資金不足比率の報告について	6.8.30		
報告第27号	専決処分の承認を求めることについて（令和６年度飯田市一般会計補正予算（第４号））	6.11.8	6.11.8	承認
報告第28号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	6.11.8		
報告第29号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	6.11.8		
報告第30号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	6.11.8		
報告第31号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	6.11.8		
報告第32号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	6.11.8		
報告第33号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定めることについて）	6.11.8		

(2)議会において執行した選挙・選任等

（令和６年１月から令和６年12月まで）

会 期	年月日	選挙・選任の内容
第１回定例会	R6.2.27	・公平委員会の委員の選任
		・固定資産評価審査委員会の委員の選任
第２回定例会	R6.5.21	・公平委員会の委員の選任
		・飯田市中央財産区管理委員の選任
		・飯田市野底財産区管理委員の選任
		・飯田市東野財産区管理委員の選任
		・飯田市千代財産区管理委員の選任
		・飯田市松尾地区財産区管理委員の選任
		・飯田市鼎財産区管理委員の選任
第３回定例会	R6.8.30	・人権擁護委員の候補者の推薦
		・飯田市南部財産区管理委員の選任
		・飯田市中央財産区管理委員の選任
		・飯田市羽場財産区管理委員の選任
		・飯田市野底財産区管理委員の選任
		・飯田市東野財産区管理委員の選任
第４回定例会	R6.12.25	・副市長の選任の選任
		・教育委員会の委員の任命

(3)委員会活動開催状況

（令和６年１月から令和６年12月まで）

	常任委員会							特別委員会	議会運営委員会	議会改革推進会議	広報広聴委員会	全員協議会
	総務委員会	社会文教委員会	産業建設委員会	予算決算委員会				リニア推進特別委員会				
				全体会	総務分科会	社会文教分科会	産業建設分科会					
委員会	8	12	7	11	8	10	12	4	23	1	12	－
協議会	13	18	14	－	－	－	－	－	－	－	－	8
計	21	30	21	11	8	10	12	4	23	1	12	8

(4)請願陳情

①請願議決結果一覧表

所管	受理番号	要旨	上程 年月日	議決 年月日	議決 結果
社文	6請願 第1号	県に対し、「へき地教育振興法に鑑み、へき地手当等支給率を近隣県並みの水準に戻すこと」を求める意見書を提出願いたい	6.5.21	6.6.21	採択
社文	6請願 第2号	国に対し、「さらなる少人数学級推進と教員増のための教育予算確保」及び「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める意見書を提出願いたい	6.5.21	6.6.21	採択
総務	6請願 第3号	国に対し、女性差別撤廃条約選択議定書の速やかな批准を求める意見書の提出を願いたい	6.8.30	6.9.30	採択
総務	6請願 第4号	「地方財政の充実・強化を求める意見書」を採択し、国へ意見書の提出を願いたい	6.8.30	6.9.30	採択
総務	6請願 第5号	国に対し、「再審法改正の早期実現を求める意見書」を提出願いたい	6.11.29	6.12.25	採択

②陳情議決結果一覧表

所管	受理番号	要旨	上程 年月日	議決 年月日	議決 結果
委員会付託なし	6陳情 第1号	入札談合等関与行為防止に関する陳情書			審議なし
委員会付託なし	6陳情 第2号	対外的情報省の設置と都内米軍施設７か所の見直しについて、国へ意見書を提出されたい			審議なし
委員会付託なし	6陳情 第3号	ガザ地区の即時停戦のための積極的外交を政府に要求する意見書を国へ提出されたい			審議なし
委員会付託なし	6陳情 第4号	王　乖彦さんの早期救出を求める意見書を国へ提出されたい			審議なし
社文	6陳情 第5号	国に対し、政府の責任で医療・介護施設への支援を拡充し、すべてのケア労働者の賃上げや人員増を求める意見書を提出願いたい	6.8.30	6.9.30	不採択
社文	6陳情 第6号	国に対し、訪問介護費の引き下げ撤回と、介護報酬引き上げの再改定を早急に行うことを求める意見書を提出願いたい	6.8.30	6.9.30	不採択
社文	6陳情 第7号	国に対し、現行の健康保険証の存続に関する意見書を提出願いたい	6.8.30	6.9.30	不採択
社文	6陳情 第8号	市に対し、加齢性難聴者の補聴器購入費に対する公的助成制度を創設するよう要望願いたい	6.8.30	6.9.30	不採択

(5)定例会の質問事項
① 令和6年飯田市議会第1回定例会一般質問通告表

令和6年3月12日、13日

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
1	古　川　仁 （日本共産党）	1　市の危機管理について (1)　大規模な震災時での水の確保について ①　大規模な震災時、断水が予想されるが、市の水の確保は ②　能登半島地震でも井戸水の重要性が報道されていたが、井戸水に対する市の考えは ア　避難所等への井戸の設置状況は イ　震災時、井戸水をくみ上げるための電源について 2　市の子育て支援について (1)　国が進める「こども誰でも通園制度」について ①　この制度に対する市の考えは ②　一時預かり事業と同様となると保育の質の低下が懸念されるがどうか ③　保育の現場では安全や体制の確保など不安との声もあるが、市の対応は 3　市の福祉について (1)　難聴の方への支援について ①　難聴者が日常生活を維持するためには補聴器が必要不可欠と思うが、市として補聴器助成の考えは
2	小　林　真　一 （公　明　党）	1　これからの災害対策について能登半島地震から見えてきたものは (1)　令和6年度当初予算（案）における「地域のつながりと防災力の向上」への市長の思いは (2)　地震災害時の水の確保について ①　飲料水について標準的な家庭が必要とする備蓄量は、また災害備蓄倉庫の備蓄量の考え方は ②　各地区における水の確保に関わる不安や課題を地震被害想定調査に反映させる考えは ③　当市における公共の災害井戸、井戸水、湧水の管理、把握状況は、また重要性への認識は ④　上水道、井戸水及び湧水の水質検査の頻度や料金は ⑤　飲料水の確保について地元企業との連携は ⑥　飲料水の確保の面から液体ミルクを備蓄する考えは (3)　災害時の支援活動の機動力確保のために ①　能登半島地震から見えてきた機動力確保の重要性と課題は ②　市における赤十字奉仕団のバイク隊の活動状況や位置づけは、また課題は ③　災害時の自転車の活用の可能性についてはどう考えるか (4)　これからの災害対策における地域コミュニティについての市長の考え方は (5)　避難所の環境整備について ①　学習環境の改善と災害時の避難所機能強化のため、小中学校の体育館へのエアコン設置を計画的に進めてはどうか ②　避難所開設・運営マニュアルの見直しなど、女性リーダーの育成や登用の考えは (6)　災害ケースマネジメントについて ①　被災者の生活再建へ向けた足掛かりとしてどのようなものか ②　当市における取組状況は ③　能登半島地震など、過去の災害から見えてきた課題と対応策は

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
3	小　平　彰 （新政いいだ）	1　災害に対する考え方について (1)　大規模災害時の対応について ①　南海トラフ地震に対する市の被害想定をどのように捉えているか ②　市が配備した災害時使用備蓄品は十分か ③　災害時の市民に対する情報伝達体制は十分か (2)　災害に備えての体制について ①　自主防災活動の取組状況を市はどう認識しているか ア　各地区の自主防災会組織の現状と課題は イ　自主防災機能を充実していくための市の今後の取り組みはどうか ②　消防団員及び飯田市赤十字奉仕団員確保に向けて ア　現状と課題をどう認識しているか イ　団員確保に向けて市はどの様な取り組みを考えているか 2　市の大規模事業について (1)　リニア中央新幹線関連について ①　JR東海の「開業時期2027年以降」の発表による影響は ②　リニア駅前広場及び駅周辺道路の整備に向けたスケジュールは (2)　大規模事業の見通しについて ①　長期財政見通しと大規模事業の整合は
4	市　瀬　芳　明 （日本共産党）	1　eスポーツの考えについて (1)　eスポーツをどのように捉えているか ①　eスポーツに対する市の認識は ②　eスポーツのメリット、デメリットは ③　市で行われているイベントなどはあるか (2)　eスポーツの持つ可能性について ①　地域振興に活かせるか ②　教育ツールとして成り立つか ③　共生社会へのツールとしてはどうか 2　誰でも安心でき暮らしやすいまちを目指すための考えについて (1)　障がい者差別解消法の改正内容について ①　何が変更されたか ②　合理的配慮の提供とはどのような配慮を指すのか ③　市ではどのように周知しているか、また周知が進んでいると考えるか (2)　ユニバーサルデザインの考えについて ①　物的環境への配慮の状況は ア　社会的障壁の除去は進んでいるか ②　新たな補助金創設の研究はしてきたか ③　意思疎通への配慮の状況は ア　市の窓口対応の状況は イ　緊急時の伝達方法は
5	西　森　六　三 （会派きぼう）	1　地域医療支援病院及び基幹病院である飯田市立病院について (1)　飯田市立病院の病院経営について ①　コロナ感染症が5類に移行となり、コロナ関連補助金が減額となる中で病院経営の現状は ②　経営上の問題点はあるか ③　経営の安定化に向けた今後の取り組みは (2)　地域医療支援病院としての選定療養費について

No.	氏　名	項　目　・　要　旨
	西　森　六　三	①　2022年10月に初診5,500円から7,700円に、再診2,750円から3,300円に料金改定されているが算定根拠は ②　選定療養費の検証について ア　近年の選定療養費の請求件数と総額の年間の推移は イ　選定療養費は、専門医療や高度先進医療及び3次救急等の重症医療を診療対象としており、軽症者の直接来院に抑制を促す目的を持った特別診療費と思うが、その効果の検証は ③　選定療養費負担に対する理解度を上げるための周知方法は十分か ④　直接来院時における選定療養費負担の除外となる条件が示されているものの、判断基準が明確でない部分があるが、どのように運用しているか ⑤　今後、選定療養費の増減を診療収入源としてどう考えるのか (3)　医療スタッフの専門資格について ①　看護師における専門看護師、認定看護師、認定看護管理者等の専門資格について ア　取得の推奨の考えは イ　取得するための優遇制度を設けているか ウ　取得後の待遇はどうか エ　特定行為看護師養成に対する考え方は ②　医師等の各種医療スタッフ分野の専門資格に対する考え方は
6	福　澤　克　憲 （会派きぼう）	1　コロナ禍からの物価高騰における子育て世帯、市民生活の状況について (1)　コロナ禍においての支援制度終了後の現状について ①　生活福祉資金制度（緊急小口資金・総合支援資金）の返済免除（コロナ特例措置）・償還状況、現行制度の活用状況は ②　生活保護世帯の認定状況は (2)　物価高騰対策給付金事業等について ①　子育て世帯生活支援特別給付金（低所得世帯）の支給状況は（国5万円、県3万円） ②　生活応援追加給付金（住民税非課税世帯）の支給状況は（1世帯7万円） ③　生活支援金（水道料金負担軽減含む）の交付状況は（全世帯1万円） ④　生活応援給付金（住民税均等割のみ課税世帯：1世帯10万円、住民税非課税世帯・住民税均等割のみ課税世帯の児童1人5万円）の進捗状況は (3)　児童扶養手当の受給者の状況は (4)　福祉医療費（ひとり親家庭等）について ①　助成額、対象者の状況は ②　現制度は所得制限を児童扶養手当に準拠しているが、所得制限をなくす考えは (5)　就学援助費の現状について ①　認定状況は ②　支給方法についての県内他市町村の対応状況と市の研究状況は (6)　各支援制度に共通する要件等（生活保護世帯、住民税非課税世帯、住民税均等割のみ課税世帯、児童扶養手当認定世帯等）を共有し、横の連携を図ることで、事務処理の軽減につなげてはどうか (7)　地方財政計画に掲げられている「こども・子育て政策の強化に係る地方財源の確保」、普通交付税の新たな算定費目「こども子育て費」をどう捉えているか
7	清　水　勇 （会派きぼう）	1　令和6年度当初予算について (1)　令和6年度当初予算のポイントと予算編成の基本的な考え方は

No.	氏　名	項　目　・　要　旨
	清　水　勇	①　いいだ未来デザイン2028中期計画の着実な推進について、9項目掲げているがその内容は ②　飯田市当初予算（案）の概要では戦略計画における基本目標ごとの主な事業が148項目を掲げている ア　令和6年度の事務事業は328あり、主な事業として148項目取り上げているのはなぜか イ　148項目のうち新規、拡充、継続とあり、新規と拡充が多いと思うがその考え方は ウ　予算編成の中で廃止事業はあったか エ　一般会計の予算額が過去最大になった要因は オ　令和6年度一般会計の地方債が増加し、財政調整目的基金が減少するが、財政に無理のある予算になっていないか (2)　今年度は市長就任後4年目の予算編成に当たり、市長は14項目のマニフェストを踏まえたか ①　4年前市長は、対話と現場主義で心通う市政をつくる、また再構築した「新・環境文化都市」創造プランを掲げ「自然よし、くらしよし、経済よし」の「日本一住みたいまち」を目指すと発言した。4年目を迎えてどう総括して予算編成に臨んだか ②　任期は後8ヶ月あるが、市長の市政に対する今後の考えは 2　天龍峡国定公園の安全対策について (1)　遊歩道の安全対策について ①　遊歩道の整備と安全対策の現状は ア　鉄柵と木柵の安全対策は ②　昨年の豪雨で龍江側の遊歩道が崩落しているが、現在の取組状況は ア　ゲリラ豪雨の影響と考えられるが、今後の対応は (2)　国定公園内の木々の管理について ①　2月26日に、天龍峡では突風があり公園内の木が倒れ姑射橋（こやきょう）近くの民家の屋根を破損したが、公園内の木々の安全確認と管理状況は ②　伐採した方が良いと思われる木や、倒れ止めの補強をした方が良いと思う木が国定公園内にあるが、市の考えは
8	木　下　徳　康 （新政いいだ）	1　脱炭素の取り組みについて (1)　ゼロカーボンシティ宣言をした飯田市ではあるが、「カーボンマイナス」という概念をどう捉えるか (2)　飯田市が行う先進的な環境施策は企業誘致につながるか ①　RE100の評価と加盟企業の今後の展開をどう考えるか ②　飯田市の企業誘致はRE100加盟企業、あるいは脱炭素に積極的な企業を中心に据えてはどうか ③　脱炭素に積極的な企業の誘致に相応しい市となるには 2　人口が減少する中での松尾浄化管理センターのあり方について (1)　松尾浄化管理センターの現状は (2)　松尾浄化管理センターの発電について ①　メタンガスによる発電は脱炭素の観点からもさらに進めるべきではない ②　飯田竜水園の汚泥を松尾浄化管理センターのメタンガス発酵に活用できないか ③　メタンガスによる発電の売価は、固定価格買取制度で39円/kWhであるため場内使用でなく売電してはどうか (3)　今後の松尾浄化管理センターのあり方について

No.	氏　名	項　目　・　要　旨
	木　下　徳　康	①　人口が減少する中で、殊に飯田竜水園のし尿の処理量は減少していることもあり、松尾浄化管理センターと飯田竜水園を統合する検討も必要であると思うがどうか ②　松尾浄化管理センターを管理する上下水道局を利用する市民は、「お客様」か「オーナー」か
9	宮　脇　邦　彦 （公　明　党）	1　社会構造の変化による市民の尊厳を守る取り組みについて (1)　終活支援をどう考えるか ①　当市における2040年将来世帯推計をどう見るか ア　世帯総数、夫婦と子の世帯、夫婦のみ世帯、単身世帯（うち65歳以上世帯）は ②　終活支援とは、どうあるべきか ア　当市における、引き取り手のない遺骨の処置は イ　終活支援の先進地、横須賀市での生前意思を生かす行政の取り組みをどう捉えるか ③　なぜ当市では、終活が問題視されて来なかったのか ア　当市における終活相談件数の実態はどうか イ　終活が問題視されない要因をどう考えるか ④　身寄りのない人、頼れるご家族やご親族のいない人へ、その人の終活への意思をどう確認するか ⑤　高齢者台帳整備の見直しや、単身世帯への聴き取りの必要性をどう考 ⑥　社会的孤立対策ともなる、終活支援の本質をどう捉えるか
10	佐々木　博　子 （会派みらい）	1　飯田市の新しい公共交通について (1)　公共交通の利用対象者はどの層を想定しているか (2)　交通弱者を「歩ける弱者」と「歩けない弱者」に分けて考える必要はないか (3)　路線バス・乗合タクシーの運行ダイヤ・停留所の見直しをどのように考えてい (4)　運転手不足への対応について (5)　AIオンデマンド交通の導入をどう考えているか (6)　飯田市のまちづくりにおける公共交通のあり方をどのように考えるか 2　一人ひとりがイキイキと活躍できるまちづくりについて (1)　「自分の食器は自分で洗おう運動」の真意は (2)　男女がともに活躍できる環境づくりと無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の影響について
11	下　平　恒　男 （新政いいだ）	1　公民館の設備充実と避難所としての役割について (1)　20地区公民館の空調設備の設置状況は ①　施設全体としての設置状況は ②　今後の設置計画とその基準は ③　有事の際に利用が見込まれる、調理室への設置状況は (2)　公民館の避難所としての役割について ①　4年ぶりに実施された、地震総合防災訓練の状況は ②　災害発生時の住民の避難手順と、公民館の避難所としての役割は (3)　多くの役割が求められる20地区公民館の空調も含めた施設の充実に向けた今後の方向性は 2　農地法の下限面積撤廃による農家資格の考え方について (1)　令和5年4月の下限面積撤廃後の農地利用の状況は ①　近年と比較して農地の利用状況は改善しているか、また下限面積撤廃が要因となった好事例はあるか

No.	氏　名	項　目　・　要　旨
	下　平　恒　男	(2)　農家資格の考え方について ①　新規就農者や農地の借り入れ希望者への対応は ②　新しい基準の必要性は
12	筒　井　誠　逸 （新政いいだ）	1　飯田市のDX推進について (1)　市民のために何を推進してきたか ①　市民にとってメリットがあった具体的な事例は ②　公共施設や葬祭火葬等の予約から支払いまで完結できるシステムの導入状況は ③　市民にデジタル技術を身近に感じてもらうための取り組みとして、初心者向け講習会及びデジタル体験会の開催状況は ④　マイナンバーカードを用いたオンラインによる転出入手続きの利用状況は。また、マイナンバーカードの普及率は (2)　庁内のDXの推進について ①　DXによる効率的な事務処理や業務プロセスの見直しができた具体的な事例は ②　DX推進に向けた推進体制は ③　相談業務のオンライン化はどうか ④　広聴のDX化の現状と今後の対応をどう考えるか
13	関　島　百　合 （会派みらい）	1　移住・定住施策について (1)　飯田市の移住・定住施策が成果をあげている要因は (2)　飯田市に移住した人たちとの関係づくりをどのように行っているか (3)　教育を介する人の流れについて ①　教育移住の実態はどうか ②　地域外の中学・高校へ進む生徒の現状はどうか 2　市の教育施策について (1)　人口減少が進む中で、市はどのような教育を目指していくのか (2)　令和4年度から始まった高校の「総合的な探究の時間」をどうサポートしていくか (3)　交通体系の変化に伴い、人流にも変化が起きることが想定されるが、「飯田市これからの学校のあり方審議会」ではどのような検討がなされているのか 3　出産と産後ケアについて (1)　飯田市立病院の産科について ①　現状と課題は ②　先進事例をどう捉えるか ③　出産した女性たちの声にどう応えていくか (2)　産後ケアについて ①　飯田市の取り組みの特徴は ②　産み育てやすい環境づくりの一助として、出産した女性たちをどう支えていくか
14	原　和　世 （会派みらい）	1　飯田市のこれからの学校のあり方について (1)　「飯田市これからの学校のあり方審議会」の審議経過に関して ①　学級・学校の適正規模は ②　保護者アンケートは ③　特色ある教育活動は ④　地域と学校との関係性は ⑤　小中一貫校と「9つの学園」構想は ⑥　今後の取り組み方は

② 令和6年飯田市議会第2回定例会一般質問通告表

令和6年5月28日、29日

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
1	小　平　彰 （新政いいだ）	1　人口減少社会でも住み続けたい飯田市について (1)　人口減少社会を飯田市はどう考えるか ①　飯田市の人口ビジョンを2028年に96,000人としたが現状はどうか ②　人口推移をどのように捉えているか ③　飯田市の生産年齢人口について ア　生産年齢人口の変化はどうか イ　働く環境整備の具体策は ウ　飯田市に住むための支援策は ④　飯田市の若年女性の状況について ア　若年女性人口の変化はどうか イ　若年女性が住みやすい環境にどう取り組むか (2)　住み続けたい生活環境をどう考えるか ①　市民の意識に関する基礎世論調査「子どもを産みやすい環境が整備されているか」の状況は ②　文化・スポーツ環境の整備 ア　移動手段としてAIオンデマンド交通の考えは イ　グラウンドの芝生化に向けた整備の進捗状況は ウ　令和元年度に実施した生徒アンケートによるスポーツ以外の文化芸術活動の環境をどう考えるか
2	岡　田　倫　英 （会派きぼう）	1　リニア中央新幹線の開業遅れが与える影響について (1)　2027年開業が実現できる状況にないとJR東海が公式に示したのを受け、新しい対処が必要ではないか ①　デザインノートの組み立ては ②　駅前広場の維持と活用は ③　リニア駅前広場整備に関する3つのプロジェクトの進め方は (2)　全市的な土地利用計画の見直しのうちリニア開業を前提とする課題は何か (3)　中期財政見通しは財政の平準化を意識していると理解するが、大型事業の実施時期をどう考えるか 2　児童生徒の運動能力、体力向上について (1)　飯田市の子どもの体力・運動能力が全国平均を下回る傾向が続いているが、原因分析はしているか ①　コロナ禍の運動習慣はどうだったか ②　日常生活全般の身体活動量は把握しているか (2)　スポーツ庁が運動習慣の二極化対策を提唱しているが、飯田市はどう取り組んでいるか (3)　部活動の地域移行が検討されているが、体力・運動能力向上に資する考え方を持っているか
3	橋　爪　重　人 （新政いいだ）	1　能登半島地震から見えてきた問題点、対策はどうか (1)　水道水の供給問題と対策について ①　能登半島地震により水道の供給について被災市の中には断水の解除が遅れていると報道で聞いているが、未だ復旧に至らない要因をどのように想定しているか ②　市内で同様な事例が起こりうる地域はあるか、あるとすればその対策をどう考えているか

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
	橋　爪　重　人	③　今後被害想定を策定する中で、天竜川を渡り供給する水道水を別の系統からも供給できる計画を取り入れたらどうか (2)　能登半島地震により倒壊家屋の撤去が進まない要因をどう捉えているか 2　相続登記の義務化について (1)　相続登記はなぜ必要か、その対策は何か ①　相続登記義務化の内容は ②　今回の義務化となった制度の背景をどう捉えているか ③　今まで相続未登記の不動産を所有している人が3年以内に行える対処方法はどのようなものか ④　市民への周知は今までも行っていると思われるが、義務化になったことに対して今後市としてどのように関わっていくのか
4	古　川　仁 （日本共産党）	1　市職員の現状について (1)　令和4年第2回定例会で「市民から信頼される組織」を目指して取り組むとしたが、その後の取組経過は ①　全職員へのコンプライアンス研修は ②　各種再教育の実施は ③　職員採用による補充は ④　メンタルヘルスチェック等の実施は (2)　窓口対応について ①　研修や教育が窓口業務に生かされているか ②　様々なケースが考えられるが、窓口で辛い思いをされている市民の方を把握しているか (3)　職員配置をはじめとする組織体制や職場環境を整備する責任者としての市長の考えは
5	山　崎　昌　伸 （新政いいだ）	1　安心、安全のまちづくりについて (1)　「事前復興」という考え方についての市の認識は (2)　能登半島地震被災地支援派遣職員報告会において、飯田下伊那地域に生かすべき教訓として「倒壊しない建物に暮らすことが最も重要」としているが、これをどう実現しようとしているか ①　住宅の耐震化のここ10年の進み具合について、耐震診断数と耐震改修数の傾向はどうか ②　飯田市における直近の住宅の耐震化率は ③　飯田市耐震改修促進計画に掲げる「住宅の耐震化率を令和7年度に90％」の目標について達成の見通しは ④　能登半島地震を受けて、耐震改修促進に向けた新たな取り組みはあるか ⑤　耐震化が伸び悩んでいる要因をどう捉えているか ⑥　耐震化の促進に向けてふるさと納税の活用を考えてはどうか 2　コロナ禍における行政の対応について (1)　コロナ禍における行政としての対応についての振り返りと検証はどこまで進んでいるか ①　公民館活動の記録を残す取り組みはどこまで進んでいるか ②　取りまとめたものの公表の時期と方法は (2)　コロナ禍での対応のあり方から何を学び、次のパンデミックには何をどう生かすか、といった視点での検証がなされているか (3)　次のパンデミックの際の主管部署は危機管理部が妥当か

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
6	福　澤　克　憲 （会派きぼう）	1　持続可能な地域公共交通、環境にやさしい移動手段について (1)　電車、路線バス、乗り合いタクシーの利用状況をどう分析しているか (2)　自動運転サービス導入時の交通影響評価の状況は (3)　飯田市におけるライドシェアの考え方は (4)　持続可能な地域公共交通を維持していくためには (5)　環境にやさしい移動手段について ①　環境にやさしい移動手段の普及啓発とは ②　自転車市民共同利用システムの廃止の影響は ③　ヘルメット購入支援の状況は（自転車利用者の把握） ④　電車の輪行、自転車との並行利用の考え方は 2　働くことを軸とする安心社会の実現に向けて (1)　2024年問題の当地域の状況について ①　運送業、建設業、医師の時間外労働の上限規制の影響は (2)　ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて ①　国の認定・県の認証制度の市内事業者の取得状況は ②　認定・認証を受けた事業者を支援する市独自の制度資金、利子補給の活用状況は (3)　今後の方向性は
7	市　瀬　芳　明 （日本共産党）	1　地域共生社会とこれからのPTAの在り方について (1)　PTAの認識と位置づけは ①　PTA加入は任意となっているが、意思確認などはどのように行われているか ア　保護者に対しPTAについての説明や活動目的、加入に対する説明などはどのように行われているか ②　PTA活動に対し教育委員会として学校側との連携をどのように行っているか (2)　PTAを取り巻く変化への対応は ①　飯田市PTA連合会における各校正副会長への充て職は必要か ②　PTAへのICT支援はしていけるか ③　PTA会費は就学援助費に含まれるか (3)　地域共生社会を意識したPTCAの考えは ①　飯田コミュニティスクールとの関わりについて ア　学校運営協議会委員の中に地域住民とあるが一般公募はあるか イ　どの位の地域住民がコミュニティスクールへ関わっているか ②　保護者（P）とコミュニティ（C）との連携についてどのように考えるか (4)　PTAの在り方を検討するにあたっての考えは ①　「子どものため」であることが実感できる時代に合ったPTA活動とはどんなことが想定されるか
8	木　下　徳　康 （新政いいだ）	1　燃やすごみの減量について (1)　現状は ①　広報いいだ5月号の記事は燃やすごみの特に生ごみの減量ということでいいか ②　ごみの減量により望める効果は ③　飯田市の3Rの現状の捉えは ア　1人1日当たりのごみ排出量は イ　リサイクル率は ウ　ごみ処理量当たりの発電電力量は

No.	氏　名	項　目　・　要　旨
	木　下　徳　康	④　ごみの減量に取り組むことは環境文化都市宣言をしている市として重要だと思うがどうか (2)　今後の取り組みは ①　稲葉クリーンセンターの焼却炉に生ごみをなるべく入れないことが重要と考えるがどうか ②　生ごみを分別収集し、リサイクルすることが理想と考えるがどうか ③　分別収集することはオーガニックビレッジ宣言の「環境に配慮した農業」に繋がる重要な側面があると思うがどうか
9	小　林　真　一 （公　明　党）	1　飯田市におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の現状とこれからについて (1)　DXとマイナンバーカードの関係性は ①　DXにおけるマイナンバーカードの位置づけは、また普及状況は ②　マイナンバーカードを活用した本庁と各自治振興センター、またコンビニで交付できる書類に違いはあるか ③　コンビニ交付について現状と課題、周知等はどこまで進んでいるか ④　マイナンバーカード活用により更に市民サービス向上につながる具体策は (2)　市民サービス向上のためのDXの取り組みは ①　押印廃止の現状と市民の反応は ②　書かない窓口サービスの現状はどこまでできているか、これからの拡大は ③　AIチャットボットの利用状況や回答精度向上に向けた取り組みと現状は ④　デジタル弱者を生まないための考え方は (3)　行政の業務におけるDXの現状と今後は ①　職員不足や業務量の増加に伴うDXの有効性をどう考えるか、また現状と今後は ②　コロナ禍を経てDXによりどのように変わってきたか、また市民ニーズに合った業務ができているか ③　セキュリティ対策の体制はどうか (4)　市の総合計画におけるDXの考え方は ①　中期計画では基本目標13に位置づけられているが、その考え方は ②　後期計画の策定の中にDXをどう位置づけるか
10	永　井　一　英 （公　明　党）	1　能登半島地震から学んだ、大規模災害への防災・減災対策について (1)　罹災証明書に関して、迅速な手続きのためにマンパワーの増強や住家の被害認定調査の抜本的な簡略化が課題になっていた。飯田市の認識と対応は (2)　二次避難も課題になっていた。飯田市はどう考えているか (3)　女性の視点を活かした防災・復興対策の重要性が指摘されていた。飯田市は、令和6年度に、避難所開設・運営マニュアルと備蓄品を女性の視点で見直すとしている。防災会議などへの女性の登用が必要だが、構想段階からの女性の参画も必要と考える。具体的にどのように進めるか 2　リニア中央新幹線開業を見据えた都市間交流について (1)　品川区の市民・事業者・行政との交流は、どのようなものがあり、どのように進めてきたか (2)　2015年にオープンした「KAIDO」の背景、目的、経緯と現状は (3)　首都圏の玄関口である品川区との連携について、市長はどう考えるか
11	宮　脇　邦　彦 （公　明　党）	1　子どもの幸福を実現する教育について (1)　AI時代の「読解力」をどう考えるか

No.	氏　名	項　目　・　要　旨
	宮　脇　邦　彦	①　「子どもの読書活動の推進に関する法律」とは、どのような法律で、当市はどう生かしているか ②　子ども時代の本との出会い、読書の魅力について、教育長の受け止めは ③　これからの学校での生成AIの活用をどう考えるか ④　一人一人の可能性を開く教育、自律的学習の基礎をなすのが「読解力」と考えるが、当市の認識は ⑤　人間形成の教育の実現へ「読解力」をいかに高めるか、市長の考えは 2　誰ひとり取り残さない情報のユニバーサルデザインについて (1)　視覚に障がいのある方の情報取得について、音声コード（Uni-Voice）の利用促進をどう進めるか ①　「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」について、当市の受け止めと取り組みは ②　視覚に障がいのある方の実態把握の現状は ③　情報コミュニケーション・アクセシビリティに関する相談窓口の設置と取り組み内容は ④　市の通知書類で、音声コード（Uni-Voice）は活用されているか、また音声コード（Uni-Voice）記載への課題は何か ⑤　音声コード（Uni-Voice）普及への市長の考えは
12	関　島　百　合 （会派みらい）	1　飯田市の文化と文化施設について (1)　飯田市美術博物館を取り巻く状況は ①　今後10年で必要となる収蔵スペースの概算をまとめるとあるが、その根拠は ②　菱田春草、田中芳男、柳田国男を市民にとって身近な存在にするためには ③　飯田創造館の事業とつながり開催されてきた「現代の創造展」の今後をどう考えるか (2)　飯田文化会館の役割は ①　旧飯田市公民館と飯田創造館で活動してきた音楽グループの使用は ②　この地域出身の音楽家や、この地域で活動する芸術家と市民をつなぐことが必要だと考えるがどうか (3)　新飯田文化会館の整備は ①　身近に感じられる複合施設への考えは ②　他の文化施設が担ってきた役割とつながる部分は (4)　飯田市歴史研究所の状況は ①　施設整備に向けた考えは ②　古文書等の史料の収蔵状況は ③　収蔵史料に検索機能を設ける考えは ④　持続可能な研究体制の考えは ⑤　21年目を迎える飯田市歴史研究所への市長の思いは
13	清　水　優　一　郎 （新政いいだ）	1　地域防災力の維持・強化について (1)　予測される巨大地震や激甚化する風水害に対しては特に、自衛消防組織や自主防災組織への積極的な支援がこれまで以上に必要と考えるがどうか 2　小・中学校の教育環境の充実について (1)　「飯田市これからの学校のあり方審議会」の一次答申を踏まえ、当事者を中心に早急に検討を始める必要があると考える。今後の検討の具体的な進め方とスケジュールはどう考えているか

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
	清 水　優 一 郎	3　持続可能な地域自治について (1)　地域社会を取り巻く環境変化を踏まえ、これからの地域づくりにおける行政の役割をどう考えるか。また、多様化する住民ニーズや地域課題解決のために行政はどう貢献するか 4　いいだ未来デザイン2028後期計画の基本的な考え方について (1)　市の総合計画は、誰の、何のために策定し、その実現を目指すのか。市長の考えは
14	原　　和　　世 （会 派 み ら い）	1　市の財政運営について (1)　今後10年間の財政見通しと財政運営目標に関して ①　財政見通しによると財政調整基金が令和11年には底をつくことになるが市長はどの様に受けて止めているか ②　リニア関連事業と文化会館建設が要点と思うが、どのように考えていくか ③　歳出に関して増加が見込まれる特徴的な歳出項目として人件費・物件費・扶助費があるが、その背景は何か ④　期間内に実施を見込む普通建設事業費の内訳と財源見込みを示すことは ⑤　地方債300億円を期間内の目標とした考え方は ⑥　行財政改革大綱の令和6年度実行計画にある「実態に即した無理のない堅実な財政運営の実現」の具体的な内容は

③ 令和6年飯田市議会第3回定例会一般質問通告表

令和6年9月4日、5日

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
1	小　平　彰 （新政いいだ）	1　休日の学校部活動の地域クラブ活動への移行について (1)　国が策定したガイドラインでは令和5年度から令和7年度までが改革推進期間だが市のスケジュールは (2)　市の考え方及び進め方について ①　部活動の地域移行の説明を生徒・保護者にどのように行ったか ②　部活動を地域にどのように移行するか ③　運営団体・指導者をどのように考えるか ④　活動場所はどのように考えるか ⑤　地域移行に伴い活動費をどのように考えるか ⑥　地域との連携をどう考えるか 2　情報のデジタル化について (1)　飯田市公式LINEでの情報について ①　市の情報をどのような基準で発信しているか ②　災害時はどのような情報が発信できるか ③　市民の利用状況はどうか (2)　情報ツールで双方向の活用はできないか ①　独居高齢者の見守りはできないか ②　災害時の情報連絡や安否確認はできないか
2	筒　井　誠　逸 （新政いいだ）	1　市職員の働き方改革について (1)　市立病院における医師・看護師・事務員の勤務の現況は ①　労働基準法第36条の労使協定はどのように締結されているか ア　宿直の勤務時間は、一回何時間か イ　宿直の月平均回数は、一番多い産科医師が4.36回となっており、個人の負担が大きいと思うが、問題はないか ウ　勤務時間の管理方法として、市立病院独自の就業システムを導入しているが、どのような運用をしているか。また、その結果の管理は誰がしているか エ　病院ではさまざまな人が働いていて、人間関係も大変な中で心理的要因で退職した人もいると聞いているが、実態は把握しているか オ　働き方改革で現在行っていることと、今後行っていきたいことは (2)　市職員全般の勤務状況について ①　「人事行政の運営等の状況」から ア　人員不足はあるか。あればどの部局か イ　1週間を超える療養休暇取得者が延べ97人となっているがどう考えるか。また、改善策をどう考えているか ウ　令和4年度、休職者に対する分限処分を29件、減給戒告などの懲戒処分を4件、訓告を9件行っているが、どう捉えているか。また、件数は増加傾向にあるか エ　有給休暇は年20日付与されているが、令和4年度の平均取得日数は8.8日と少ない現況をどう見るか ②　「職員の仕事と生活の調和の推進に関する事業主行動計画」から ア　この計画の「事業主」とは誰を指すか

No.	氏　名	項　目　・　要　旨
	筒　井　誠　逸	イ　育児休暇を取得する女性職員の実績は過去4年間全て100％であるのに対して、男性職員の実績は令和4年度で25.8％、また、配偶者出産休暇取得率は48.4％、出産に伴う養育休暇の取得率に至っては16.1％と年々下がり続けている。原因は何と考えるか。また、対策として何をしているか ウ　仕事と生活の調和について満足している職員の割合はアンケート結果で37.4％と低い。数値目標が45％以上となっているが、残りの55％近くの職員は不満があってもよいか (3)　若手職員のやる気を高めるためには上司の挑戦が大事だと思うがどうか ①　現状はどうか ア　Z世代・概ね30歳未満の若い職員の仕事への意欲をどう捉えているか。また、特徴についてはどうか イ　若者のモチベーションを高めるには上司として何が必要だと考えるか ウ　市職員の上司として市長はいま挑戦していることは何か。また、今後挑戦したいことは
3	古　川　仁 （日本共産党）	1　リニア駅周辺整備について (1)　JR東海は長野県駅工事において土曽川橋梁基礎工事の中詰め材として「要対策土」を活用することを表明したが市の対応は ①　「要対策土」を活用することについて市の考えは ②　市として「要対策土」について独自に調査研究する考えは ③　今後、市内で「要対策土」の仮置き場ができると聞くが市の対応は ④　市として市民・住民が理解するための周知は ア　組合未加入者へは イ　女性・若者へは ⑤　市民の命と暮らしを守るための考えは ア　「要対策土」活用についてJR東海と書面等を交わすべきと考えるがどうか イ　「要対策土」の活用中止をJR東海に求めてはどうか
4	福　澤　克　憲 （会派きぼう）	1　災害に備えた防災・減災対策の考え方について (1)　8月8日から15日まで、気象庁から発表された、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）について ①　市としての対応状況は ②　市民の皆さんからの反響は (2)　地域においての防災訓練の実施状況は (3)　天竜川の状況について ①　治水対策事業を行った天竜川上流部川路・龍江地区の土砂堆積の状況は ②　天竜川のしゅんせつの状況は ③　令和5年12月に改定された天竜川水系河川整備基本方針を受け、令和6年7月に改定された天竜川水系河川整備計画（特に基準地点である天龍峡の洪水調節施設による調節流量、河川整備流量）についての市としての考えは (4)　流域治水の考え方は ①　「田んぼダム」を活用した雨水調節機能の考え方は ②　雨水貯留浸透施設設置補助金の活用状況は (5)　地域の取組について ①　防災・減災対策として地域に望むことは ②　災害時助け合い・住民支え合いマップの実効性を高めるためには (6)　今後の方向性は

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
5	宮　脇　邦　彦 （公　明　党）	1　マイナンバーカードの普及とマイナ保険証の利用促進について (1)　マイナンバーカードの申請・交付状況はどうか ①　当市の交付状況について現状での受け止めは (2)　マイナ保険証の利用状況と当市の取組は ①　当市のマイナ保険証の利用率は ②　マイナ保険証の利用率低迷をどう捉えているか ③　既存の健康保険証の有効期限はいつまでか、更に有効期限が近づいた時の市民への対応は ア　資格確認書について、有効期限とその扱いは ④　マイナ保険証利用促進のための広報活動をどう進めるか ア　マイナ保険証利用のメリットは イ　神奈川県小田原市で行われた災害時にマイナンバーカードを生かす実証実験効果を、どう普及へ生かすか ウ　救急医療におけるマイナ保険証の利用方法は ⑤　マイナンバーカードを持っていない方への対応は ア　当市のマイナンバーカード（マイナ保険証）取得支援の現状は イ　必要な方への「特急発行」の仕組みについて、当市の準備状況は ⑥　マイナ保険証の必要性について、市長の考えは 2　がん予防の推進と支援について (1)　子宮頸がん（HPV）ワクチン接種の推進状況は ①　子宮頸がんとは、どのような病気か ②　HPVワクチンの効果は ③　当市のキャッチアップ接種率は ④　ワクチン接種率向上への対策は
6	佐々木　博子 （会派みらい）	1　子どもの声と希望が届くまちづくりについて (1)　子どもの貧困に関して ①　「子どもの貧困」とは何か ②　生活困窮世帯の孤立防止についての考え方は ③　貧困の連鎖を断ち切るための取組は (2)　子どもの権利に関して ①　「子どもの権利」とは何か ②　「子どもの権利保障をはかる総合的な条例」を制定する自治体が増えていることに対する市の見解は ③　「子どもの権利を守る」ことと「子どもの権利を認めたらわがままになる」「権利を認めるなら義務を果たすべき」の考え方の違いは ④　「（仮称）飯田市こどもまんなかプラン」にどのように反映させるか (3)　「ゆいきっず広場」の整備充実をどう考えるか
7	岡　田　倫　英 （会派きぼう）	1　魅力ある地域づくりに向けた男女共同参画社会について (1)　若年層の市民意識調査の結果をどう捉えるか (2)　年度戦略から女性の社会進出推進や子育て支援の充実は見受けられるが、「ギャップの解消」につながるか (3)　地域や習慣・しきたりへの関わりをどう考えていくか 2　今後の小中学校の在り方としての「学園構想」について (1)　「飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針第1次（案）」に対するパブリックコメント、地域協議会意見聴取を行ったが、寄せられた意見をどう受け止めたか

No.	氏　名	項　目　・　要　旨
	岡　田　倫　英	①　特色ある教育と通学区の関係は ②　第1次方針(案)の期間を10年とした根拠は ③　学校施設の配置・枠組を考える主体は (2)　市民への説明、対話を続けていく姿勢はどうか 3　小中学校の水泳授業について (1)　民間プールを利用した水泳授業の現状は (2)　今後も拡大していく考えか (3)　休止状態にあるプール施設の今後は
8	市　瀬　芳　明 (日本共産党)	1　健康で安心した生活が送れるまちについて (1)　温暖化や物価高騰等が生活に及ぼしている影響は ①　市民生活への影響について ア　猛暑の中でさまざまな生活面への影響が考えられるが健康面で安心できる生活が送れているか イ　物価高騰の教育費への影響はないか ②　公的施設などへの影響について ア　光熱費(利用料)への影響は イ　再生可能エネルギーの活用状況は ウ　スポーツ施設における熱中症対策は (2)　市民一人ひとりの生活を支援していくための医師会、歯科医師会、薬剤師会などとの連携について ①　ism-Linkを活用した取組は ②　適正服薬に向けた残薬整理への取組は
9	西　森　六　三 (会派きぼう)	1　拠点集約連携型都市構造(コンパクトシティ)の推進について (1)　拠点集約連携の考え方について ①　4つの拠点分類の地域拠点単位での拠点集約が必要ではないか ②　コンパクトシティの推進に向けて公共交通網の在り方をどう考えるか (2)　コンパクトシティの推進を考えた誘導について ①　誘導推進の状況は ②　具体的な取組は (3)　市有施設の在り方について ①　定期的なサイクルでの調査検討により見直しをするとなっている公共施設マネジメントの現状は ②　事後保全型に区分された施設の措置の現状は ③　公共施設等総合管理計画の変更はあるか (4)　地域ごとの住民主導型社会の推進について ①　公助と共助の在り方を考える中で、地域自治組織の果たす役割は何か ②　課題に対して行政が検討し施策や考え方を住民に提案し、住民が選択検討して決定するプロセスがより必要であると考えるがどうか
10	木　下　徳　康 (新政いいだ)	1　漏水時の水道料金と下水道使用料について (1)　現状について ①　漏水時の対応は ②　上下水道料金の更正の認定とは ア　漏水の認定の方法は イ　年間の認定数は (2)　個人負担軽減の必要性について

No.	氏　名	項　目　・　要　旨
	木　下　徳　康	①　メーターのデジタル化は ②　使用水量の漏水認定の更正は適切か ③　福祉的観点から支援できないか 2　給食費の公会計化と無償化について (1)　検討を進めている公会計化の進捗状況は ①　導入時期に目処はついたか ②　学校事務職員からの情報収集及び課題整理の状況、導入他市の調査結果は ③　導入に向けた課題はあるか (2)　給食費無償化は ①　現在の就学支援など該当する児童生徒への支援体制は ②　「誰ひとり取り残さない」の視点から無償化をどう考えるか
11	下　平　恒　男 （新政いいだ）	1　農作物被害の状況把握と対策について (1)　自然災害への対応は ①　被害状況をどのように把握しているか ②　多様化する被害に対して、対策をどのように進めるか (2)　野生鳥獣被害への対応は ①　当市の被害状況に近年変化は見られるか ②　対応策の検証と、今後の対応への課題は何か (3)　盗難被害への対応は ①　現状を把握する仕組みはあるか ②　被害軽減に向けて何らかの対策が必要ではないか 2　放課後児童クラブ等の運営状況について (1)　児童クラブ、児童館、児童センターなど名称がさまざまであるがその経緯と、取組内容に違いはあるか (2)　運営状況と課題について ①　現在のクラブ等の設置数と利用している児童数、及び職員の充足率はどうか ②　上郷小学校の改築工事に伴い、校内に児童クラブを統合して設置するがその利点は ③　職員不足を聞くが、運営する上でどのような課題があるか ④　人材確保や育成など、喫緊の対応が必要ではないか
12	関　島　百　合 （会派みらい）	1　介護保険証について (1)　介護を受ける認知症の高齢者への「介護保険証」「介護保険負担割合証」の交付の手続きを改善できないか (2)　介護事業者・ケアマネジャーの負担軽減に向けた改善策はあるか 2　「オーガニックビレッジ宣言」後の取組について (1)　「飯田市有機農業実施計画」に基づく取組は ①　地域相互認証制度の実態と今後の展開は ②　給食への有機米、有機野菜導入の現状と課題は ③　保育園や学校、調理現場での食育の取組状況は ④　「オーガニックファーム」の取組状況は ⑤　市民が農業を学ぶ機会を持つ考えは
13	小　林　真　一 （公　明　党）	1　時代の流れや変化に応じ、学校教育をどのように考え進めるか (1)　不登校児童、生徒の現状は ①　不登校児童、生徒の近年の推移は

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
	小　林　真　一	② コロナ禍による影響が少なからずあると思うが、原因分析はできているか ③ 人口減少による影響をどう考えるか ④ 不登校児童、生徒への対応の現状は (2) 飯田コミュニティスクールの現状は ① コミュニティスクールとは ② コミュニティスクールの取組状況は ③ これからの時代に地域と協働して子育てをしていくことのメリットをどう考えるか (3) 今、そしてこれからの子どもたちに育みたい力は ① 子どもたちに求められている力は昭和から平成、令和とどのように変化してきたと考えるか ② 学校教育における授業の変化は見られるが、家庭学習における変化はあるか ③ 長期休業の学習課題の目的と現状は ④ 家庭学習や長期休業の課題について時代の変化に応じた学び方への考えは (4) 人口減少やデジタル社会などの時代において、体験や経験が子どもの成長に大きな影響を与えると考えるが教育長の考えは ① 地域住民との関わりをはじめさまざまな場面で体験や経験をすることで、人間関係構築や自己肯定感を培うことの重要性をどう考えるか
14	原　和　世 （会派みらい）	1 市の財政運営に関して (1) 決算審査における行政評価と財政評価について ① 毎年の決算を評価する上で、行政評価に加えて財政評価を行うことは ② 令和5年度決算値から見た財政見通しは ③ 財政評価を決算から予算へつなげる上で以下の課題は ア 桐林クリーンセンターの取り壊しに係る費用負担は イ リニア駅前広場を2028年までに整備し供用することによって発生する運営経費の想定は ウ 文化会館建設に伴う財政上の留意点は 2 公契約条例に関して (1) 公契約条例の制定について ① 「働き方改革」関連法によって労働環境は改善する方向に進むが、賃金についても公契約条例の制定により改革を進めることは 3 飯田市これからの学校のあり方審議会に関して (1) 「飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針第1次（案）」について ① 諮問事項と答申の相対性と、答申と今後のあり方に関する方針の関係性は ② 令和7年4月からスタートする「学園構想」の形態について、複数の小中学校を学園とした際の一体性をどう構築するか ③ 審議会で議論が成熟しなかった学級・学校の適正規模と地域と学校の関係について今後の協議は ④ 諮問で求めていた審議会における調査・審議・提言を今後どのように考えていくか（小中一貫校・義務教育学校・小規模校・複式学級・最近に建設された学校などの調査） ウ 施設数の最適化と点検・修繕の考えは エ 教職員住宅の他への活用の考えは (4) 社会教育関連施設の実態は ① 風越山麓研修センターについて ア 運営状況と活用状況は

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
	原　　和　　世	イ　施設の老朽化の現状と整備状況は ウ　今後利用者を増やす考えは エ　利用期間の変更の考えは オ　利用促進に向けた広報の在り方をどう考えるか

④-1 令和6年飯田市議会第4回定例会委員会代表質問通告表

令和6年12月4日

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
1	永　井　一　英 (社会文教委員会)	1　こどもが安心して過ごせる居場所について (1)「外遊びをさせたいが、最近は暑過ぎて外で遊べない。遊んでも遊具でやけどをしてしまう。また、雨の日に体を使って遊べる場所が少ない」との多くの意見が寄せられた。市は調査研究しているが、考え方、方向性は (2) 公園について ① ママ、パパに「こどもをどのような環境の中で遊ばせたいか」と聞くと、「公園で」との回答が多く、また、意見も多く寄せられた。市は、公園の維持管理と遊具の管理をどのように進めているか 2　地域とこどもの繋がりについて (1) 中学生が取り組むボランティア活動について、学校や地域によって手続や関わり方は違うようだが、教育委員会の考え方と方針は (2) 長期休暇における寺子屋の取組など、こどもの居場所づくりに地域が関わることについて、市はどう考えるか 3　こどもまんなか社会について (1) こどもや若者の声を聴いて政策に生かすことの重要性について、市長はどう考えるか (2) 財源も限られる中で、子育て支援など「こども政策」をどこまで進めようと考えているか。市長の考えは 4　飯田女子高等学校の生徒などとの意見交換から気付かされたことについて (1) ライフデザインセミナーの必要性について、市はどう考えるか (2) 男女共同参画社会構築の必要性について、改めて市はどう考えるか 5　ママ・パパの産休、育休取得について (1) 市内の企業における産休、育休取得の現状をどのように認識し、企業への働きかけをどのように進めるか (2) 公務員の中でも、なかなか代替えの利かない職種について、どのように考えているか
2	福　澤　克　憲 (産業建設委員会)	1　地域内経済の循環について (1) 生産・販売について ① 企業立地の促進、人材不足対策について ア 産業団地の整備、企業立地・振興促進事業補助金の状況及び移住支援金(飯田市UIJターン就業・創業移住支援事業補助金)の状況は ② 地域資源の活用の考え方は (2) 分配(所得)について ① 所得の流入・流出から見た、移住定住の考え方は (3) 支出について ① 地域内への収入を増やすためには ア 外貨獲得についての考えは イ 更なるブランド化に取り組む考えは ② 域外への支出を抑えるためには ア 域産域消の考え方は イ 地域通貨実証実験の状況は (4) 今後の方向性について

④-2 令和6年飯田市議会第4回定例会会派代表質問通告表

令和6年12月4日、5日

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
1	清 水 優 一 郎 （新政いいだ）	1 「日本一住みたいまち」の実現に向けて (1) 「日本一住みたいまち」実現への歩みはどこまで進んだか ① 1期目4年間の市政運営の評価と課題について ア 市のリーダーとしては イ 市役所のトップ（事業主）としては ② 「いいだ未来デザイン2028」の進捗状況について ア 未来ビジョンで掲げた8つのまちの姿については イ 人口ビジョンについては ウ 市民満足度については (2) これからの市政運営の基本姿勢について ① 2期目の意気込みは ② 「いいだ未来デザイン2028」後期計画（案）に込めた思いは (3) 「日本一住みたいまち」実現に向けた具体的な取組について ① 住民主体による心かよう地域づくりに関して ア 組合未加入問題、組合加入率の低下、役員のなり手不足等に対する行政としての取組は ② 地域防災力の維持、強化について ア 消防団、赤十字奉仕団の団員確保、活動の充実のための取組は ③ 地域、ふるさとを守りつなぐ地域農業の振興に関して ア 中山間地域、農業振興地域に田畑とともに生きがいを持ってこれからも暮らし続けられるための施策は ④ 三遠南信自動車道の整備効果を地域振興、産業振興に生かすためには ア 道の駅遠山郷の再整備の進捗状況は イ 飯田山本インター産業団地（仮称）の進捗状況は ウ 飯田市全域の地域振興、地域内経済循環に向けて天龍峡パーキングエリアがそのハブ機能を果たすと考えるが、更なる活用の方向性は ⑤ リニア駅前広場の一部先行供用開始を見据えた民間投資の促進による地域経済波及効果に関して ア 民間事業者を巻き込んだ議論、官民連携（PPP）方式の導入検討は ⑥ 環境をテコにした地域産業の活性化、持続可能な地域経済の発展について ア 市内の事業者への「環境×経済」の促進をどのように考えているか イ 飯田市のこれからの目指す都市像を「環境文化経済都市」としてはどうか ⑦ 保育環境の充実、子育て移住、保育士移住の推進について ア 市内で働く民間保育所等職員の待遇改善がそれらに寄与しないか

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
	清 水 優 一 郎	⑧　学園構想の推進について ア　特に児童生徒数の減少が著しい竜東中学校区の各小学校においては、今後、学校生活におけるこどもの豊かな学びと成長の保障に課題があり、保護者からは早急に「施設一体型の小中一貫校」の設立を望む声が上がっている。地域の特色を生かした積極的統廃合に向けて、通学方法といった諸課題の解決策を検討しつつ当事者（児童、生徒、保護者、教職員、地域）の意向に沿ったスピード感でどのように進めていくか ⑨　大学誘致について ア　高等教育機関設置に対する現在の考え方は ⑩　飯田のブランディングとシビックプライド醸成について ア　来年5月導入予定のご当地ナンバープレート「南信州」を当地域のブランディングにどう活用するか (4)　より効果的な政策形成に向けた、政策サイクルの構築について ①　「日本一住みたいまち」の実現のためには「地域幸福度（Well-Being）指標」と「エビデンスに基づく政策立案（EBPM）」を政策形成、評価に用いることが有効と考えるがどうか
2	清　水　勇 （会派きぼう）	1　2期目の市政運営と来年度の予算編成について (1)　1期4年間の振り返りと2期目に向けての考えは ①　1期目は「新・環境文化都市」創造プランを掲げ取り組んできたが成果はどうか ②　2期目を迎え「環境文化都市創造プラン～第2章～」を市民の皆さんとともに進めるとあるが、今後の市政運営にどのように取り組むか (2)　来年度予算編成の基本方針は ①　予算編成について ア　原油価格、物価高騰等の現状を踏まえ、地域経済の状況や社会情勢の的確な把握と、国・県と連携した施策が必要と考えるがどうか イ　国の防災、減災、国土強靭化の推進において地方自治体にとって有利な起債が活用できるのは令和7年度までと認識している。期限を見据えた公共施設の計画的な整備をどう考えているか ウ　飯田市自治基本条例が施行され17年が経過したが、各地区の環境は大きく変わってきている。飯田市の目指す地域自治の姿をどのように描いていくか、更なる検証をどう進めるか エ　「雨の日などに遊べる親子交流施設」について、こども、若者、子育て当事者との意見交換を進め具体的な事業展開をしてはどうか オ　こども家庭庁が推進する「こどもまんなか社会」に応じ、こどもに優しいまちづくりを一層推進し、保護者の不安にも寄り添えるような支援に力を入れるべきと考えるがどうか 2　リニア中央新幹線の開業と三遠南信自動車道の開通を見据えたまちづくりについて (1)　リニアの開業が遅れるとJR東海から発表があったが、飯田市の今後の状況は ①　開業延期に伴う今後の飯田市の工事の方向性と施設の活用は ②　リニアの開業、三遠南信自動車道の開通を見据え、都市部からの移住政策を明確に打ち出し取り組むべきと考えるがどうか ③　三遠南信自動車道の開通を見据え、天龍峡IC周辺と令和7年秋オープン予定の道の駅遠山郷の活用にどのように取り組むか ④　国立公園について世界水準のナショナルパーク化が示される中、南アルプス国立公園の受け入れ態勢を検討してはどうか

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
	清　水　勇	3　環境に配慮したまちづくりについて (1)　ゼロカーボンシティ宣言に基づいた飯田市の取組の現状は (2)　ランドスケープデザインの観点から、まちづくりの取組をどのように考えているか (3)　南アルプスユネスコエコパーク、南アルプスジオパークの取組と今後の考えは 4　活力ある産業振興と地域活性化について (1)　地域資源の活用を視野に入れた具体的な取組状況は (2)　農業従事者の高齢化、後継者不足の現状を踏まえ、支援の考えは (3)　飯田市への移住定住の推進、空き家対策への取組の現状は (4)　森林施策の取組の現状と今後の考えは (5)　建設業においては人員不足が課題であるが、建設業協会と連携して対応していく考えは 5　医療・福祉・介護の取組について (1)　介護保険事業における課題と取組は ①　介護人材確保に向けた取組状況は ②　特養入所待機者の現状は (2)　飯田市立病院の現状と課題について ①　医師、看護師、看護助手等の医療人材確保の状況は ②　働き方改革関連法施行の影響は ③　2年続けて赤字決算であるが今後の経営の考え方は 6　教育の充実と人づくりの拠点施設について (1)　飯田市これからの学校のあり方審議会の取組と今後の進め方は (2)　こどもたちが飯田市・地域に愛着を持てるような取組を地域と一体になって進めるべきと考えるがどうか ①　地域で取り組むこと、学校で取り組むことを具体的に検討すべきと考えるがどうか (3)　不登校児童の現状と今後の取組は (4)　新文化会館整備に向けた取組の現状と今後の進め方は (5)　小中学校の学習用端末の更新が令和7年度から本格化していくと思うが、教育委員会の考えは 7　安全・安心なまちづくりについて (1)　近年、自然災害が頻発・激甚化しているが、能登半島の支援に行った職員の報告を生かした安全・安心なまちづくりをどう考えるか (2)　道路復旧事業や改良工事が長期化しているが、被災直後の応急対応から完全復旧まで、国、県と連携して、一刻も早く復旧ができるよう取り組むべきと考えるがどうか (3)　災害対応時の指定避難施設充実のため、施設整備、太陽光発電の活用、施設の冷暖房の研究を進め、取り組むべきと考えるがどうか
3	井　坪　隆 （会派みらい）	1　市長2期目の市政運営、市政経営について (1)　2期目の「公約」の実現のために、何を柱に据えるか (2)　環境を軸とした産業活性化をどのように展開するか (3)　「健全な財政」はどのようにして運営していく方針か 2　リニア長野県駅（仮称）の工期延長に伴う、駅設置自治体としての今後の対応について (1)　2031年末とする長野県駅（仮称）の工期の厳守を、JR東海に対して求めるべきではないか (2)　中間駅を軸とした政府方針の「多極分散型」のビジョンを、どのように具現化していくか 3　住民自治の将来について

No.	氏　名	項　目　・　要　旨
	井　坪　　隆	(1)　飯田市自治基本条例の理念を尊重した地域づくりの「学び」の機会を、どのように生かしていくか (2)　まちづくりにおける公民館を中心に、地域自治組織の在り方の再検証が必要ではないか 4　女性も活躍する社会について (1)　男女格差についての地域社会の現状をどう捉えているか (2)　女性からも「生きる場」として選ばれる飯田市を、どのようにして創っていこうと考えるか
4	小　林　真　一 （公　明　党）	1　市政、財政運営と来年度予算編成について (1)　市長として1期4年の総括と2期目へ向け、いいだ未来デザイン2028後期計画案へ市長の思いはどの程度込められたか (2)　後期計画案については戦略バスケットの考え方がより強まったが、組み立ての考え方、思いは (3)　SDGsの理念を後期4年で改めて整理してきたと理解するが、後期計画案での特徴は何か (4)　デジタルトランスフォーメーション（DX）をどのように後期計画案へ盛り込んだか (5)　令和7年度予算編成の基本方針にある「多様な主体との協働」はどのような事を具体的に考えているか。また、議会に求めるものは何か (6)　行財政改革について事務・事業の見直しや廃止の考え方は (7)　人事と組織機構について ①　定年延長制が導入された中で、職員の配置をどう考えるか ②　こども未来健康部について市民の反応は 2　地域に「誇り」と「愛着」が欠かすことのできないものとするために (1)　飯田市自治基本条例の学び直しの市長の評価は。また、市民の意識はどう変わったと考えるか (2)　「ゆるやかなつながり」の具体的な実践や取組はあるか 3　安全・安心なまちづくりと、より防災意識を高め、災害に備えるために (1)　今年度から取り組んでいる地域ごとの防災アセスメント調査の状況は (2)　住宅の耐震化について施策の充実とある。一番の課題であるが住宅への支援をどの程度まで考えているか (3)　能登半島地震の教訓からトイレトレーラー導入の考えは (4)　ゾーン30プラスについて拡大の考えは (5)　管理不全な空き家への対応は 4　これまでの産業と、環境を軸とした新しい産業について (1)　第一次産業はこれまでどのような支援を行い、活性化につなげてきたか。また、今後をどう考えるか (2)　「企業が行う奨学金助成の際の金融支援」についての考え方は (3)　地域ポイントの取組について、ボランティアポイントなど所管外との連携は視野に入ってきたか (4)　水素を活用する社会の実現に向けた計画や推進体制を検討するとある。具体的なビジョンは 5　リニア・三遠南信道時代へ向けて飯田市の強みを大きく飛躍させるには (1)　リニア駅前広場については開業を待たずに一部供用開始し賑わいをつくるとしているが、具体的な考えは (2)　リニア駅前広場整備における3つのプロジェクトについて、開業が延びたことへの課題は (3)　二次交通についての実証実験を行ってきたが、方向性は見えてきたか (4)　サステナブルツーリズムについて今後の具体的な取組は

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
	小　林　真　一	(5) インバウンドの現状は 6　誰もが尊重され尊重し合える飯田市にしていくために (1) ジェンダーギャップ解消へ向けた今後の具体的な取組は (2) 「ムトスぷらざ」の創発の場としての具体的な取組や実例は。また、多文化共生との視点から駅前の有利性は発揮されているか (3) 「福祉まるごと相談窓口」の現状は
5	古　川　仁 （日本共産党）	1　令和7年度予算編成の基本的な考え方に関して (1) 「市民が将来にわたり地域に誇りと愛着を持てるまちをつくる」について ① 市民自身が地域の自慢・誇りを再認識できる取組を実施とあるが、どのように進めるか。また、具体策としてまずは市民が各地区の自然や文化・歴史を巡る事業をしてはどうか (2) 「人がつながり助け合い、社会基盤を強化して安全・安心なまちをつくる」に ① 「自分自身や家族を守る意識の向上」や「助け合いによる地域防災力の強化」など自助・共助が強調されているが、まちづくり委員会等の理解と協力が必要と考える。組合加入率が低下している中、どう進めるか ② 安全・安心な暮らしを支える社会基盤の強靭化として、緊急時における個人所有の井戸の使用について協力依頼を市が進める考えは (3) 「飯田（ここ）で育ってよかった・育ててよかったと実感できるまちをつくる」について ① 「育ててよかった」となるには、更なる子育て施策が必要と考えるが、こども・障がい者の医療費受給者負担金の完全無料化や小・中学校の給食費無償化等を進めている自治体に学び、実現策を考えてはどうか (4) 「誰もが多様な働き方で活躍でき、次世代につながる魅力ある産業をつくる」について ① 第一次産業である農林業の課題が山積しているが、市として生産者の現状把握や支援等をどう進めるか ② 中小企業を守るためにもインボイス制度の中止と消費税5％への引き下げを市として国に求めてはどうか (5) 「誰もが生涯を通じてその人らしく暮らすまちをつくる」について ① 「地域医療への支援」と「介護人材確保に向けた支援」に関して、根本的な問題として医療・福祉・介護における人材確保は喫緊の課題だが、確保に向けた市の考えは (6) 「リニア・三遠南信道時代に向けたまちの基盤をつくる」について ① リニア中央新幹線計画・工事に関して要対策土等市民の皆さんが不安に感じているところがある。JR東海に対し一旦立ち止まり、リニア中央新幹線計画・工事の見直しを求めてはどうか

④-3 令和6年飯田市議会第4回定例会一般質問通告表

令和6年12月5日、6日

No.	氏　名	項 目 ・ 要 旨
1	宮　脇　邦　彦 （公　明　党）	1　若者が集うまちの将来像について (1)　若者に選ばれる飯田市をどう描くか ①　若者たちの意識をどう把握し評価しているか ②　若者が何でも相談しやすい環境づくりに向けた当市の取組は ア　若者に寄り添う相談員の人材確保をどう考えるか ③　若者・単身世帯向け居場所づくりへの考えは ④　若者の社会的つながりの場をどう創るか ア　スケートボードパークIIDAの例にみる若者の社会的つながりづくりへの考えは
2	原　　和　　世 （会派みらい）	1　市の財政運営について (1)　財政の健全性をどのように担保していくかに関して ①　いいだ未来デザイン2028後期計画期間における財政の見通しは ②　今後の考え方として総合計画と財政計画の関係性をどう考えるか ③　行財政改革大綱の改定期を迎え、策定に向けた基本的な考え方は 2　技能労働者確保について (1)　建築・建設に係る技能労働者確保に関して ①　担い手不足が著しいと思われる建築・建設に従事する技能労働者の実態把握を行うことは ②　産業政策として建築・建設関係の公契約時に労働単価の下限額の要請をしていくことは
3	関　島　百　合 （会派みらい）	1　重層的支援の取組について (1)　重層的支援の取組は ①　重層的支援に取り組む中で、制度の狭間で埋もれてきた人や、いろいろな困難が重複している人をどう把握してきたか ②　重層的支援に必要な情報を庁内でどう有機的に生かしているか ③　支援を求めている家族（人）に必要な情報は届いているか (2)　重層的支援の窓口はどのように機能しているか ①　相談件数、相談内容等の状況は ②　相談後の対応と「アウトリーチ」「伴走型支援」の実態は ③　当事者に寄り添う力と、当事者とつながる力は大切だと思うが、どのように対応能力を伸ばしていくか ④　重層的支援の現場では長年にわたる継続と根気が必要になるが、今後の職員体制をどう考えるか (3)　「心と命」に寄り添う松尾地区の取組の継続性は ①　飯田市全体の取組にしていくことについてはどうか (4)　これまでの取組から考える課題は (5)　市民への啓発、市民が理解を深めるためにどう取り組むか
4	市　瀬　芳　明 （日本共産党）	1　高齢期の特性に配慮した防災・防犯対策の考えは (1)　避難行動要支援者の個別避難計画について ①　避難訓練などで目にする要配慮者と避難行動要支援者の違いは

No.	氏　名	項　目　・　要　旨
	市　瀬　芳　明	②　個別避難計画とはどのようなものか ア　避難行動要支援者名簿とは イ　名簿登録者の範囲と計画作成の対象者は ウ　作成にあたっての説明と同意をどのように進めるか エ　アプリでの作成が想定されているが支援をどのように行うか オ　更新が必要と考えるがどのような時を想定しているか カ　作成された個別計画の閲覧方法をどのように想定しているか ③　計画作成までのスケジュールはあるか ④　計画作成後どのような効果が期待できるか (2)　介護保険住宅改修費等の受領委任払いについて ①　償還払いと受領委任払いの違いは ②　飯田市の検討状況は ③　近隣市町村の導入状況は
5	木　下　徳　康 （新政いいだ）	1　民間保育所・認定こども園の副食費について (1)　物価高騰対策による副食費補助の経過は (2)　補助の目的は (3)　令和7年度の補助の見通しは (4)　補助を複数年度で計画することはできないか 2　飯田市職員が楽しく働くことについて (1)　「飯田市職員の仕事と生活の調和の推進に関する事業主行動計画」について ①　事業主行動計画の目的は ②　計画の概要は ③　計画における目標達成には勤務時間の短縮が重要と思うがどうか ④　計画で事業主のやるべきことは (2)　飯田市職員が楽しく働くには何が必要か
6	長　谷　部　春　生 （会派きぼう）	1　飯田で育ってよかった、飯田がよかったと実感できるまちづくりについて (1)　大学の誘致をはじめとした進学先の選択肢について ①　構造的課題解決に向けた大学誘致について ア　市長の現在の決意は イ　大学誘致に関しての今後の具体的な取組は ②　大学との連携について ア　学輪IIDA、運動部の合宿、フィールドワーク、ボランティア等があるが、大学との連携の状況は (2)　Uターン推進政策について ①　卒業後の進路について ア　民間事業者の求人状況は イ　人手不足解消に向けた取組は ②　飯田市奨学金貸与事業の現状と返還免除の状況は

(6)本会議傍聴状況(R６)

会　　期	年　　月　　日	傍　聴　人　数
第１回臨時会	令和6年2月8日	3
第１回定例会	令和6年2月27日	4
	令和6年3月12日	8
	令和6年3月13日	9
	令和6年3月22日	2
第２回定例会	令和6年5月21日	2
	令和6年5月28日	15
	令和6年5月29日	14
	令和6年6月21日	3
第３回定例会	令和6年8月30日	3
	令和6年9月4日	30
	令和6年9月5日	7
	令和6年9月30日	3
第４回定例会	令和6年11月29日	3
	令和6年12月4日	36
	令和6年12月5日	11
	令和6年12月6日	31
	令和6年12月25日	4
計		188

4　市議会のあゆみ（昭和 46 年から）

年	議　会　の　動　き
昭和46年 (1971年)	・飯田の常備消防を廃止し、飯田市・鼎町・上郷町消防組合へ全面移管するための規約改正を可決 ・議長　近松宗一、副議長　今村輝男を選出 ・昭和45年からはじまったコメの減反政策について多くの質問があった ・鼎、上郷との合併を積極的にすすめるよう質問があった ・中央自動車道の早期着工と四車線化を求める意見書を可決 ・中央道遺跡発掘に伴う埋蔵文化財を収蔵・展示する資料館の建設を求める質問があった ・日中国交回復を求める決議がされた ・アメリカのドル防衛措置に対して、地元産業の育成策をただす質問があった ・県下に先がけて「モーテル建築の規制に関する条例」を可決
昭和47年 (1972年)	・市民憲章の制定について質問があった ・市立病院運営審査特別委員会が市立病院の総合病院化を目指す必要性を検討 ・ＰＣＢなど公害の検査機能の充実を求める質問があった ・国民体育大会のラグビー等の競技を飯田において開催できるよう県に対して陳情を行った ・飯田市公民館の全面改築を求める陳情を採択 ・乱開発による環境破壊を防止して郷土の自然を守るため、「自然環境保全条例」を可決 ・中津川線の見通しと中央新幹線構想についての質問があった ・市議会議員補欠選挙 ・松澤市政の誕生に伴い、その政治姿勢について、活発な質問がなされた ・中央自動車道関連の道路整備などを要望する質問があった ・福祉や教育施策充実を要望する質問があった
昭和48年 (1973年)	・老人医療費を無料化する対象年齢を69歳に引き下げる条例を制定 ・飯田に大学を設立すべきとする質問があった ・市議会議員一般選挙　議長　伊原悦雄、副議長　新井安男を選出 ・中央道開通後予想される騒音、排気ガス、電波障害等の公害対策について質問があった ・老朽化がすすむ小中学校の早期改築を求める質問があった ・オイルショック、物価高、モノ不足に対する対策を求める質問が集中 ・鼎、上郷との合併の推進を求める質問が集中 ・石油危機打開を求める意見書を可決 ・中央新幹線の早期建設と飯田への駅設置を求める意見書を可決

年	議　会　の　動　き
昭和49年 （1974年）	・一般会計予算に関して予算審査特別委員会で賛否の結論が出ず、「六月段階で措置されるよう市長に要望する」という議長斡旋で収拾され、可決 ・廃棄物の処理及び清掃に関する条例案に関して、し尿の収集料金の改定について意見が分かれ、最終日を迎えても結論が出ないため、議会の会期を延長して審査を行い、委員会修正案を可決 ・国保税率の決定にあたって、特別委員会の意見を踏まえ、市長が税率を下方修正する原案の訂正を行って可決 ・中央道開通を間近に控え、地場産業振興や観光振興策、あるいは公害対策を求める質問があった ・教育文化センター（新飯田市公民館）の建設構想について質問があった ・西部統合中学の計画について、地元対策をただす質問があった ・東中学校の火災で緊急に議会全員協議会が開かれた ・飯田市民の消費生活を守る条例を可決
昭和50年 （1975年）	・中央道の恵那山第二トンネルの早期着工を求める意見書を可決 ・中津川線の建設見通しをただす質問があった ・議長　伊原悦雄、副議長　林 昌平を選出 ・中央道開通に伴う飯田ＩＣ周辺の道路整備、公害対策、観光開発、産業振興策について多くの質問がされた ・窮迫した地方財政のもとでの市行政について集中論議が行われた ・開通した中央道の恵那山、網掛トンネル前後の40キロ規制の緩和を求める意見書を可決 ・風越高校の跡地利用について質問があった ・中央道の騒音公害対策や天竜峡付近の交通渋滞の解決を求める質問があった
昭和51年 （1976年）	・深夜から未明に及ぶ議会において、市議会議員の定数をそれまでの36名から30名に減少する条例が可決された。一口に「暁の本会議」と言われている ・市長が提案した国保税率の引上げ率が下方修正して可決 ・付加価値税新設に反対する意見書を可決 ・工場再配置補助金問題調査特別委員会と駅前観光案内所問題調査特別委員会を設置 ・市議会議員補欠選挙 ・ニホンカモシカの食害対策を求める意見書を可決 ・風越高校跡地利用に関して、警察署の建設と、東中学校の建設を求める陳情が出され、その対応で慎重な審査がされた ・メッキ工場の建設を求める質問があった

年	議　会　の　動　き
昭和52年 (1977年)	・老人医療費特別給付金の一部改正条例を修正可決 ・市議会議員一般選挙　議長　林 昌平、副議長　松江良夫を選出 ・広域水道の統合について質問があった ・飯田駅前再開発を求める質問があった ・円高不況対策について質問があった
昭和53年 (1978年)	・長姫高校の移転を想定した跡地利用について質問があった ・水道事業の統合が特別議決をもって可決 ・中央新幹線・中津川線建設促進特別委員会を設置 ・市立図書館の改築について質問があった ・合併促進特別委員会が設置された ・国道153号線バイパスの建設促進を求める意見書を可決 ・中学生が教師を殴打した事件について質問が集中
昭和54年 (1979年)	・老人医療費の無料化を65歳までとする条例を可決 ・国際児童年に対する取組について質問があった ・議長　林 昌平、副議長　片桐 勲を選出 ・地震防災対策強化地域の指定に関して質問があった ・駅前、知久町、銀座、本町など旧市街地の再開発について質問があった ・果樹共済制度の改善に関する意見書を可決 ・モデル定住圏の指定に関して質問があった ・県営野球場の誘致と総合運動公園の整備について質問があった ・一般消費税創設反対に関する意見書を可決 ・市立病院の総合病院化について質問があった
昭和55年 (1980年)	・国鉄経営再建促進特別措置法案の見直しを求める意見書を可決 ・中津川線を断念し、中央新幹線建設促進に乗換えたらどうかとする質問があった ・土地買収に関する土地開発公社の不手際等について調査特別委員会を設置 ・大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国の自主的平和統一に関する意見書を可決 ・カモシカの食害防止策についての意見書を可決 ・西部統合中学の改築計画の進捗状況について質問があった ・土地開発公社をめぐる不祥事について質問が集中 ・アメリカシロヒトリの防除対策について質問があった ・Ｂ型肝炎への対策について質問があった ・市議会議員補欠選挙

年	議　会　の　動　き
昭和55年 （1980年）	・北方領土の返還促進などを求める意見書を可決 ・川路、龍江の天竜川流域の災害危険区域条例撤廃に関して質問があった
昭和56年 （1981年）	・地場産業振興センターの建設について質問があった ・市議会議員一般選挙　議長　林 昌平、副議長　松江良夫を選出 ・国際障害者年に際しての取組について質問があった ・中央新幹線、飯田線の強化、中津川線問題を審議する鉄道問題特別委員会を設置 ・婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃に関する条例の早期批准を求める意見書を可決 ・国鉄飯田線の合理化計画撤回等に関する意見書を可決 ・若者が定着できるよう企業誘致条例の復活を求める質問があった ・地元との調整が長引く西部統合中問題について、多くの質問があった
昭和57年 （1982年）	・臨時議会において、伊賀良と山本の両中学校を統合し、昭和60年に新たに西部中学校として発足することが可決 ・長姫高校跡地のあり方について質問があった ・統合中学の進捗状況について多くの質問があった ・Ａ議員の問責決議案が可決 ・市民の直接請求による西部統合中学校を廃止する条例案を否決 ・飯田市・鼎町合併協議会の設置を可決 ・飯田線の分割・民営化反対に関する意見書を可決
昭和58年 （1983年）	・市立病院の経営改善と改築について審査するため、病院問題特別委員会を設置 ・飯田市農協、中央農協の合併の推進について質問があった ・議長　松嶋健次、副議長　平沢與一を選出 ・農畜産物輸入自由化、枠拡大阻止に関する意見書を可決 ・大中型店の出店の動きと丘の上商店街の活性化について質問があった ・美術博物館の構想について質問があった ・コンピューター導入に伴うプライバシー保護の問題、あるいは情報公開制度について質問があった ・西部統合中学校の名称を「旭ヶ丘中学校」とする条例改正案を可決 ・10万都市実現のため、鼎、上郷との同時合併を求める質問があった ・9月28日の10号台風による災害復旧を検討するため、緊急に臨時議会が開かれ10号台風災害対策特別委員会と、天竜水系治水災害対策特別委員会を設置

年	議　会　の　動　き
昭和58年 (1983年)	・40人学級早期実現に関する意見書を可決した ・松くい虫対策について質問があった ・川路、龍江、竜丘の災害危険区域に関する今後の対応について質問があった
昭和59年 (1984年)	・三遠南信自動車道の実現の可能性について質問があった ・非核平和都市宣言を可決 ・人種差別撤廃条約の早期批准に関する意見書を可決 ・天竜川治水対策と天竜峡の景観保全について質問があった ・鼎町との合併に関する議案審議のため臨時議会が開かれ、12月1日の合併を全会一致で議決 ・市職員に60歳の定年制を導入する条例を可決 ・国鉄の分割民営化反対に関する意見書を可決 ・市議会議員の定数を31名に減少する条例を可決 ・新しい街づくりの中での鼎地区の位置付けについて質問があった ・天竜川の恒久的な治水対策を求める意見があった ・テクノハイランド構想について質問があった
昭和60年 (1985年)	・スパイクタイヤの粉じん公害について質問があった ・上郷町との早期合併を求める質問があった ・市議会議員一般選挙　議長　松嶋健次、副議長　平沢與一を選出 ・指紋押捺問題に関連して、外国人登録法の改正に関する意見書を可決 ・ゴミ焼却場移転問題について質問があった ・国鉄飯田線の分割民営化の動きに関して質問があった ・若者の定住対策と企業の育成策について質問があった ・路線バスの廃止問題が質問された ・鼎との合併一年後の評価について質問があった ・学校の「いじめ」問題について質問があった ・世界人形劇フェスティバル開催(1988年)に名乗りを上げることの質問があった ・婦人の地位向上のための施策について質問があった ・高齢化が一層すすむ中で、在宅福祉について質問があった
昭和61年 (1986年)	・上郷町との合併に向けた取組について質問があった ・コンピューター専門学校の建設費について質問があった ・市立病院の赤字と院長人事問題で特別委員会を設置 ・院長解任に伴う市立病院の正常化について質問があった ・大型間接税の導入は慎重に対処すべきという旨の意見書を可決

年	議　会　の　動　き
昭和61年 （1986年）	・中国引き揚げ孤児の定住援護策について質問があった ・美術博物館の性格と財源について質問があった ・公文書の公開条例と、個人情報の保護条例を可決 ・暴力団追放都市宣言を可決 ・飯田工業高校の移転に伴う跡地利用について質問があった
昭和62年 （1987年）	・売上げ税導入に反対する意見書を可決 ・美術博物館建設特別委員会を設置 ・中央新幹線、三遠南信自動車道の建設促進について質問があった ・エイズ対策について質問があった ・議長　平沢與一、副議長　細田直彦を選出 ・屋外広告物に係る環境美化等に関する条例を可決 ・老人福祉の中間施設の計画について質問があった ・市政50周年記念事業として、中学生による子ども議会が開かれた ・市立病院の移転決定と、地元対策について質問があった ・世界人形劇フェスティバルの準備状況と、シャルルヴィル・メジェール市との姉妹都市締結について質問がされた ・中央新幹線の飯田経由と駅舎設置に関する決議を行った ・東中学校の教師死亡に関して質問があった ・人形劇場の入札が保留になったことについて質問があった
昭和63年 （1988年）	・フランスのシャルルヴィル・メジェール市と国際友好都市の締結をすることを可決 ・美術博物館の職員体制や、運営について多くの質問があった ・三遠南信自動車道の竜東地域にインターチェンジを求める質問があった ・新しい市立病院の整備方針（マスタープラン）を了承 ・上郷町との合併協議30項目を了承 ・天竜川治水対策、四者協議の結論を了承 ・ギフチョウの保護対策について質問があった ・市議会議員補欠選挙　副議長　関島一郎を選出 ・コメの市場開放阻止に関する意見書を可決 ・保育園の空き室を託老所にする質問があった
平成元年 （1989年）	・消費税導入に関して賛成、反対の論議が集中 ・リニア新幹線が停まるまちづくりについて質問があった ・市議会議員一般選挙　議長　塩澤 昭、副議長　竹村仁實を選出 ・土曜閉庁関連条例を可決 ・新市立病院建設の基本計画を了承

年	議　会　の　動　き
平成元年 （1989年）	・有線放送局の不祥事に関して質問が集中 ・長野の冬季五輪招致への考え方について質問があった ・学校教育における日の丸掲揚と君が代斉唱についての考え方について質問があった ・天竜川治水対策の基本計画を了承 ・有線放送を廃止し、オフトーク通信システムを導入することを了承 ・土地利用計画の策定の必要性について質問があった
平成２年 （1990年）	・消費税導入を想定した新年度予算に関して賛否両論の議論が展開された ・有線放送局不正経理事件について質問が多くされた ・中国からの帰国者のために日本語学級を開設するよう質問があった ・県議会議員の飯田市区定数１名増を求める意見書を可決した ・飯田駅貨物用地跡地利用に関して質問があった ・天竜峡温泉の交通渋滞の解消、下水道の整備等について質問があった ・松尾地区の内水排除について質問があった ・登校拒否児童への適切な指導を求める質問があった
平成３年 （1991年）	・議長　竹村仁實、副議長　松江良夫を選出 ・竜東地区の開発計画について質問があった ・農村集落の活性化を図る地域マネージメント事業について質問があった ・議長　實原 裕、副議長　内山照美を選出 ・松くい虫の被害が広がる深刻な事態に対して質問があった ・土地利用政策審議会の設置を求める質問があった ・りんご並木の整備構想について質問があった ・ＭＲＳＡ感染対策について質問があった ・看護婦養成のための高等看護学校の誘致を求める質問があった ・上郷町との合併時期について市長の政治決断を求める質問があった ・平和予算の創設を求める質問があった ・信州いいだ農協発足に伴い、行政と農協が一体となった農業振興を求める質問があった ・飯田駅貨物用地跡地取得の経過について質問があった
平成４年 （1992年）	・大学誘致についての質問があった ・拠点都市地域の指定を目指すことについて質問があった ・学校５日制の受け皿について質問があった ・オフトークでの議会本会議中継はじまる ・若者定着と工業振興について質問があった

年	議　会　の　動　き
平成４年 （1992年）	・特別委員会にて大詰めの合併協議が行われた ・自然環境の保全と環境に優しい社会の実現を期して、「環境宣言」が決議された ・市役所の完全週休２日制の導入について質問があった ・エイズに対する予防啓発について質問があった ・市議会議員補欠選挙 ・上郷町と平成５年７月１日に合併することを議決した ・拠点都市指定に向けての取組状況について質問があった ・中学生の問題行動に対する指導について質問があった
平成５年 （1993年）	・ガットにおけるコメの例外なき関税化の導入を拒否し、基礎的食料の国内自給堅持を求める意見書を可決 ・地域医療に果たす新市立病院の役割について質問があった ・中心市街地のドーナツ化現象への対策について質問があった ・市議会議員一般選挙　　議長　今村八束、副議長　澤柳辨治郎を選出 ・上郷との合併関連議案68件を可決 ・コメの市場開放阻止等を求める意見書を可決 ・拠点都市の計画策定に関して、高速交通網の整備等について質問があった ・上郷合併に伴う議員の増員選挙が行われ、５名が市議会議員に仲間入りした ・シャルルヴィル・メジェール市のロジェマス市長が市議会を表敬訪問された ・地方拠点都市地域整備促進特別委員会を設置 ・みどりの基金創設について質問があった ・県営サッカー場の誘致について質問があった ・不況下での産業振興策について質問があった ・天竜川流域にカヌー競技施設の建設を求める意見書を可決 ・地方分権の実現を求める意見書を可決 ・コメの市場開放を阻止し、抜本的農業施策実現を求める意見書を可決
平成６年 （1994年）	・飯伊広域行政組合設立に伴う関連議案を可決 ・４年制大学の誘致について質問があった ・市町村の共同出資のバス運行について質問があった ・環境、文化、情報化、公共施設の４つのテーマで政策調査研究部会が発足 ・三遠南信地域に首都機能の移転を目指せという質問があった ・サッカーくじ法案化について質問があった ・農業集落排水事業実施区域の拡大を求める質問があった ・不況下において女性の雇用を守ることを求める質問があった ・12年ぶりの水道料金値上げを、建設委員会が３日間にわたる審査のうえ賛成多数で可決した。

年	議　会　の　動　き
平成６年 (1994年)	・北信越市議会議長会産業・経済対策特別委員会が天竜峡で開催 ・議会だより100号記念号発行 ・今村八束議長が友好都市シャルルヴィル・メジェール市（フランス）を訪問 ・市民の生活環境の確保と市土の均衡ある発展を図るための国土利用計画（飯田市計画）を可決 ・水道料金を12年ぶりに改定。平均アップ率18・7%を三日間の審議の末に可決 ・上郷町との合併により、新たな議員定数を調査研究する「議員定数問題調査特別委員会」を設置
平成７年 (1995年)	・第１回臨時会において、今村八束議長・松島年一副議長を選出 ・「中国の核実験に抗議し、フランスの核実験再開中止を求める決議」を可決し両大使館に意見書を送付 ・飯田市における政治倫理の確立のため「市長の資産等の公開に関する条例」を可決。これにより市長は資産等の報告書の作成が義務付けられ、閲覧請求が可能になった ・上郷町編入合併に伴い５人増の36人となっていた議員数を定数31人にすることを議決
平成８年 (1996年)	・全議員による「基本構想審査特別委員会」を設置、第四次基本構想・基本計画「環境文化都市を目指して」を可決 ・第２回定例会において「第四次基本構想に基づく組織機構改革案」を否決。この採決をめぐり最大会派の明政会が分裂し過半数を割ることとなった。この議案は第３回定例会で一部修正のうえ再提案され起立採決の結果賛成多数で可決 ・飯田市はあらゆる人権侵害の根絶を誓うため、「人権尊重都市宣言」を可決 ・「病原性大腸菌0157による食中毒対策に関する意見書」を国関係機関に提出 ・市議会議員補欠選挙で１人選出
平成９年 (1997年)	・市議会改選（投票率81・9%、上郷町と合併後初、特例による議員数36人から議員定数31人に） ・第１回臨時会において、小林利一議長・片桐司郎副議長を選出 ・市立病院と高松病院の機能、役割分担を検討するために「病院問題特別委員会」を設置 ・風越山麓に計画された送電線建設に対して景観、電磁波、産業振興、飯田市の環境条例などの観点から第２回、第３回定例会において計６件の請願・陳情があり審査・市政に関する独自の調査をし、政策提言をする「政策調査研究部会」（農業振興・交通施策・観光施策の３部会）がスタート

年	議　会　の　動　き
平成10年 （1998年）	・議員定数削減に続く財政改革で、「議員の各種審議会報酬を辞退すること」を全会一致で可決。長野県下初であり、全国的にも先駆的な取り組み ・「インド並びにパキスタンの地下核実験に対する抗議の決議」を可決 ・第３回定例会において、人形劇カーニバルのあり方について活発な議論を展開 ・「大型店の元旦営業自粛に関する決議」を可決し、市内大型店に申し入れ
平成11年 （1999年）	・平成９年にスタートした「政策調査研究部会」が２か年の研究を報告 ・第１回臨時会において、小林利一議長・中田佳甫副議長を選出 ・ごみ処理手数料として30円から60円を負担する、「ごみ処理費用有料化」を可決 ・「公共下水道受益者負担金改定」を可決（面積１㎡当たり現行390円から520円に段階的な引上げ） ・「中心市街地総合再生特別委員会」及び「介護保険特別委員会」を設置
平成12年 （2000年）	・「政策調査研究部会」（地方分権・ISO・工業振興３部会）が平成12年度1か年の研究を報告 ・介護保険制度の施行に伴い関連する12件の条例を可決 ・国民健康保険税事業から介護保険への移行に伴う、「国保税の引き下げ」を可決 ・公共下水道（平均9.8%）及び農業集落排水施設（7.2%）の「使用料引き上げの改定」を可決 ・市議会議員補欠選挙で１人選出
平成13年 （2001年）	・市議会改選（投票率75.3%、議員数31人の内女性議員６人が誕生） ・第１回臨時会において、西尾喜好議長・牧内信臣副議長を選出 ・森林･林業･林産業の活性化と山村振興の推進を図ることを目的に「林業活性化推進飯田市議員連盟」が発足 ・飯田市地域交流センター設置条例（本町一丁目に建設中の「トップヒルズ本町」に「りんご庁舎」を設置、及びその管理について定めるもの）を可決 ・水道料金（上水道平均4.0%・簡易水道平均2.7%）の「引き上げの改定」を可決 ・アメリカでのテロの犠牲者に対し黙祷し、「同時多発テロを強く糾弾する決議」を採択
平成14年 （2002年）	・行政機関の保有する情報の公開に関する法律が施行されたのに伴い「飯田市情報公開条例」を可決 ・暴走運転をなくし平穏な地域社会を実現するための「飯田市暴走行為を根絶する条例」を可決

年	議　会　の　動　き
平成14年 (2002年)	・「飯田市議会の議員の報酬等に関する条例」の一部を改正する条例を可決 （議員の月額報酬３％の引き下げ） ・「飯田市議会あり方研究会」を発足 ・「飯田市差別の撤廃と人権の尊重に関する条例」を可決 ・菱田春草筆「菊慈童」及び「牧童」を取得することを承認（取得金額３億５千万円）
平成15年 (2003年)	・「飯田市福祉医療費給付金条例」を可決（全県統一の自動給付方式を導入） ・第１回臨時会において、議長に岩崎和男氏・副議長に渡淳氏を選出 ・「合併特別委員会」「土地利用特別委員会」「議員定数特別委員会」を設置 ・「住基ネット関連２議案」を可決（住基カードを希望者に、１枚500円で交付するための条例改正） ・「歴史研究所条例案」を可決（市民の教育及び文化の向上発展などに寄与するための研究所を設置） ・「ごみ処理手数料の改定案」を可決（環境保全対策により経費増のため、半分を利用者が負担）
平成16年 (2004年)	・「市議会議員定数を４人減の27人」にすることを可決 ・「わがまちの〝憲法〟を考える市民会議」を５月に設置 ・「飯田市都市計画条例」の一部を改正する条例を可決 ・「わがまちの〝憲法〟を考える市民会議」が11月８日、岩崎和男議長に中間報告を提出 ・「合併関連２議案」を可決(飯田市･上村･南信濃村合併協議会の設置について) ・市議会議員補欠選挙で２人選出
平成17年 (2005年)	・「上村、南信濃村との合併関連6議案」を可決 ・市議会改選（投票率72・3%、議員数27人） ・第１回臨時会において、議長に熊谷富夫氏・副議長に林幸次氏を選出 ・「自治基本条例」「土地利用計画」の特別委員会を設置 ・「高等学校改革プランの検討に関する意見書」を県に提出（高等学校数の削減を行わないよう求める意見書） ・「個人情報保護条例」を可決 ・一般質問において一問一答方式を試験導入（一括質問一括答弁方式から、一問一答方式に変更） ・上村及び南信濃村の編入合併に伴う増員選挙（定数２、投票率82%、特例により議員定数27人から29人に）

年	議　会　の　動　き
平成17年 （2005年）	・議会本会議の映像生中継をスタート ・「男女共同参画推進条例」を可決
平成18年 （2006年）	・「国民保護法関連２条例」を可決（武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律に関連する条例） ・飯田市における土地利用の基本的な指針を策定「国土利用計画」（第２次飯田市計画）を可決 ・第５次基本構想・基本計画の策定にあたり「基本構想基本計画検討委員会」を設置 ・市民・議会・行政の連携により研究を進めてきた「飯田市自治基本条例」を第３回定例会で議員提出議案として全会一致で議決 ・飯田市の各地区に平成19年度から設置される地域自治区について、「飯田市地域自治区の設置等に関する条例案、飯田市公民館条例の一部を改正する条例」を可決
平成19年 （2007年）	・温泉宿舎天竜峡を飯田市が購入することを承認 ・「飯田市土地利用基本条例」を可決 ・「環境文化都市宣言」を可決 ・第１回臨時会において、上澤義一議長・矢澤芳文副議長を選出 ・議員定数の削減に向けて「議員定数特別委員会」を設置し定数を23人に決定 ・「第２回マニフェスト大賞審査委員会特別賞」を受賞（飯田市自治基本条例の制定までの取組みが評価される）
平成20年 （2008年）	・「飯田市後期高齢者医療制度に関連した条例」を可決（75歳以上の高齢者に新たな負担となるため議論が集中） ・「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（子どもの支給対象を小学６年生まで引上げ） ・「飯田市議会の議員の定数を定める条例」を可決（平成21 年４月の選挙から定数23人に決定） ・議会議案検討委員会に置いて、ポイ捨ての規制に関する条例制定の必要性を調査 ・決算認定に結びつける議会の行政評価がスタート（行政評価の手法を用い決算を認定） ・「庁舎検討委員会」が発足（３回の委員会を経て市側の新庁舎建設の基本的な方針案を了承） ・市内20地区で初の議会活動報告会を開催（市政懇談会終了後30分間）

年	議　会　の　動　き
平成21年 （2009年）	・「副市長の定数を１から２に改める条例」を可決 ・「土地利用計画特別委員会」を廃止 ・市議会改選（投票率64・3%、上村・南信濃村との合併特例による議員数27人から議員定数23人に） ・第２回臨時会において初の立候補制による正副議長選挙を実施。中島武津雄議長・清水可晴副議長を選出 ・「リニア中央新幹線の早期実現及び飯田駅設置実現に関する決議」を賛成多数で可決 ・市内を６ブロックに分け２回目の議会報告会を開催（市民487名が参加）
平成22年 （2010年）	・本庁舎の建替整備に向け調査研究を行うため「庁舎特別委員会」を設置 ・「飯田市リニア中央新幹線飯田駅整備推進基金条例」を可決（リニア中央新幹線の実現に向けた取り組を強化） ・年度内にルート決定が見込まれる中、調査研究を深めていくため「リニア推進対策特別委員会」を設置 ・「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（子どもの支給対象を中学３年生まで引上げ） ・第３回議会報告会を開催（市民469人が参加） ・「飯田市地域自治区の設置等に関する条例の一部改正条例」を可決（上村及び南信濃地区を地域自治区に移行）
平成23年 （2011年）	・第１回定例会において東日本大震災支援のための22年度補正予算を可決 ・第２回臨時会において、上澤義一議長・村松まり子副議長を選出 ・東日本大震災支援のための23年度補正予算を可決 ・「飯田市国民健康保険条例の一部改正条例」を可決 （２年連続平均７％の増額） ・損害賠償に係る議会未提出案件（110件）について議会を軽視するものとして市側に改善申し入れ ・「第５次基本構想基本計画後期計画」を可決（人口目標10万２千人に） ・第４回議会報告会を開催（市民444人が参加）
平成24年 （2012年）	・「議会改革・運営ビジョン」を策定し新たな議会改革の取り組みとして常設の機関「議会改革推進会議」を設置 ・議会改革の一環として、初の「議長記者会見」を開催、委員会の自由傍聴の実現、本会議のインターネットによる映像配信を開始 ・新庁舎実施設計を了承

年	議　会　の　動　き
平成24年 (2012年)	・「第７回マニフェスト大賞最優秀成果賞」を受賞（行政評価や議会報告会の実践などが評価される） ・第５回議会報告会を開催（市民461人が参加）
平成25年 (2013年)	・市議会改選（投票率58・3%議員数23人） ・第１回臨時会において、林幸次議長・木下克志副議長を選出 ・常任委員会を３委員会とし、議員の複数所属をやめ単独所属とする ・より開かれた議会運営のため「広報広聴委員会」を設置 ・委員会審議において初の「議員間自由討議」を実施 ・初の政策討論会を開催（不法投棄対策について市長に提言） ・「ポイ捨て等防止及び環境美化を推進する市民条例」を可決 ・「特定秘密保護法案に対する慎重な審議を求める意見書」を国関係機関に提出 ・議会の行政評価で「天竜峡温泉交流館管理事業」について、廃止を含め指定管理委託など検討を行うよう提言 ・第６回議会報告会を開催（市民510人が参加）
平成26年 (2014年)	・議会の行政評価において「農業課合同事務所事業」の廃止、「農作物被害対策事業」「リニア推進事業」「小中連携・一貫教育推進事業」の拡大などを提言 ・天龍峡温泉交流館の指定管理者管理委託を承認 ・「手話言語法(仮称)等の早期制定を求める意見書」を国及び県の関係機関に提出 ・第７回議会報告会を開催（市民543人が参加） ・第４回定例会終了後、議場の新庁舎移転に伴う「旧議場のお別れ会」を開催
平成27年 (2015年)	・初の議会出前講座を広報広聴委員会が実施（松尾小学校） ・県下初の対面式新議場で第１回定例会を開催 ・社会文教委員会が介護保険条例の一部改正に関して自由討議を実施。議案可決後に委員提案の附帯決議を可決。 ・第２回定例会から淡路結びの水引を議場に設置 ・第１回臨時会において、木下克志議長・木下容子副議長を選出 ・「長期欠席議員の議員報酬の特例に関する条例」を議決 ・「平和安全法制の慎重かつ適正な運用を求める意見書」を国及び関係機関に提出 ・「飯田市福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例」を可決（支給対象を満15歳から満18歳に引上げ） ・木下克志議長が友好都市シャルルヴィル・メジェール市（フランス）を訪問

年	議　会　の　動　き
平成27年 （2015年）	・第８回議会報告会を開催（市民498人が参加） ・新教育委員会制度で初の教育長に代田昭久氏を任命することに同意
平成28年 （2016年）	・「飯田市議会パネル取扱要綱」、「飯田市議会災害対応指針」を制定 ・基本構想基本計画特別委員会を設置し、次期総合計画「いいだ未来デザイン2028」を審査 ・天龍峡温泉交流館建設に関し、産業建設委員会で自由討議実施後、附帯決議をつけて可決、本会議での委員長報告に対する討論を経て予算案を可決 ・地元産材のＰＲを目的に飯田市産ヒノキと遠山杉のネームプレートを作成し、全議員が着用を開始 ・議会だより200号記念号を発行 ・７月から９月にかけて議会による行政評価を実施（42施策、19事務事業） ・インターネットで委員会の映像配信を開始（12月12日　総務委員会から） ・第９回議会報告会を開催（９月～10月、６会場で市民554人が参加） ・議会議案検討委員会を設置し、議員提出による「飯田産の地酒及び果実飲料で乾杯する条例」を議決 ・議会出前講座を松尾小学校で実施（２回目：２月、３回目：11月）
平成29年 （2017年）	・飯田市議会の主催による飯伊市町村議員研修会を開催。藤山 浩氏を講師に迎え、「田園回帰１％戦略」を学ぶ（１月） ・社会文教委員会が「地域ケアシステムの構築」に関する調査研究を行い、議会全体の政策討論会を経て、議会から市長へ政策提言（３月） ・産業建設委員会は、「若者定住の促進について」ほか、５つのテーマについて２年間の調査研究活動をまとめ、所管部署へ提案（３月） ・飯田市スポーツの振興に寄与することを目的に「飯田市議会スポーツ振興議員連盟」が発足（３月） ・市議会改選（４月16日執行、投票率 57.95％、議員23名うち新人５名） ・議会出前講座を山本小学校で実施（６月） ・第５次基本構想の平成28年度分について議会による行政評価を実施（７月～）評価結果に基づく成果や課題を反映させるため、４月からスタートした総合計画「いいだ未来デザイン2028」の戦略計画に対して、市長へ提言（９月） ・第10回議会報告会を開催（10月、６会場で市民582人参加）
平成30年 （2018年）	・議会出前講座を松尾小学校で実施（１月　６年生143人） ・飯田市議会の主催による飯伊市町村議員研修会を開催。大森 彌氏を講師に迎え、「自治体議会の改革と議員の法的位置づけ」について学ぶ（１月）

年	議　会　の　動　き
平成30年 (2018年)	・リニア推進特別委員会が、リニア駅周辺整備などをテーマとして、商工会議所支部や地域団体と意見交換会を実施（２－３月） ・リニア推進特別委員会が、リニア駅周辺整備を含むリニア関連事業の進め方等に対する要望書を所管部署へ提出（６月） ・飯田市議会（リニア推進特別委員会）主催による「リニアを活かしたまちづくり講演会」を開催（７月） ・飯田市の総合計画「いいだ未来デザイン2028」に対する議会による行政評価がスタート。各常任委員会や合同委員会での大局的な評価（森の評価）を経て政策提言を実施（７月－９月） ・社会文教員会が、「市内小中学校及び保育園等にエアコン設置を求める要望書」を所管部署へ提出（９月） ・第11回議会報告会を開催（10月　７会場で市民654人が参加） ・予算決算委員会の設置に向け、予算決算審査検討プロジェクトを発足（12月）
平成31年 (2019年)	・広報広聴委員会、同委員会内の議会だより検討会議により、議会だよりの見直しを図り、リニューアルパイロット版を発行（１月） ・飯田市議会主催による「飯伊市町村議会議員研修」を開催。山梨学院大学大学院の江藤俊昭教授を講師に招き議会改革について学ぶ（１月） ・一般質問等における執行機関側の議員に対する「反問権」の行使について定めた、改正飯田市議会会議規則が施行（２月） ・総務委員会が、市内３か所で「地域コミュニティーの在り方」について意見交換会を実施（２月） ・第１回定例会において市長が初の反問権を行使（３月）
令和元年 (2019年5月～)	・第１回臨時会において、湯澤啓次議長・原和世副議長を選出（５月） ・第１回臨時会において、予算決算委員会を常任委員会として設置。予算・決算及び行政評価を所管し、今後は分割付託されてきた予算・決算議案について一括で付託を行うこととなった（５月） ・長野県市議会議長会総会を飯田市で開催。龍谷大学政策学部教授の土山希美枝氏を講師に招き「政策議会をつくる議員力・議会力」を学ぶ（７月） ・予算決算委員会所管による「議会による行政評価」を実施。９月定例会後、議長から市長に対し評価提言書を手交（７月－９月） ・議会出前講座を山本小学校で実施（10月） ・議会報告会を開催（10月　７会場で市民743人が参加） ・議長、副議長及び事務局長が「地方議会における政策サイクルと評価モデル研究会」に参加（10月－３月）

年	議　会　の　動　き
令和元年 (2019年5月～)	・台風第19号で被災地となった長野市へ、長野県市議会議長会を通じて見舞金を送った（11月） ・議会報告会で出された「小学校のトイレ環境」に対する意見を受けて、社会文教委員会が市内の小中学校全てのトイレ環境の現状把握と学校職員への聞き取り調査を行い、予算決算委員会での審査、本会議での同意をもって市長に提言書を提出した（12月）
令和２年 (2020年)	・飯田市議会主催による「飯伊市町村議会議員研修」を開催。㈱地方議会総合研究所代表取締役の廣瀬和彦氏を講師に招き「議会の活性化と議会運営」について学ぶ（１月） ・市議会災害対策会議を実施（１月－） ・新型コロナウイルス感染症の影響で市の行事が開催中止（２月－） ・第１回定例会で新型コロナウイルス感染症対策についての質問が複数あり（３月） ・第１回臨時会を開催し、新型コロナウイルス感染症対策に関する補正予算等を審議（５月） ・タブレット端末を活用したペーパーレス会議システムについての全員協議会勉強会を開催（６月） ・「子育ての孤立化」をテーマに、社会文教委員会が「課題共有型えんたく会議」を開催（７月） ・飯田市の総合計画「いいだ未来デザイン2028」に対する議会による行政評価・提言を行う（９月） ・議会報告・意見交換会を開催（10月　７会場で市民420人が参加） ・県知事と市長にリニア中央新幹線関連事業等により移転をお願いする皆さんに係る農振除外手続きに関する要望書を提出（12月）
令和３年 (2021年)	・第１回臨時会を開催し、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種事業など対策に関する補正予算等を審議（２月） ・全議員を対象としてペーパーレス会議システムの研修を実施（２月） ・第１回定例会からタブレット端末を活用した議案審議を試行的に開始（３月） ・議会、飯田商工会議所、飯田市行政の３者の共同声明として、「ゼロカーボンシティ宣言」を実施 ・市議会改選（４月25日執行、投票率 60.74％、議員23名うち新人９名） ・第２回臨時会において、井坪隆議長・山崎昌伸副議長を選出（５月） ・「南アルプスジオパーク」をテーマに議員研修を開催（６月）

年	議　会　の　動　き
令和３年 (2021年)	・新型コロナウイルス感染症デルタ株による急速な感染拡大を踏まえ、議会より市長に対して緊急提言を行う（８月） ・新型コロナウイルス感染症対策として、抗原定性検査（簡易キット）を活用した水際対策の有効性を伝え、全国的な展開とその支援を要望するため、国に対して意見書を提出（８月） ・飯田市の総合計画「いいだ未来デザイン2028」の中期４年間の内容の評価・検証を行い、評価・提言書として市長へ提出（９月） ・社会文教委員会が、日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科の宮國康弘氏を講師に、「フレイル予防対策とその評価について」学ぶ（10月）
令和４年 (2022年)	・飯伊市町村議会議員研修会を開催。同志社大学の新川達郎名誉教授を講師に、「大災害・感染症と議会」について学ぶ（１月） ・災害時や新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況にあっても議会機能を維持していくため、飯田市議会委員会条例や会議規則などの改正を行い、委員会等の会議におけるオンライン会議の実施を可能とした（２月） ・議会として「ロシアのウクライナに対する侵攻を非難する決議」を全会一致で可決。また、戦禍に見舞われたウクライナの人々を支援するため、市議会議員23人全員で、23万円をユニセフ（国連児童基金）に寄付をした（３月） ・「地方議会評価モデル」導入に伴うキックオフ講演会を実施。大正大学社会共生学部公共政策学科教授の江藤俊昭氏を講師に、「地域経営における議会の役割と地方議会評価モデル」について学ぶ（３月） ・４月から「地方議会成熟度評価モデル」の取り組みを開始。飯田市議会の役割（ミッション）や目指すべき姿（ビジョン）等を策定（令和５年３月） ・飯田市議会業務継続計画（議会ＢＣＰ）の策定（５月） ・契約に係る議会未提出案件及び職員の不適切な事務処理等に関する申入書を市長へ提出（６月） ・新たな広聴の場として「タウンミーティング」を開催（７月） ・「議会報告・意見交換会」をコロナ禍の状況を踏まえ、７ブロック14会場で開催（９月～10月） ・飯田市内を会場に、三遠南信地域市町村議会議長協議会及び道路建設促進議員協議会総会を開催（10月） ・請願・陳情の手引きを作成（11月） ・「リニア駅周辺整備事業土木実施設計に対する政策提言」を市長へ提出(11月) ・政治倫理に関する研修会の開催（12月）

年	議　会　の　動　き
令和５年 (2023年)	・「ジェンダー（社会的性別）について共に考える研修会」を下伊那郡町村議会議長会の共催、飯田商工会議所の協力により実施（１月） ・飯田市議会個人情報の保護に関する条例を制定（３月） ・飯田市議会会議規則及び飯田市議会議員の議員報酬の特例に関する条例を改正（本会議や委員会への欠席事由として育児、看護、介護等を明文化するとともに、出産について産前・産後期間に配慮した規定の整備）（３月） ・15年振りとなる水道料金の改定に伴う申し入れを議長から市長へ提出（４月） ・「オーケストラと友に音楽祭」の15回記念として、議場でのコンサートを開催（４月） ・第１回臨時会において、熊谷泰人議長・竹村圭史副議長を選出（５月） ・水道料金改定に関わる議案に関し、産業建設委員会で自由討議を実施後、附帯意見をつけて可決（６月） ・高校生を対象にタウンミーティングを開催（７月） ・議会出前講座を山本小学校（８月）と浜井場小学校（１月）で実施 ・「議会による行政評価」を実施。議長から市長に評価提言書を手交（９月） ・「議会報告・意見交換会」を全７日間・11会場で開催（10月） ・社会文教員委員会が「飯田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について」調査研究を行い、健康福祉部長へ政策提案書を提出（12月） ・「県施設の整理統合が続く中で、地域の振興に資する施設整備等を求める意見書」を長野県知事及び長野県議会議長へ提出（12月）
令和６年 (2024年)	・飯田市議会主催による「飯伊市町村議会議員研修」を開催。早稲田大学名誉教授、早稲田大学マニフェスト研究所顧問の北川正恭氏を講師に迎え、「2030年地方議会の展望」について学ぶ（１月） ・能登半島地震の被災地域へ、北信越市議会議長会を通じて義援金を送る（２月） ・住民自治を考える学習活動の一環として、「地域自治組織導入の経過と今日的課題について」をテーマに研究会を開催（５月） ・議会日程の見直しの試行開始（６月） ・羽場公民館「夏休みこども寺子屋」が飯田市議会へ訪問、主権者教育の一環として実施（７月） ・「後期計画に向けた提言書」及び「中期計画にかかる提言書」を市長に提出（９月） ・補欠選挙執行（10月20日）

年	議　会　の　動　き
令和６年 (2024年)	・陳情書の取扱いの基準について見直す「飯田市議会会議規則の一部を改正する規則」を制定し、併せて「飯田市議会陳情書の処理に関する規程」を制定（12月）
令和７年 (2025年)	・議会スローガンロゴデザイン決定（３月） ・これまで書面・対面に限定されていた手続の一部をオンライン化の対象とすること、及び承認制であった手続を許可制にすること等の見直しを行う「飯田市議会会議規則の一部を改正する規則」を制定（３月） ・刑法の改正、マイナンバー法の改正等による「飯田市議会個人情報の保護に関する条例の一部を改正する条例」を制定（３月） ・これまで議員が一律に制限されていた市の業務の請負について、一定の金額まで緩和されることに伴い、市民に対し、議会運営の公正性及び透明性を確保するため、議員と市との請負状況を公表する制度を設ける「飯田市議会議員の請負の状況の公表に関する条例」を制定（３月） ・令和７年度飯田市病院事業会計予算（案）に対する附帯決議（３月）

Ⅵ　参考資料

1　都市宣言

①　安全都市宣言

わが国における産業経済の成長と生活文化の向上は、近年著しいものがあり、わが飯田市も近代的生産都市として発展の一翼をにない、市勢も各方面にわたり伸展しつつある。反面、産業災害、交通事故、火災などの各種災害が多発し、日常生活をおびやかされていることは、憂慮にたえないところである。

もとより、災害を防止するための措置は、それぞれの分野において積極的に実施されているが、われわれはさらに進んで市民の生命尊重と、産業文化伸展の理念のもとに、各種の災害をより効果的に防止するため、飯田市各階層を一丸とする市民運動を強力に推進し市民の安全意識の高揚をはかることこそ緊要であると確信する。

われわれは、この際「国民安全の日」制定の意義に沿い、本市における産業・労働・交通・消防・教育・文化・婦人団体など各界の連携をはかり、市民生活のあらゆる面において安全を確保し、明るく住みよい都市建設を目指して、ここに飯田市を「安全都市」とすることを宣言する。

昭和36年６月26日

飯　田　市　議　会

②　明るい選挙都市宣言

民主政治の健全を期するためには、明るい選挙が行わなければならない。即ち、民主政治の基盤は選挙にある。

本市は、さきに公明選挙都市宣言をなし、これが運動を推進し、その実績をあげつつあるとはいえ、なお、遺憾な点なしとはいえない。

よって市民の代表である、本市議会はここに決意を新たにするとともに、市民の希望と熱意を結集し、これが現実を期するため、飯田市を「明るい選挙都市」とすることを宣言する。

昭和40年６月29日

昭和61年６月25日（一部変更）

飯　田　市　議　会

③　青色申告都市宣言

本市は自主申告納税の理想郷を実現するため、また市民が青色申告の本質を再認識して国民の基本的義務である納税についての思いを新たにし、かつ、その納税意欲の向上をはかって、社会経済の発展に貢献するとともに、市民相互の繁栄と幸福を築くため、ここに飯田市を「青色申告都市」とすることを宣言する。

昭和52年９月21日

飯　田　市　議　会

④　電波障害防止都市宣言

今日の情報化社会において、テレビ・ラジオは市民生活にとって不可欠のものとなっている。

しかるに、都市の近代化による高層建築物の増加、電気設備などの高度化は電波障害を誘発する要因となっている。

当市議会は、かつて昭和41年９月、他の市町村に先駆けて「電波無雑音都市宣言」を議決し、多大の成果を得て今日にいたっている。

今後、都市の近代化がさらに進む中で発生を免れない電波障害を一掃し、市民の快適な生活環境を築くため、その宣言の精神を一層敷延化して、ここに本市を電波障害防止都市とすることを宣言する。

昭和54年12月21日

飯　田　市　議　会

⑤　シートベルトヘルメット着用都市宣言

飯田市における交通事故は激増の一途をたどり、悲惨な事故のために多くの市民がその犠牲となっており、昭和56年度における人口１万人当りの事故率は55.3人で、県下17市中第１位という極めて憂慮される事態を迎え、事故絶滅は現下の緊急課題である。

交通事故の実態を見ると、シートベルト並びにヘルメットの着用は被害の防止、軽減を図る上で大きな効果が認められているが、その着用率は未だ十分といえない状況である。　交通量の増加に伴い、ますます交通事故の危険が迫る現状にかんがみ、運転者のなお一層の交通安全意識を高めるため、ここに「シートベルト並びにヘルメットの着用」を宣言する。

昭和57年12月21日

飯　田　市　議　会

⑥　非核平和都市宣言

世界の恒久平和は、人類共通の願望である。

しかるに、米・ソ超核大国による核軍拡競争は拡大均衡をめざすという口実でますます激化し、世界の平和と安全に重大な脅威と危機をもたらしている。

わが国は、世界唯一の核被爆国としてこの地球上に広島、長崎の惨禍を再びくりかえしてはならないと訴えるものである。

飯田市は、平和憲法の精神にのっとり、「非核三原則」を将来ともに尊重し、あらゆる国のあらゆる核兵器の廃絶を全世界に強く訴え、核兵器の全面撤廃と軍縮を推進し、もって世界の恒久平和達成をめざすものである。

ここに、飯田市を「非核平和都市」とすることを宣言する。

昭和59年６月28日

飯　田　市　議　会

⑦　振替納税推進都市宣言

期限内完納の思想の高揚をはかるため、市民が振替納税の本質を理解して国民の基本的義務である納税意識が向上し、社会経済の発展と市民相互の繁栄に貢献することを願い、ここに飯田市を「振替納税推進都市」とすることを宣言する。

昭和60年６月29日

飯　田　市　議　会

⑧　暴力団追放都市宣言

飯田市は、美しい自然と長い歴史と伝統文化につつまれた人情豊かなまちとして、平和で明るく住みよいまちづくりに積極的に取り組んでいるところである。

しかしながら、暴力団による不法行為は増加の一途を辿り、暴力団同志によるけん銃発砲事件も発生し、善良な市民生活が脅かされるなど、美しい郷土のイメージが損なわれことは、まことに遺憾であり、強い憤りを感じるものである。

善良な市民の平穏な日常生活と安全を守る立場から全市民の総意を結集し、暴力を是認しない地域づくりにつとめ、すべての暴力の根絶を図らなければならない。

よって、本市議会は、犯罪のない平和な住みよい郷土の建設をめざし、暴力行為を壊滅し、すべての暴力団を追放するため、ここに飯田市を「暴力団追放都市」とすることを宣言する。

昭和61年12月22日

飯　田　市　議　会

⑨　人権尊重都市宣言

私たちは、だれもが人間らしく幸福に生きる権利を有し、だれからも尊重され、親しまれ、愛されながら豊かに暮らすことを求めています。そして、美しい自然と同様に、だれ隔てなく接する思いやりのある美しい心を持つ市民が明るく生活するまちちを目指して努力しています。

しかし、大変残念なことに、現実には偏見による差別など様々な人権侵害が存在しています。このことは、早急に解決しなければならない重要な課題です。

よって、私たちは基本的人権を正しく理解し、尊重し、人権擁護の良き実践者となるとともに、善意を広め、互いに励まし合い、手を取り合ってあらゆる人権侵害を根絶することを誓うため、ここに飯田市を「人権尊重都市」とすることを宣言します。

平成８年６月24日

飯　田　市　議　会

⑩　環境文化都市宣言

私たち飯田市民は、地球環境問題が人類共通の課題であることに着目し、人と自然のかかわりを見つめ直して、日々の生活から産業活動まですべての営みが自然と調和するまちづくりに、先駆的に取り組んできました。

自然環境や生活環境などを取り巻く状況が厳しさの度を増している今日、「持続可能性」と「循環」を基本にして自分たちのライフスタイルから社会の有り様に至るまでをあらためて見直し、「環境に配慮」する日常の活動を「環境を優先」する段階へと発展させながら、新たな価値観や文化の創造へと高めていく必要があります。

私たちは、かけがえのない地球にある生態系の中で自然と共生する地球市民の一員としての原点に立ち返り、先人から受け継いだ美しい自然環境と多様で豊かな文化を活かしながら、市民、事業者、行政など多様な主体の積極的な参加と行動とによって人も自然も輝く個性ある飯田市を築くことを誓い、ここに「環境文化都市」を宣言します。

平成19年３月23日

飯　田　市　議　会

２　市政提携に関する覚書

長野県飯田市（以下「甲」という）と岡山県津山市（以下「乙」という）は、市政執行の面において相互に啓発し、いっそう市政の伸展と住民福祉の向上を期するため、緊密に提携することを協定し、当面、この目的達成のため、次の事項を実行することを確認する。

記

１　この目的達成のため、甲、乙において作成したあらゆる行政事務資料で、相手方の参考になると考えられるものは、相互に送付するものとする。この場合は窓口は、総務課扱いとする。

２　甲、乙は、必要に応じて協議の上、相互に研修のため職員を派遣することができる。この派遣職員の滞在に要する経費は、それぞれ派遣する側の負担とする。ただし、執務に要する事務的経費は、委託を受けた側が負担する。

３　この協定書以外の特別な事項で必要があると認めるときは、その都度双方協議のうえ、決定する。

以上この協定を証するため、覚書２通を作成し、甲・乙各１通を保有する。

昭和４４年３月２５日

甲　　飯田市長　　清　水　重　美

乙　　津山市長　　生　末　敏　夫

３　友好都市締結

盟　　約　　書

日本国長野県飯田市とフランス共和国アルデンヌ県シャルルヴィル・メジェール市は、共に古きよき伝統を有し、人形劇芸術において重要な役割を果たしつつある。

両市の市民と市民が構成するさまざまな組織間の相互理解と友情を深めることにより、日本国とフランス共和国の親善を促進し、世界の平和に貢献することを希求し、ここに両市が友好都市として提携することを盟約する。

昭和６３年８月５日

日本国　長野県
飯田市
市　長　松　澤　太　郎

フランス共和国アルデンヌ県
シャルルヴィル・メジェール市
市　長　ロジェ・マス

4　飯田市の主要年表

年　月	事　　項
昭和12．4	飯田・上飯田町合併　飯田市誕生　人口31,289人
5	第１回市議会議員選挙
6	飯田市初議会で、市長に野原文四郎氏を推挙
14．11	市瀬泰一氏第２代目市長に就任
17．5	市議選翼賛選挙で無投票当選
18．8	伊那電鉄など飯田線となる
19．12	県立飯田保健所開所
21．4	戦後初の衆議院選挙　飯田市の人口33,772人
7	飯田駅前大火
22．4	公選による知事、市長選。高田茂氏当選　第４代目市長に
4	飯田市大火　市街地の３分の２を焼失
23．3	飯田市消防本部、消防署発足
26．12	飯田市立病院開院
28．11	りんご並木の植付始まる
29．4	飯田長姫高校全国高校野球選抜大会で優勝
10	飯田市公民館、復興記念館開館
30．4	市長選に松井卓治氏当選、第５代目市長に就任
31．9	飯田市、座光寺村、松尾村、竜丘村、三穂村、伊賀良村、山本村、下久堅村が合併、新飯田市発足
31．10	合併初の市議会　飯田市公民館で開催、議員数145名 合併後の市長選　松井卓治氏無投票当選
32．4	松井市長、鼎町と上郷村へ合併を申入れる
34．7	飯田市下水処理場供用開始。県下初、全国で６番目
35．7	飯田市民プール完成
36．3	川路村を合併
6	梅雨前線豪雨伊那谷を襲う　死者11人　行方不明５人
37．10	建設大臣伊那谷の災害地を視察
11	飯田市役所新庁舎落成
38．10	低開発地域工業開発地区に指定される
12	りんご並木後援会発足
39．3	龍江村、千代村、上久堅村を合併
40．7	市立病院新館落成
9	組合立、飯田衛生センター落成
12	老人ホーム川路寮開設
41．1	市議会、地財法準用を議決
10	中央自動車道杭打式（今宮球場附近）

年　月	事　　項
昭和42. 5	飯田勤労者福祉センター開館
9	飯田市議会　財政再建のため議員報酬５割削減可決
11	りんご並木15周年記念式典を行う
11	市制施行30周年記念式典を行う
43. 4	飯田市・鼎町・上郷村消防組合発足
5	りんご並木、ＮＨＫ総合テレビで放映される
8	飯田市・鼎町・上郷村下水道組合発足
10	市長選に清水重美氏当選　第６代目市長に
44. 3	岡山県津山市と市政業務提携
8	36年災害復旧状況視察のため皇太子御夫妻来飯
11	飯伊地域広域行政市町村圏協議会設立
45. 2	飯田市・鼎町・上郷村上下水道組合発足
11	大平部落解散式
11	飯田卸売団地開設
46. 3	飯田・鼎・上郷消防組合発足
6	名誉市民日夏耿之介氏死去　行年81才
6	市議会、生活改善推進を議決
8	りんご並木の碑除幕式
47. 4	飯田文化会館竣工
10	市長選に松澤太郎氏当選　第７代目市長に
49. 3	飯田市農業協同組合発足
5	松川ダム完成、妙琴浄水場通水式
50. 1	飯田中央農業協同組合発足
6	飯伊特別養護老人ホーム「飯田荘」完成
8	中央自動車道西の宮線開通（中津川ー駒ヶ根間）
51. 2	鼎町・上郷町へ合併の申し入れをする
3	市議会議員定数を30人に削減
10	松尾終末処理場供用開始
11	飯田市公民館竣工
52. 5	飯田市総合運動場、勤労者体育センター完成
6	市民憲章制定
53. 10	第33回国民体育大会「やまびこ国体」開催（ラグビー会場）
12	飯田市基本構想、基本計画策定
54. 7	飯伊モデル定住圏地域の指定を受ける
8	人形劇カーニバル始まる
12	飯田市墓地霊園、桐林に完成

年　月	事　　項
昭和55. 3	市営弓道場移転完成
4	橋北コミュニティ防災センター完成
56. 4	飯田地区広域消防組合発足（松川町・喬木村・大鹿村・豊丘村・高森町・清内路村・阿智村が加入）
9	鼎町早期に合併したいとの回答
57. 3	飯田市武道館完成
7	上郷町に再度合併の要請
8	飯田まつりに新曲「りんごん」を踊る
11	中央自動車道西宮線全線開通
12	飯田市・鼎町両議会合併協議会設置を可決
58. 1	第１回飯田市・鼎町合併協議会開かれる
3	飯田市保健センター完成
9	台風10号大きな被害を受ける
59. 2	座光寺小学校完成
3	橋南にコミュニティ防災センター完成
	龍江公民館、支所完成
8	飯田市と鼎町との合併調印式
12	鼎町と合併
60. 3	天竜川治水基本協定の調印
4	旭ヶ丘中学校の開校
4	鼎町と合併後初の市議選
5	「三遠南信道路」３県レベル同盟会の設立
10	「美術博物館」基本構想委員会発足
61. 3	座光寺公民館・支所完成
8	人形劇アジア会議開催
10	飯田消防署新庁舎完成
12	北方地区土地区画整理事業着工
62. 1	飯田市立病院新副院長人事発令
2	飯田工業技術センター完成
3	イタチガ沢埋立地完成
	丸山地区土地区画整理事業着工
4	飯田コンピュータ専門学校開校
8	飯田市子ども議会開催
10	市制施行50周年記念式典
11	りんご並木へニュートンのりんごの木、国道153号線バイパスへりんご植付
12	飯田市基本構想、基本計画策定

年　月	事　　項
昭和63．３	市道知久町中村線・国道153号線バイパス第１工区竣工
６	飯田市・上郷町両議会合併協議会設置可決
７	第１回飯田市・上郷町合併協議会開かれる
	人形とけい塔ハミングパル並木通りに設置
８	シャルルビル・メジェール市と友好都市提携　飯田人形劇場開館
	世界人形劇フェスティバル開催
10	飯田市美術博物館10月１日落成式
	市長選に田中秀典氏当選　第８代目市長に
平成元．３	飯田衛生施設組合 桐林クリーンセンター完成
	飯田運動公園県営飯田野球場完成
６	桐林運動広場完成
８	アフィニスセミナー開催
	山梨リニア実験線、建設正式決定
	三遠南信自動車道、程野・飯田東ＩＣ間のルート公表
１．９	伊那谷高速交通フェア開催
	第２．４土曜日の閉庁実施
10	飯田市美術博物館開館
11	飯田市立病院、総合病院となる
12	飯田勤労者総合福祉センター完成
２．３	松尾公民館・支所完成
４	名勝天竜峡温泉利用開始
８	新病院本体建設着工
11	新し尿処理場着工
12	県議定数（飯田地区）２人から３人に
３．１	市営駐車場30分無料化
２	テレトピアモデル都市に指定
３	千代診療所完成
７	飯田市斎苑完成、動物炉が新設される
９	今田人形座が仏国で開催の人形劇世界フェスに出演
10	飯田工業高校跡地一帯が建設省「平成記念子供のもり公園」に指定される
12	飯田農協と飯田中央農協が合併「信州いいだ農協」が誕生
４．２	天竜川治水対策事業起工式が行われる
３	飯田市で初の「かなえデイサービスセンター」完成
	国道153号線バイパス第２工区と飯田下山線開通
	飯田運動公園弓道場竣工

年　月	事　　項
平成４．３	飯田市有線放送局閉局
4	オフトーク通信事業開始
	かなえデイサービスセンター開所
	飯田ふれあい農園開園
6	オフトーク通信による議会本会議生中継開始
	緑ヶ丘中学校プール完成
7	新し尿処理場「飯田竜水園」運転開始
	伊賀良「育良町」誕生
9	新市立病院竣工式
10	国道153号線バイパス新市立病院まで開通
	新市立病院開院（外来診療開始）
12	飯田市・上郷町合併調印式
	飯伊地域が地方拠点都市第一次指定される
５．１	地方拠点都市整備計画策定室設置
2	丸山羽場第２地区区画整理事業起工式
3	男女共同参画型社会をめざして「信州飯田女性プラン」（女性行動計画）まとまる
	上久堅福祉企業センター竣工
4	市役所の業務が毎週土曜日閉庁となる
6	飯田駅前にアイパーク竣工
7	上郷町と合併し、人口が106千人となる
8	人形劇カーニバル15周年を迎える
	アフィニスセミナー５周年を迎える
10	飯田のシンボル「りんご並木」が40周年を迎える
	浜松市のフルーツパークに飯田のりんごの苗木が植樹される
	また両市の美術館で所蔵品の交換展を開催
	特別養護老人ホーム第二飯田荘が開所
12	飯伊地方拠点都市地域基本計画が知事承認を受ける
６．２	三遠南信地域の振興を考える「三遠南信サミット」が浜松で開かれる
	天竜川治水対策事業、龍江側で盛土工事本格着工
3	三遠南信自動車道「矢筈トンネル」供用開始
	山本公民館、支所竣工
4	今田人形の館竣工
	飯伊広域行政組合発足
	オフトーク通信事業の放送業務を民間委託
6	ゆとり宣言都市指定モニュメント「ゆとり創造の樹」完成

年　月	事　　項
平成６．９	飯田市議長が友好都市フランスのシャルルヴィル・メジェール市を訪問
10	飯田市議会だより100号記念発行
	飯田市総合運動場全面改修工事竣工
12	国土利用計画（飯田市計画）策定議決
７．２	中心市街地から「西友」撤退
	阪神大震災被災地へ支援
	飯田市下水道整備計画策定
４	北部・竜東デイサービスセンター開所
	天竜峡活性化センター「あざれあ」開館
７	飯田運動公園プール「アクアパーク　ＩＩＤＡ」竣工
	飯田市立病院に併設の伝染病棟隔離病舎（飯伊広域行政組合）供用開始
８	戦後50年平和祈念事業を開催（８～11月）
10	「三遠南信サミット＆シンポジウムｉｎ飯田」開催
	第41回風越登山マラソン開催（７年ぶりに復活）
12	飯田市議会12月定例会で条例定数は現行31人で議決
	飯田農業振興地域整備計画を変更、都市計画の用途地域も変更
８．２	天竜川治水対策事業、川路、竜丘側築堤工事起工式
	市民構成劇「かざこし姫となかまたち」上演
３	市議会本会議で「飯田市部等設置条例の一部を改正する条例の規定について」否決
４	飯田市農政プラン策定
	第４次基本構想・基本計画「環境文化都市をめざして」策定
	飯田市工業振興マスタープラン策定
	飯田やまびこマーチ10周年
５	矢高共同調理場竣工
６	人権尊重都市宣言
	「飯田市部等設置条例の一部を改正する条例の規定について」可決
７	市役所組織機構改革が実施される（７月１日より）
12	さんとぴあ飯田竣工
	信州飯田ふるさと大使館開館
	２１’いいだ環境プラン策定
９．２	ハートヒル川路竣工
４	市制施行60周年
５	市議会改選
５	市誌編さん委員会誕生
７	太陽光発電に無利子融資

年　月	事　　項
平成９．７	エコタウン地域に指定される
8	全国夏期巡回ラジオ体操会
10	世界地方都市十字路会議
12	ＪＡみなみ信州発足
平成10．２	市民バス運行開始
2	長野オリンピック冬季競技大会開催
3	長野パラリンピック冬季競技大会開催、飯田市より２人参加
3	議員の各種審議会報酬辞退を全会一致で可決
4	天竜川治水対策・龍江側工事完成
6	飯田市役所ISO14001を取得する方針決定
	第１回飯田市藤本四八写真文化賞
	（芳賀日出男さん、宮島功さん、南島孝さん受賞）
8	第20回人形劇カーニバル
	（20回を記念して世界人形劇フェステバル開催）
	第10回アフィニス夏の音楽祭ロストロ・ポーブィチ氏を迎え開催
平成11．３	市議会「政策調査研究部会」報告（農業振興・交通施策・観光施策３部会の平成９年・10年度の２カ年の研究報告）
	病院問題特別委員会審査終了
	飯田工業技術研修施設・EMCセンターオープン
	りんご並木リニューアル
4	飯伊広域行政組合を継承、発展する形で南信州広域連合設立
7	よこね田んぼ「日本の棚田100選」に選ばれる
12	ごみ処理費用負担制度開始
平成12．１	ＩＳＯ14001認証取得
3	市議会「政策調査研究部会」報告（地方分権・ＩＳＯ・工業振興３部会の平成12年度の１カ年の研究報告）
4	介護保険制度がスタート
7	丸山羽場地区区画整理事業第１地区完成
10	三遠南信パテントメッセ・EMCシンポジウムと工業技術交流相次ぐ
平成13．１	観測開始以来の大雪に見舞われ市民生活に大きな影響が出る
3	政務調査費の交付に関する条例の制定
4	市議会改選
7	橋南第１地区再開発ビル「トップヒルズ本町」完成
8	地域交流センター「りんご庁舎」オープン
10	いいだＦＭ開局
11	りんご並木「かおり風景100選」に選ばれる

年　月	事　　項
平成14. 4	平成記念かざこし子どもの森公園開園
9	天竜川治水対策事業完成
10	菱田春草作「菊慈童」を購入
平成15. 1	IS014001自己適合宣言
3	市議会「在り方研究会」「合併問題調査研究会」報告(半年間の研究報告)
	「環境首都コンテスト」人口規模別第１位、総合第４位
5	南信州グリーンツーリズム特区取得
8	飯田市・喬木村・上村・南信濃村の４市村、任意合併協議会設立
10	りんご並木５０周年記念事業
12	飯田市歴史研究所オープン
平成16. 1	橋南第２地区市街地再開発ビル着工
2	第１回ほんもの体験フォーラムin南信州の開催
3	オーライ！ニッポン大賞グランプリ内閣総理大臣賞受賞
3	飯田お練りまつり盛大に開催
5	「わがまちの"憲法"を考える市民会議」の発足
5	第12回環境自治体会議「いいだ会議」開催
6	自治体環境グランプリ環境大臣賞受賞
7	市立病院が地域医療支援病院として県から承認を受ける
10	飯田市長選で、牧野光朗新市長誕生
平成17. 4	地域経済活性化プログラム2005を策定、農業課と農業委員会の事務所移転
6	国際自転車レース「第９回ツアー･オブ･ジャパン南信州ステージ」を開催
7	高校統廃合問題に関連し、鼎公民館で「高校改革シンポジウム」を開催
10	上村及び南信濃村と合併
10	日独地域国際化サミットを飯田市で開催
平成18. 4	飯田やまびこマーチ20回記念大会
	結いターンキャリアデザイン室を設置
6	一般廃棄物最終処分場（千代地区）の建設工事開始
9	飯田市自治基本条例の制定
10	橋南第二地区市街地再開発ビル　トップヒルズ第二オープン
平成19. 3	第５次基本構想基本計画と環境文化都市宣言を可決
	川本喜八郎人形美術館オープン
	市制70周年記念式典を開催
4	飯田市自治基本条例､地域自治区､第５次基本構想基本計画､総合的土地利用計画､行財政改革大綱など地域の自立に向けた新しい枠組みスタート
	全国さくらシンポジウムin飯田開催
11	南信濃地域交流センター完成

年　月	事　　項
平成19. 11	市議会が、「第２回マニフェスト大賞審査委員会特別賞」を受賞
	飯田市自治基本条例の制定の取り組みが評価される
平成20. 4	三遠南信自動車道飯喬道路１工区（飯田山本IC～天竜峡IC）が供用開始
6	天龍峡再生元年として天龍峡百年再生館オープン
7	市政懇談会に合わせて、初の議会活動報告会を市内20地区で開催
8	北京オリンピックに、飯田市出身初の選手として矢澤一輝選手がカヌースラローム競技に出場
	人形劇のまち30年を記念して「世界人形劇フェスティバル・いいだ人形劇フェスタ2008」を開催
	アフィニス夏の音楽祭が20回をもって終了
9	市議会による行政評価が初めて行われ「施策及び事務事業に対する提言書」を市長に提出
10	飯田市・南信州広域連合・みなみ信州農協が共同で運営するマーケティングショップ「南信州ファームプロダクツマーケット」を名古屋市内にオープン、地元の旬の農産物の販売や地域への産地ツアーを企画
11	市内を６ブロックに分け、２回目の議会報告会を開催、市民487名が参加
平成21. 1	飯田市が内閣府から環境モデル都市に選定
3	グリーンバレー千代（最終処分場）竣工
4	市内の商工会議所、商工会が統合され新しい飯田商工会議所が誕生
5	オーケストラと友に音楽祭開催
7	飯田下伊那市町村による定住自立圏形成協定書の合同調印式
8	市企画部内に「リニア推進対策室」が設置される
10	飯田北部地区の農免道路が開通（上郷丹保地区～高森町下市田地区）
	低炭素社会実現に向け「レンタサイクル事業」開始
11	新型インフルエンザが流行
平成22. 2	メガソーラーいいだ太陽光発電所　飯田市と中部電力㈱で共同建設することについて協定を締結
3	飯田お練りまつり　約32万人　42団体が参加
4	リニア中央新幹線推進本部設置（市役所内）
5	介護保健施設ゆうゆう　竣工
6	日本の環境首都コンテスト2009（第9回）で飯田市が総合2位（昨年3位）
7	集中豪雨による土砂災害（南信濃で昭和58年に次ぐ観測史上2番目となる223mmの降水量　土砂崩れや建物の全壊、床下浸水などの被害）
9	天龍峡盆踊りが25年ぶりに復活
10	定住自立圏全国市町村長サミット2010in南信州が開催
平成23. 1	メガソーラーいいだ太陽光発電所　運用開始

年　月	事　　項
平成23. 1	飯田大学連携会議「学輪IIDA」の設立
3	東日本大震災発生。避難者の受け入れ
3	飯田市美術博物館デジタルプラネタリウムを導入
5	国土交通大臣が全国新幹線鉄道整備法に基づき、 リニア中央新幹線の整備計画を決定
平成23. 6	三六災害から50年。三六災害50年シンポジウム開催
	日本の環境首都コンテストで「明日の環境首都賞」を受賞
9	フランス　シャルルヴィル・メジェール市に「飯田通り」誕生
9	菱田春草没後百年　飯田市美術博物館で「没後百年記念特別展」開催
12	第５次飯田市基本構想後期基本計画策定
平成24. 4	飯田市立動物園リニューアルオープン（ちびっこランド） ８月にはペンギン舎、10月にはコンドル舎がリニューアル
5	エコハウスがＪＩＡ環境建築賞住宅部門で優秀賞を受賞
7	第10回スローライフまちづくり全国都市会議（ｽﾛｰﾗｲﾌｻﾐｯﾄ）開催
8	ロンドンオリンピックに、飯田市出身の矢澤一輝選手がカヌースラローム 男子カヤックシングルで、北京大会に続き出場
11	市議会が、第７回マニフェスト大賞地方議会部門最優秀成果賞受賞 議会による行政評価及び議会報告会の実施が評価される
平成25. 3	東和町交差点を周辺の改良工事にあわせ、全国で初めて信号機付交差点からラウンドアバウト方式に変更して整備
4	「地域環境権」をうたう飯田市再生可能エネルギーの導入による持続可能な地域づくりに関する条例が施行
4	市役所新庁舎建設工事着工
8	人形劇フェスタ15周年を記念しアジア人形劇フェスティバルを開催
9	リニア中央新幹線のルート及び飯田市内への駅設置の決定が発表される
平成26. 2	観測史上最多の積雪深81ｃｍを記録　中央自動車道の通行止め、農業生産施設の被害等市民生活に多大な影響を及ぼす
3	恒川官衙遺跡（座光寺地区）が、国史跡に指定される 飯田市立病院周産期センター、がん診療･緩和ケアセンター竣工
6	南アルプス（飯田市では上村､南信濃地区）がユネスコエコパークに登録される
10	航空宇宙産業クラスター拠点工場完成 リニア中央新幹線（品川･名古屋間）の工事実施計画が認可される
12	市役所新庁舎完成
平成27. 1	市役所新庁舎開庁し業務を開始
2	長野県内初の左右対面式議席の新たな議場で初めての市議会定例会を開催）

年　月	事　　項
3	菱田春草生誕140周年記念事業が行われる、菱田春草生誕地公園が仲ノ町に完成、美術博物館では菱田春草の特別展、ワークショップ、シンポジウム等を開催
4	パスポート窓口を市役所庁舎内に開設
4	リニア中央新幹線中心線測量開始
7	こども家庭応援センター「ゆいきっず」が開所
9	飯田市長、市議会議長が友好都市フランスのシャルルビル・メジェール市を訪問し、ＡＶＩＡＭＡ（人形劇の友・友好都市国際協会）総会を招致、平成30年に飯田市で開催されることが決定
10	マイナンバー制度が始まる
10	国道152号小道木バイパスが開通
平成28. 3	数えで７年に１度の飯田お練りまつりが開催され、３５万の人出で賑わう
4	教育長に代田昭久教育長が就任
4	高校生世代までの医療費が無料に（年度末年齢18歳以下の子ども）
5	飯田市リニア関連事業現地事務所（相談窓口）を上郷飯沼に設置
6	農地転用許可が市に権限移譲（６月１日付で指定市町村に指定）
7	「市田柿」が地理的表示（ＧＩ）保護制度に県内で初めて登録される
9	飯田産の地酒および果実飲料で乾杯する条例を市議会が提案し制定
10	飯田古墳群が国史跡指定、恒川官衙遺跡が追加指定
10	52年ぶり2期連続無投票で牧野光朗市長が当選。4期目の市政をスタート
11	市役所庁舎整備事業が全て完了（平成25年4月着工）
11	天皇皇后両陛下が私的御旅行のため飯田下伊那地域をご訪問（天龍峡、りんご並木、阿智村 満蒙開拓平和記念館）
12	「地域ぐるみ環境ＩＳＯ研究会」設立２０周年記念
平成29. 4	飯田市総合計画「いいだ未来デザイン２０２８」スタート
4	旧飯田工業高校施設を活用した「産業振興と人材育成の拠点」において、信州大学航空機システム共同研究講座が開講される
4	天龍峡温泉交流館リニューアルオープン
5	上郷北条地区のリニア駅予定地への幅杭設置が開始される
6	「信州・伊那谷(ローカル)の個性で世界(グローバル)を惹きつけ、世界へ発信する玄関口(ゲートウェイ)」を基本理念としたリニア駅周辺整備基本計画が策定される
8	市制施行80周年記念事業としてタイムカプセルを掘り起こし
9	飯田市美術博物館で菱田春草記念常設展示がスタート
10	市制施行80周年記念式典が開催される
12	南信州広域連合稲葉クリーンセンター竣工(燃やすごみの処理が桐林クリーンセンターから移行)

年　月	事　　項
平成30．2	市内で最初のリニア工事（中央アルプストンネル松川工区）が着工
3	三遠南信自動車道飯喬道路の龍江～上久堅間が開通
3	飯田市立病院に放射線治療専門棟（リニアック棟）が竣工し、新たに導入したがん放射線治療装置（リニアック）が稼働
4	上村小学校が小規模特認校に認定され、区域外からの児童の通学が始まる
8	満18歳までの子どもの医療費の窓口無料化を開始
8	新人形とけい塔「ハミングパル」が完成
8	世界人形劇フェスティバル開催 （いいだ人形劇フェスタ20周年・前身の人形劇カーニバル飯田から40周年）
8	ＡＶＩＡＭＡ（人形劇の友・友好都市国際協会）総会を飯田市で初開催
8	シャルルヴィル・メジェール市との友好都市提携30周年を記念して、「シャルルヴィル・メジェール通り」命名式等の記念式典を開催
10	吾妻町と東和町の２つのランドアバウトが2018年度グッドデザイン賞を受賞
11	特養飯田荘が「ゆとぴいいだ」としてリニューアルオープン
平成31．1 (2019)	南信州広域連合が座光寺の旧飯田工業高校施設を改修・整備し、公益財団法人南信州・飯田産業センターが指定管理者となった、産業振興と人材育成の拠点「エス・バード」が開所　３月にオープニングイベントを開催
2	下久堅ふれあい交流館が完成
3	上郷自治振興センター・保健センターが完成
令和元．7	美術博物館開館30周年　自然・文化展示室がリニューアル
(2019) 9	市長ほか関係者がシャルルヴィル・メジェール市を訪問し、AVIAMA総会に出席 リニア駅周辺整備基本設計（案）が公表 災害時の相互応援協定に基づき台風第15号の被災地である千葉県君津市に災害支援を実施
10	飯田市総合運動場がリニューアルオープン 消費税率の引上げにともない飯田市プレミアム付き商品券の販売事業を実施
11	三遠南信自動車道天龍峡ＩＣ・千代ＩＣ・龍江ＩＣが開通 「そらさんぽ天龍峡」「よって館天龍峡」を整備 台風第19号の県内被災地に対して災害支援を実施
令和２．2	飯田市新型コロナウイルス感染症対策本部の設置
(2020) 3	都市計画道路羽場大瀬木線（切石～北方工区）の開通
5	地域外来・検査センター開所（新型コロナウイルス感染症の検査体制の充実）
7	梅雨前線の停滞による豪雨災害（累積で飯田地域に600㎜以上、南信濃地区に80

		0mm以上の降雨量　土砂崩れや住宅の半壊、床下浸水などの被害）
	9	市内全小中学生（約8,000名）に学習者用パソコン貸与
	10	市長選に佐藤健氏当選　第10代目市長に
		リニア事業関連による丹保・北条地区代替地の分譲開始
令和３．	1	ＥＶ（電気）バス運行実証開始
	3	2050年いいだゼロカーボンシティ宣言
		座光寺スマートインターチェンジの供用開始
	9	リニア中央新幹線　中央アルプストンネル松川工区で作業用トンネル掘削開始
	10	菱田春草没後110年特別展開催
令和４．	4	教育長に熊谷邦千加教育長が就任
		恒川史跡公園「清水エリア」供用開始
		橋南公民館がりんご庁舎に移転
	5	丘の上結いスクエア内にムトスぷらざがオープン
	6	新文化会館整備検討委員会発足
	8	リニア中央新幹線 中央アルプストンネル松川工区本線トンネル掘削工事開始
	10	マイナンバーカードによるコンビニ交付を開始
	11	脱炭素先行地域に選定
	12	リニア中央新幹線「長野県駅（仮称）」起工式が行われる
令和５．	2	信州ガス㈱と「飯田市地域見守り活動に関する協定」を締結
	3	中部電力㈱と「脱炭素先行地域の構築に係る基本協定」を締結
	4	信州大学ランドスケープ・プランニング共同研究講座を開講
	5	飯田市立動物園70周年記念式典を行う
		三遠南信自動車道青崩峠トンネル（仮称）貫通
	8	JR飯田駅開業100周年記念式典を行う
		リニア中央新幹線 風越山トンネル黒田工区非常口トンネル掘削工事開始
	9	りんご並木70周年記念式典を行う
	11	南信州ナンバープレートの図柄を住民投票で決定
令和６．	2	飯田市 WEB 口座振替受付サービスを開始
		歴史研究所設立20周年ワークショップを開催
	3	千代と南信濃を結ぶ林道千遠線が全線開通
		新文化会館基本構想がまとまる
	8	ほっ湯アップル開館25周年イベントを開催
	10	風越山トレイルマラソン大会が70回目を迎える
		市長選に佐藤健氏当選
		旧小笠原書院築400周年記念式典を開催

飯田市市歌

堀内　敬三　作曲
宮脇　至　作詞
西條　八十　補

一、山はアルプス赤石の
峯にかがやくしらゆきを
高き心のすがたとあおぎ
かける理想よ我らが飯田

二、谷は伊那谷天竜の
あぐるしぶきにたつ虹を
清き命の泉となして
希望もえたつ我らが飯田

三、南信濃に伝統の
文化花咲く美し町
協す力にいぶきも新た
のびよ久遠に我らが飯田

飯田市歌

犬塚　利国　作詞
飯田　景応　編曲

一、山紫に　水明らかに
生業栄え　人皆和して
希望の光　遍く充てり
げに飯田市の　輝く天地

二、南信濃の　陽は照り映えて
四季行楽に　名を負うところ
観光都市の　誉れも添ひて
げに飯田市の　輝く前途

三、落葉に残す　千古の偉業
烈婦偲ぶ　不断の煙り
大儒の松風　今なお高し
げに飯田市の　輝く誇り

四、ああ天恵に　幸負う我等
協同進取の　旗なびかせて
目指すは彼方　久遠の理想
げに飯田市の　輝く使命

飯田市議会要覧　令和７年度版

発　行　日　　令和７年６月発行

編集・発行　　飯田市議会事務局
〒395-8501　長野県飯田市大久保町2534番地
TEL　0265-22-4523（直通）
　　0265-22-4511（代表　内線5611）
FAX　0265-53-8821
E-mail　igikai@city.iida.nagano.jp
URL　https://www.city.iida.lg.jp/